

性女のスチ

367.23

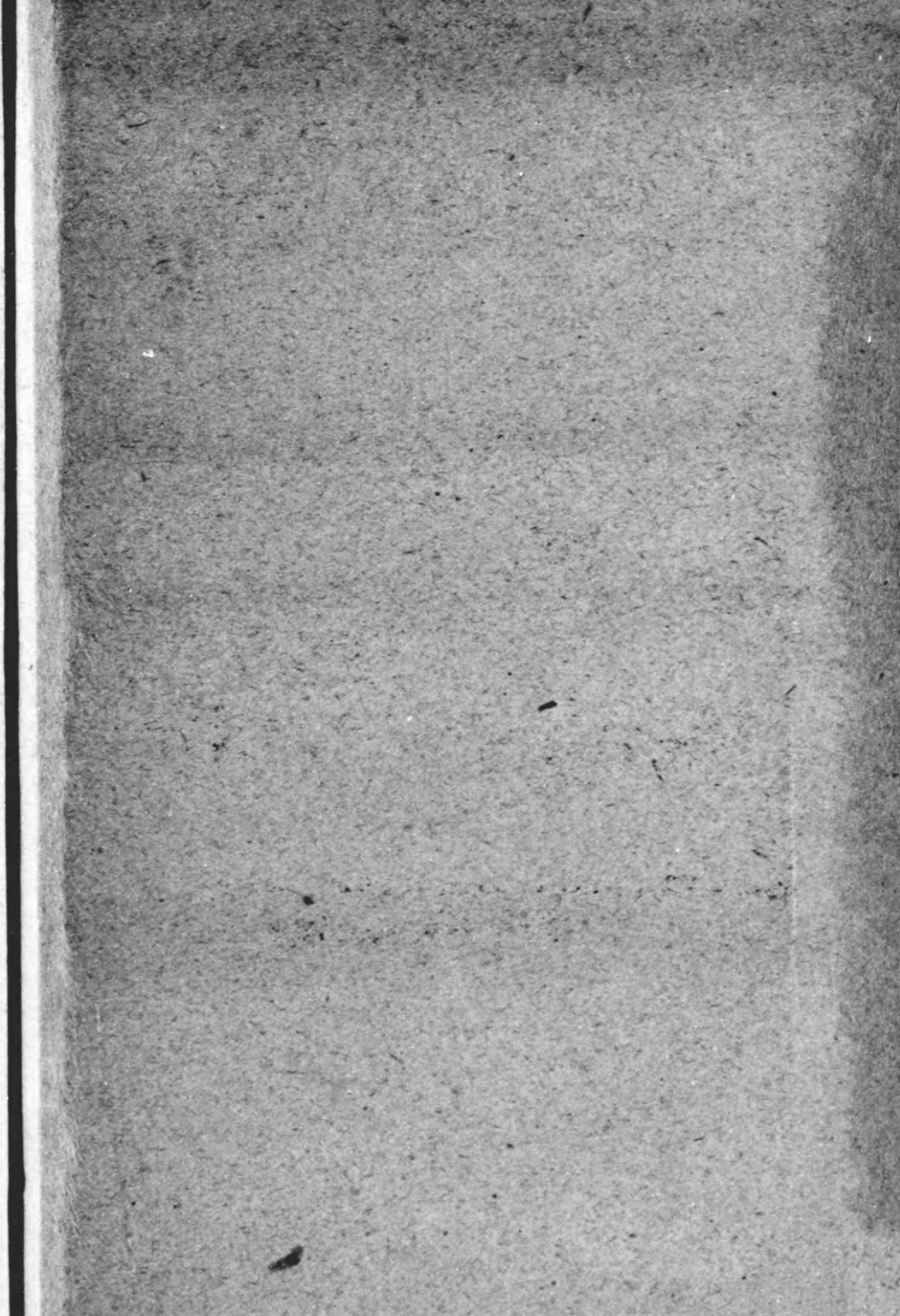
H42

長 校 學 女 華 館

著 藏 繁 野 多 波



行 發 社 硯 紙 京 東



H 42

⑤

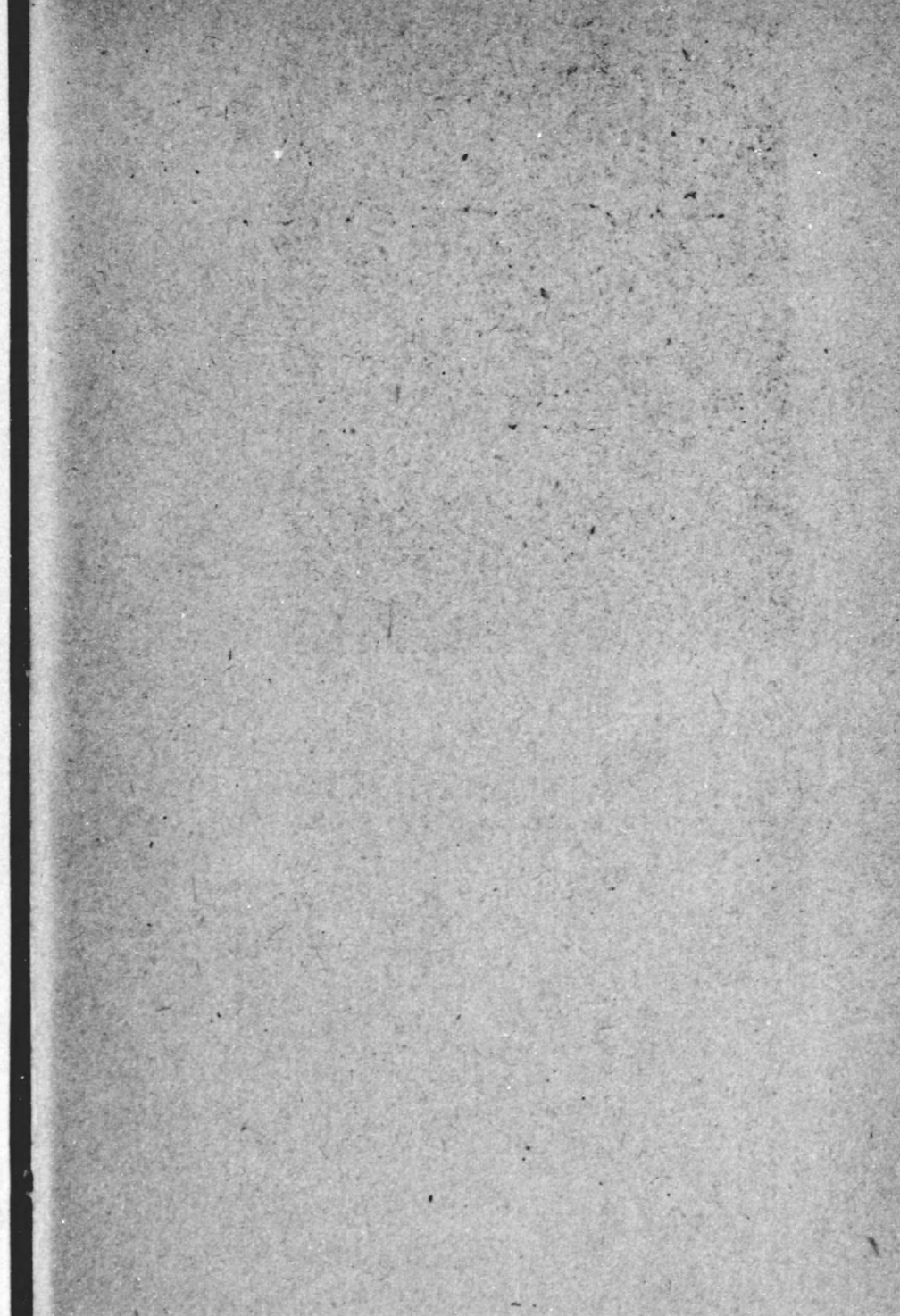
性女のズナ

著 藏 繁 野 多 波



京 東

社 硯 紙



——農園に行く若農夫婦——



寫眞説明

ドイツでは各社會各人を透して一貫した強固な信念がある、それは何であるかと云ふに

「國家の爲に」

「祖國の爲に」

かうした國家主義の下に農夫は一鋏を上に入れて耕し收穫を増大ならしむべくベストを傾注する之がドイツの祖國となつた最大原因である

この若い農夫婦の希々に燃ゆるさまを見ずや



寫眞說明

晝休みの一時間を女工だちは後の小山の麓に出た若いのは十五六歳で五十の坂を越した婆さんも居る

しかし一同がシネークリムを頬つて居る頬には老若の區別がない程ニコヤカな若い影があふれてゐるではないか

全く無邪氣な一同ではある



寫眞説明

ドイツでは田畑の耕作は多く婦人の手によつて居る。何しろ男は工業製作に全能力をつくして國の富強を圖つて居るからである。

婦人が野良を稼ぐのは昔からの慣習であつたが殊に第一次歐洲戦争に於て全世界を敵に廻して戦ふただけに大抵の男子は戦場に送り國內には殆ど婦女子が残つたと云つてもいゝ程であつた。随つて耕作は元氣な婦人の仕事のひとつとなつて遂には戦線へも農作物を送るに到つたのである。

かうした力強い銃後婦人の活動は總て婦人の健康の上にも幸してドイツ婦人は肉體的にも美人形が多く否それが賞讃されてゐる。



寫眞說明

一週間を働くだけ働き盡した一家は日曜の朝陽を浴びながら清流を渡つて向ふ岸の緑の樹間地帯に散策を試みるのである

中央の祖父のニコやかな心からの満悦に係娘たちの興じた喜しさが眉宇にも頬にもこぼれて居る

斯うして來るべき働きの元氣を養ふことが如何に樂しかるべきことであらうよ



寫眞說明

樂しかるべき一家團樂の夕餉の食膳テーブルに簡易ではあるが母が心づくしの榮花をそれも戦後の今日此頃は緊張した一家の經濟に於て切詰めるだけ飾をして居るドイツ婦人の經濟的考慮は實に有名なもので所謂世帯持のよいのは世界一だと云はれて居る

この主婦の肉體美は「母の教育」に於けるドイツ國の特別の方法によつて陶冶成人した典型でもあらう

ドイツの婦人は一さい紅や白粉は使はず内部から發輝する肉體美の練磨に懸命である

日本は今や眞に有史以來の國難に立つて居り戰場に闘ふ將士は身命を國家に捧げてゐる此時婦人の華やかな装ひや紅粉を塗る事は斷然止すべきであらう



寫眞說明

ドイツでは子供を澤山産むことによつて國策に副つた母は一種の國の功勞者であり全國民の感謝と敬意を受くべきであるとなし

「母の勳章」

を制定して戦場で武功を擧げた軍人と同じく之を表彰する即ち

銅勳章（コドモ四人を産めば）

銀勳章（コドモ五人以上は）

金勳章（コドモ八人以上は）

右の勳章を授けヒトラーユーゲントは此の勳章を胸につけた婦人に出遇つたなれば必ず舉手の禮をとつて敬意を拂ふ事になつて居る

（寫眞は八人の子福者で金勳章の家庭である）

寫眞説明

ドイツの婦人は又明細な頭腦と繊細確實な技能を所有してゐる。見よラヂオの大会社の技師として殆ど女子計りではないか此女子の手によつて組立てられるラヂオが正確で然も狂ひが出ない永久の保證付で賣出されてゐる。その他製圖家としての領域に技師としての女子の活躍も大變なものである。



寫眞說明

家庭工業が國家に捧げる力も又大なるものがある

ドイツでは主婦が製作の講習を受けて來て一家を動員して精を出すそして一家の收入の足にして經濟を補ふてゐるが戦争の爲に空襲下の燈火管制時に於ても仕事は繼續してゐると云ふ

日本の燈火管制は叱られて消すので未だ完全でない況んや仕事は出来ない状況にある大に學ぶべきであらう

著 言

第一次歐洲大戰前まではイギリスを凌駕するほどの勢力國家であつた獨逸が、一敗地にまみれた結果、ヴェルサイユ平和條約によつて百戰百勝を誇つた軍備は殆ど全廢され、一九二一年三月議會を通過した法律によれば、徵兵制さへ廢止となり、陸軍兵員は十萬、海軍兵員は一萬五千と限定され、續いてアルサス・ローレンス二州はフランスに、モレネ・オイベン・マルデーをベルギーに、而してポーランド建設の爲には西プロシヤとポーゼン二州を割き、又東プロシヤの北部メートル地方はリトヴァニヤ共和國に譲り、國土の面積は三萬方里に減少し、只僅に警察力の充實と、國民體育運動と民間航空事業との奨励によつて萬一の場合の國防に備へて居たのであつた。

ところが、捲土重來ポーランド進撃の大蓋を切つて以來、ドイツが擧げ得た赫々たる戰果は正に世紀の驚異である。

しかして敗戰國として屈辱的に乃至は幾多の辛苦を経験した獨逸が、僅々二十有餘年の今日

この回天の大業を成就し得たのはヒットラー總統の烈々たる救世の信念、偉大なる人格其政治的天才によるは勿論であるが、又國民のねばり強い徹底的なドイツ魂がこの戦後の難苦を切り抜けて、次第に復興し來り、今や第二次戦争の結果、歐洲に君臨するの大帝國となり終へた。

此華々しい復興は果して如何なる原因であらうか。槿花一朝の夢とは云へ、世界に其五分の一の領土を有し、最大の海軍力を誇つた英國も事實上祖上の魚同然の有様であるが、此の驚くべきドイツ國力の復興こそ各國家の學ぶべき活きた教訓であらう。

現在の日本も亦有史以來の國難に逢着してゐる。之を克服し大東亞戰の完遂を期し得るものは唯御陵威の下一億國民の烈々たる愛國心と大和魂の發露あるのみである。

日獨伊三國同盟が成立して世界に新しい歴史の幕が開けようとしてゐる今日、困窮のドン底から起ち上つて同じやうな民族の運命を開拓して來たドイツの苦心の跡を辿つてみやう。

この原因は種々あらうが、何と云つてもヒットラーと云ふ大英雄偉人が現れた事であらうが元來獨逸人は眞相と淺薄とを捨て、事物の本質に透徹しようとする國民性の所有者であり、随つて政治經濟文學凡ゆる方向に向つて深刻に研究して行く特性が一九二〇となつて、所謂ドイツ魂

を練り上げて居る。

ドイツが戦前、教育上特に留意したのは實用に適する科學者の養成であつた。何れの工場にも専門的知識を有する優秀な技術家が比較的安給料で雇入れられるやうな方法を取り、一意専念したが、果せる哉、今度戦争に於ても色々な科學的戰具を發明使用して敵を敗り、國土を占領したが、元來此國の工業は英米諸國の發明工夫になつたものを模倣したのであつたが、優秀なる技術家の手によつて之が一層ドイツ的に進歩發達したものである。

次には女子教育に意を注いだ事である。勿論戦前からドイツの教育に於て女子に對する考慮は拂はれて居り、彼の普佛戦争の勝利の場合ビスマルク將軍は

「今度の戦勝はドイツの母と小學校教員とに負ふ處大なり」

かように叫ばしめた如く、母即ち女子教育の成果が勝利を得たのであつた。

日本に於ても女子教育を等閑にして居ると云ふのではないが、兎角教育と云へば第二次的に考へられる今日、獨逸の此戦果を顧み大に學ぶ處あるべきを信じて此著を書くに到つた。

而してヒットラーは

「母ハ余ガ國家ノ支柱タリ」

かように絶叫し、又

「ドイツの少女よ諸君はドイツの母となる事を記憶せよ」

と少女に教へ女子に期待して居る。

此ヒットラーの女子教育に對する見識と其ドイツ國家の女子教育を検討し、以て長を採り短を補つて我帝國の支柱たるべき母への教育の一資料と思ふ。

昭和十七年四月

若松町の寓居にて

著者識

ドイツ大使館に

女子青年團指導員

FRIEDA・MALINと語る

筆者は此書を公にするのに責任ある筆を執りたいと思ひ、數回に亘り彼女を訪づれた。最初の日は通譯の森氏を通じて「かう云ふ用件で會見を承諾して下さるか否」を訊いて貰つた。

すると「今日若し私の時間が出來たらお會ひする」との事で小一時間待ち、此間に森氏は三四回その空き時間を催促して呉れたが執務中で會へなかつた。

そこで教示を願ふ事項を書いて森氏に渡して翌日行つて見ると

「責任あるお答へをする爲材料蒐集中ゆへ来る廿四日午前十一時半にお出で下さい」
かう云ふ事であつた。

その會見日迄は四日間である。

その日の約束時間に一分の違ひもなく行つて見ると、もう先方では待つて居たと見へて直に

應接室に招ぜられた。

彼女は私の發問に對して次から次へと流暢なドイツ語で、然も熱心に時間の經つのを知らぬかのやうな應答ぶりだ。

そして其の一言一句に無駄のない眞面目な態度に接して私は、彼女を通してヒットラーの要求するドイツの婦人を體得したやうな感がする。

先には執務中だから自分の時間になる迄待つて呉れと云ふ。其時間觀念と事務的觀念に其眞劍さが覗れ！

今又自國の紹介に對する其の蘊蓄經驗ある應答振り！

ドイツの復興は流石にかうした婦人の手に依る事の多大なるを痛感させられる。

豫定の會見時間が終ると彼女は時計を出して頷きながら

「左様なら」——と

日本語で云つて、胡蝶のやうに體軀をかはして立上つた。

短いスカートが、ふわりと捌かれて宛然乙女のやうに快活である。

ドアの引手を持つて今一度

「左様なら」——と

振り返つて出て行くのであつた。

私には彼女は、どうしても二十六とは見えなかつた。精々二十歳前後のやうな若さである。杳々と力ある靴の足音が遠ざかりて行く。ドイツの女子は萬事に無駄がなく快活で若々しいと聞いてゐたが全く其通りである。

かうしたドイツ婦人によつてドイツ民族は徹底した發展を遂げ、總ては歐洲をそのナチス主義指導下に従へ行くのだ。

本書を通して日本婦人に何物かを與へて、それが少しでも日本の母に對して裨益する處があればと考へながら大使館の鬱蒼たる大木の繁みの間を辭し去つた。

洵に氣持のいゝマーリン嬢ではある。——（著者）——



獨逸の母親 目次

一、著 言……………一

一、獨逸大使館にマリーン女史と語る……………五

一、ヒットラーは母を斯く観る……………四

母へ余が國家ノ支柱ナリ

母の勳章

一、母親となるまで……………五

その——幼稚園時代

その——小學校時代

その——補習教育時代

その——女學校時代

その——高等教育時代

一、ナチスの女子青年團……………二六

その——組織

その——指導

その——訓練

その——體育

その——社會的活動

指導者學校 旅行團 ナチスの世界觀 野營生活

會館の夕 スポーツ 家政學校 水泳

一、社會がつくるドイツの女性……………四六

英雄崇拜

(附) 日本婦人の忠勇義烈

成人教育

(附) 日本に於ける母の講座

スポーツ

スポーツデー

娛樂

國民文化局 素人劇團 劇…音樂 寄席

家事見習の頃

家庭へ歸れ

一、女の隣組と防空群……………六八

女の指導員

女の防空群長

(附) 日本に於ける隣組と防空群

一、花嫁學校……………七四

幾月たてば花嫁に？

花嫁學科は？

滿洲花嫁の卒業生

(附) 日本にもある花嫁學校

一、結婚事情……………八二

政府は結婚獎勵

男女關係は淡泊

結婚異議の申請

ドイツの結婚奇習俗

ヒットラーの結婚觀

一、母親學校……………九〇

ムツターシュューレン

移動的母親學校

ムツターハイム

ハイメデヤーム・S・V

その——内容——修業

一、ナチス國家が要求する母性……………八六

その——精神的方面

その——肉體的方面

一、母を保護する施設と法律……………九六

母を護る法律

(附) 日本の母子保護法

一、母となつてからの獨逸婦人……………一〇六

その——きりつめた生活

その——母の働きぶり
その——家庭教育
その——健康美
その——母性愛
その——生活美化
非常時ドイツの母は戦場へ

一、母と子の科学教育座談會……………二四

日本文字とローマ字
ドイツの小學校先生
ドイツの主婦は科學的
ドイツの家庭とマツチ
スフの温度とアイロン
ドイツ小學校の設備
日本家庭制度と科學

一、大政翼賛運動に現れた日本婦人……………三五

【附 錄】

一、義烈婦人の詠める和歌……………一四二

郷 の 君 白拍子微妙 松 島 局

楠 正行の母 北畠顯家夫人 藤實勝夫人

脇屋義治室 大懸入道禪秀室 園 生

神西元通の妻 全 召仕お才 大 内 常 姫

別所山城守室 別所長治の室 全 彦之進室

柴田の末森 柴田の息女 菊 子

武田の松子 伊賀崎中務妻 山崎左馬介室

木下長嘯子室 細川候夫人

一、偉人の母親……………一四三

學者としての頼山陽の母親

武人としての楠正行の母親

偉人としての後藤新平の母親

政治家としての原敬の母親

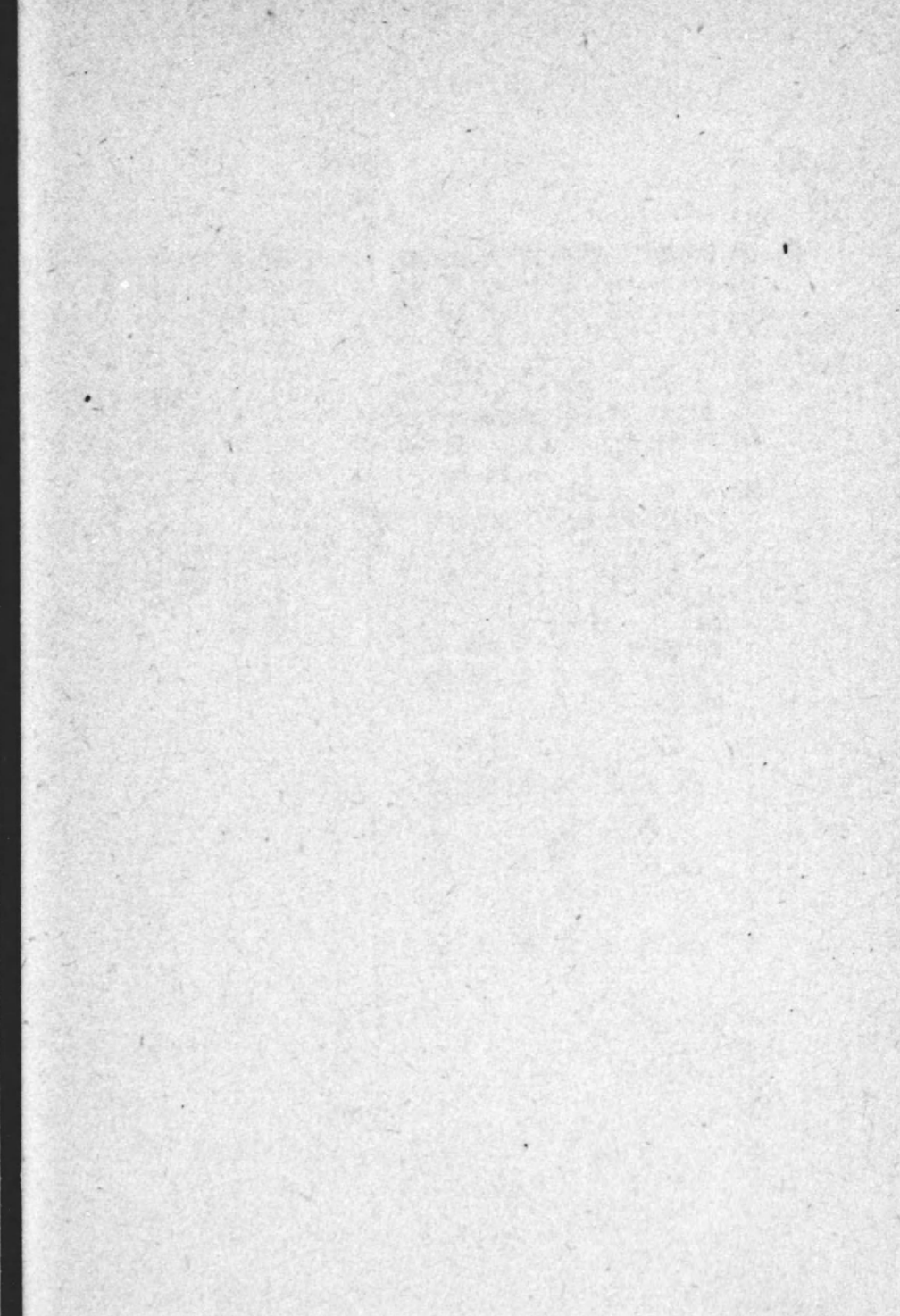
武人としての乃木將軍の母親
英雄としてのナポレオンの母親
武人としての東郷元帥の母親
政治家としてのワシントンの母親
事業家としてのカーネギーの母親
文豪としてのゲーテの母親

一、義太夫に現れたる日本の女性……………一七九

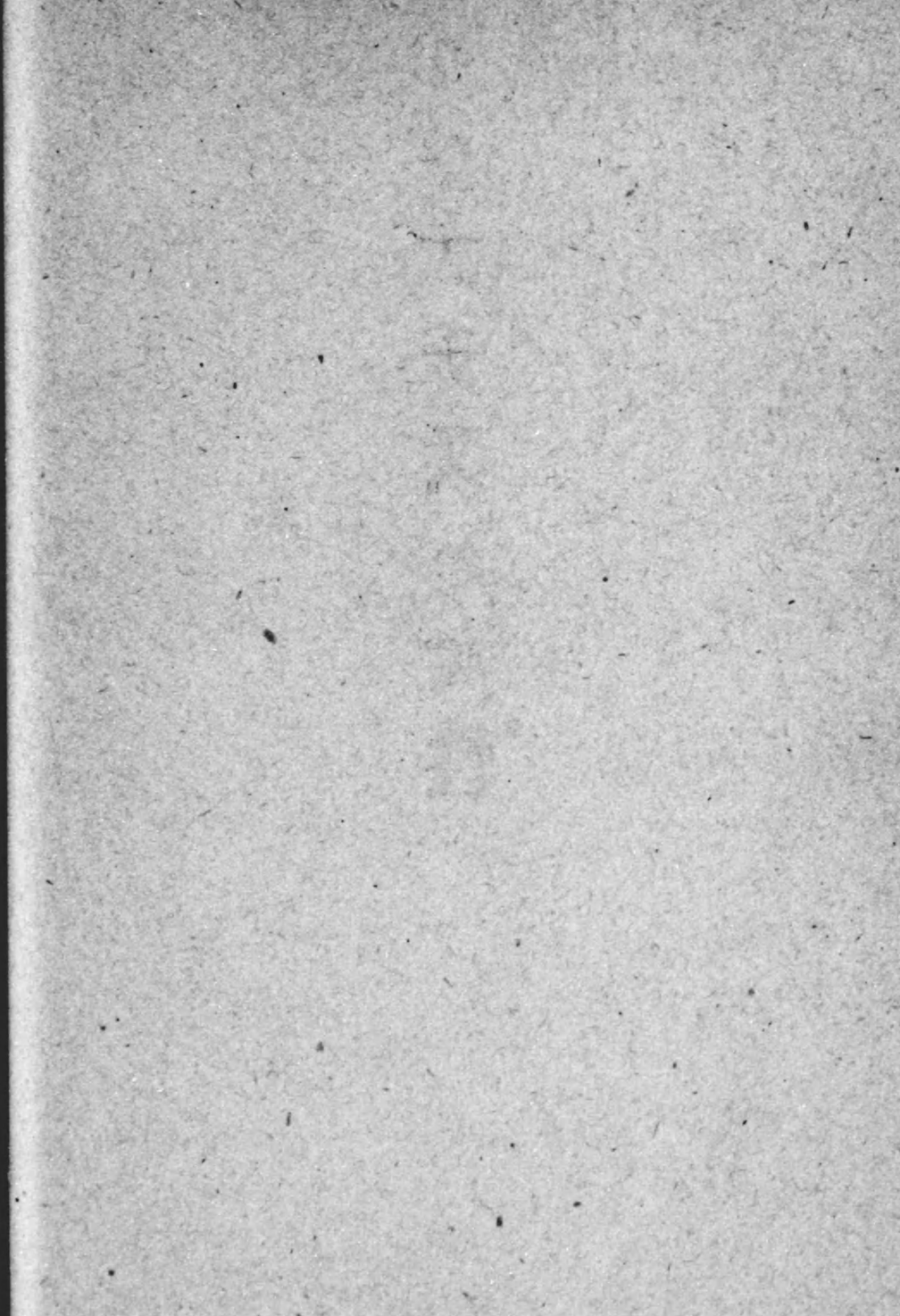
曾根崎心中のお初(……………)
お夏清十郎のお夏(水谷八重子)
天の網島の小春(福助)
三十三間堂のお柳(……………)
安達ヶ原の袖萩(中村梅玉)
二十四孝の八重垣姫(菊五郎)
繪本太功記の女性(初菊ハ魁車、操ハ梅玉)
阿波の鳴門のお弓(ドンドロ大師舞臺面)
先代萩の政岡(松延)

一、脱

稿言



ナチスの女性



一 ヒットラー氏は母をかく観る

ヒットラー氏が、国力充實の根基は先づ強い「母」を作ることであるとなし
母ハ余ガ國家ノ支柱タリ

と叫んで、常に強い母賢明なる母性を育成陶冶する爲には頗る其意を用ひてゐる。

今度の戦争に於て、英國に對し最後の平和勸告をする時の演説中にも

「我々ハ戦争ヲツマケタクナイ

勿論ナラ

ト云フ母體達ガ息子ヲ失フト云フ悲シミハ全ク大變ナ犠牲ダカラ」

佛國を忽ちにして降伏せしめ、進んで大英帝國を向ふに廻して大戦争の總統帥たるヒットラー氏が、右のやうに常に其胸中に「母」の事を考へ、母の爲に想ひを致してゐるのである。之を見ても如何に彼が女子教育に考慮をなして居るか判る。

而して彼の女子教育觀は

『ドイツの少女よ諸君がドイツの母となることを記憶せよ』

によつて初まり、徹頭徹尾母への完成にあるが、其到達點は個人としての人類の完成ではなくて國家の一員としての母の完成である。故に

ドイツノ少女ハ國家ノ人民デアル

斯様に云つて云る。

ヒットラー氏は、國民は國家を目標として居なくてはならない。何事も國家の爲に努力するのだと教へてゐる。故に

國家ノ興隆ナシニハ國民生活ノ安定モナケレバ又個人ノ眞ノ幸福モアリ得ナイ

これがドイツ國民の念願である。

又獨乙國が、子供を澤山産むことによつて國策に副つた母は一種の國の功勞者であり、全國民の感謝と敬意とを受くべきであるとなし「母の勳章」を制定して戦場で勳を擧げた軍人と同じく

子供四人ヲ持テバ銅章

子供五人カラ七人ハ銀章

子供八人以上は金章

以上の勳章を授け、ヒットラーユーゲントは此の勳章を胸につけた婦人に出遇つたなれば、必ず舉手の禮をとつて敬意を拂はねばならない事にしてゐる。

更に進んでムッターハイムに於て母に休養と慰安とを與へてゐるが、其方法は斯うである。家事のため子供の爲、ひいては國家の爲に母は常に元氣であらねばならぬ。然し職業と家庭とに狭まれて、子供のある婦人は疲れがちであり、休養が必要な母は到處に見受けられる。之を集めて休養と慰安とを與へ、新に明日を働く元氣をつける施設が即ち「ムッターハイム」なのである。

こゝでは年中つきまとつた家庭の仕事から全く離れることが出來、充分に休み、スポーツをし講演を聞き、又音樂會や映畫で慰められる。

このハイムは大抵景色のいい場所にあるので、自然の恵みを心ゆく迄受る事も出来る。

かくて二三週間たてば大抵の母親は見違へる程元氣を恢復して、いそ／＼と我家へ歸つて行く。

留守の間は、家庭の事も工場の仕事も婦人團體員の手で少しの心配なく守られてゐるのである。

斯様な施設は世界各國に例はなく、獨乙婦人だけが受ける幸福であり、ナチス國家の唯一つの試みとしての大きな誇であらう。

一 母親となるまで

獨乙は、元來大小幾多の王國が併合して國を組織したのであつて、其の大小王國は皆それぞれ特色ある文化を有して居たのであるから、獨乙國としての統一が出来なかつた。

然し、之を教育的に統一すべき聲は教育者間にも叫ばれては居たものゝ、色々な事情の下に顧るものが少なかつた。

ところが、獨乙革命の勃發前普魯西の社會民主黨議員コンラツド・ヘーニツシ氏が「我黨の

「教育政策」なる題下に、議會に於て演説を試みて多大の感動を與へた。其演説の大意は

一、從來の學校教育は個人本位であり、自由主義である。

將來の學校教育は個人の立場を捨て、社會共存團體の一員として教育せねばならぬ。

二、從來は智識本位であり、利個人的であるが、將來は人道主義であり社會的でなければならぬ。

三、從來の學校は、其の本務を智識の教授所であると解して居たが、

將來の學校は勤勞を本務とする共存團體でなければならぬ。

之を要約すれば、將來の學校の個人的立場を捨て、社會的立場に立つ精神を以て根本とし、又この精神の下に一切の指導をしなければならない。従つて從來獨乙に於て歴史的に發達して居た各種不統一な學校は、此際悉く之を徹廢し全體を通じて統一ある有機的體制を建設しなければならぬ。

と斷言したが此主張は、殆ど黨派の如何に拘らず一大衝動を與へたのであつた。

一九九二年ヒットラーの率ひる國家社會主義の二黨が政權を掌握して以來、ドイツ民族の生

活は、その全分野に亘つて根本的な改變が行はれつゝあるが、教育界にも思ひ切つた革命が起り、ナチス内閣の文部大臣ルストによつて教育制度の一大改革となつた。

そして教育理念に於ては

藝術教育

人格主義教育

兒童中心主義

社會的教育

郷土教育

國家公民教育

以上等の叫びが起り、従つて教育の方法に於ても作業主義や行動主義、生産主義、自發活動、生活的教授、體驗教授、綜合的教授等が舊い今迄の教育方法から脱出して實施さるゝに到つて來た。ドイツの現在の學校教育は以上の影響下になされたものである事を前提として、以下各項に就て詳述したいと思ふ。





その幼稚園時代

ドイツの幼稚園は三歳、四歳、五歳の幼児を收容する事となつてゐるが、元來幼稚園なるものは學校教育の補助機關ではない家庭教育の足らざるを補ふものでなくてはならない。

この幼稚園教育に就ては世界的恩人フレーベルの學說等を引用しよう。

フレーベルは幼稚園を始めて設けた教育史上の功績者であるが、彼は

凡そ天地間の萬物是一種の永久不滅の法則によつて支配されてゐる。而して此永久不滅の法則は神であつて、萬物は神から生じ神によ

つてのみ動かされる。

故に萬有の目的は其中に存する神性を發展せしむることである。

教育とは人間に本來具有する此神性を發展せしむる手段方法を講ずることである。そして神性の發展は兒童の自發活動に現れ、兒童の自發活動は遊戲に於て最もよく現れてゐる。

故に幼時の教育は遊戲を善導するにある、世の父兄には之をなすの能力と時間を有するものが少いから、幼稚園を設け専門の教育家をして之に當らしめなければならぬ。

この主張と學說との下に幼稚園を創始したのであつたが、現在のドイツ國內にある幼稚園は此フレーベルを繼承してゐると云つてよい。ドイツの母は其幼稚園時代では神の子として取扱はれ、萬事が此聖らかなるべき神性の發育を保育されて行くのであつて、

純で無邪氣で、而して朗らかで然も自由に伸び／＼した性格を養はれ、加へて敬虔の念に満ち充ちたドイツ魂の芽生え

以上の兒童初期の教育を受ける。

その小學校時代

ドイツの小學校は、國民教育義務年限は八ヶ年であつて、滿六歳から入學し十三歳迄在學する。そして此小學校を國民學校と稱し、六歳から九歳迄は初等補習基礎級で、それ以上は初等教育上級としてあり、此國民學校を修了したものは更に之に連絡する實業補習學校に於て滿十八歳まで最少限三ヶ年の職業教育を受ける義務があり、従つてドイツの母は其小學校時代に於て職業教育を受ける事になる。今之を表示すれば次のやうになる。

年 齡	學 年	(義務教育)		
		職業教育 (最少限三ヶ年)	國民學校	初等補習基礎級
13	一八			
12	一七			
11	一六			
10	一五			
9	一四			
8	一三			
7	一二			
6	一一			
5	一〇			
4	九			
3	八			
2	七			
1	六			

そして、此義務教育年限の學校、即ち國民學校と補習職業學校在學中は政府に於て授業料を免じ及び學習用具の一切を無料として居る。

こゝが日本と比較して大に差異がある。日本では嘗て知つて居る通り義務教育年限が六年で之を卒業せば後は學校へ行く必要がないから、自然國民教育の程度が低くなるから義務教育卒業者は漸く六ヶ年の學校生活を修了したに過ぎない哀れな狀況で、之等の女子はお嫁に行く時分には學習した大半は返してしまひ、蜘蛛のやうな文字を然も假名計りで書くに過ぎぬ程度であつた反し、獨乙の女子は滿六歳から十八歳迄學校教育を受けてゐるから、其生活に必須なる智識や技能や常識を具有して居るから、卒業と同時に結婚しても家庭の母親として相當なものである。

そしてドイツの小學校は、戦前は日本と同じやうにヨミ・カキ・ソロバンの三科目を反覆練習し、之に附隨して地理や歴史を加へてあつた位ひで、其程度も感心しなかつたが戦後全幅的の改革によつて

一、教科の内容が多種類豊富になつた

二、教科の區別がなくなつた

三、教科は生徒各個の自由選擇にも委す

四、教科の運用上に教師や學校の自由的活動の餘地を與へる

五、學校活動に社會要素が多分に盛られ團體活動が重視されて來た

以上を非常に變適性に富んだ生徒の自己活動を基とする學習に適合した編制にした點に特徴を見せ、學年が進むに従つて國家の歴史・産業又は國際關係を教へ、更に高學年には自然科學や専門技術に關することや政治組織や社會問題等が取入れられて教授された。

こんな風に躍進的な此改革後、一般大衆が政治的にも將又社會的にも或は教育方面にも夫々自覺し、茲に現在の國民義務教育の向上進歩を見たのである。

その實業補習教育時代

國民學校八ヶ年の義務教育を了へた者は更に最少限度三ヶ年を補習學校に學ばねばならぬ。

即ち年齢で云へば、滿十八歳になる迄である。此補習學校は職業に對する補習を與ふると共に

市民とし國民としての陶冶を與へるのであつて、親が手許から職業に従事させてゐるなれば親の義務として通學せしめねばならぬし、又他人に雇れてゐる場合は雇主が義務者となつて通學せしめてゐる。

事實上ドイツの少女は、其九割迄が國民學校を卒業すれば直に職業に従事するので、此最大多數者の教育に關し其職業に適切な指導を與へつゝ人格陶冶を完うすることは頗る適切な制度であり、其成績も極めて良好なので、世界各國でもその制度を模倣するに努めて居る。

日本にある夜間の女學校はこれを眞似たものであるが、之は晝間相當な勞働勤務した者等が通學するのであるから、色々の方面に無理が多く、只雇主に於ても學校へ出す事は自由であるから、何とか斯ふとか云つて入學させない現状にあるので、特別の生徒はあるが大體その成績はよろしくない。

ドイツでは任意出席では生徒の就學歩合が一割か五分位ゆへ、之を強制する爲に義務教育年限期間としては又夜間學校では心身共に疲勞しきつて居る爲、豫期の成績を擧げる事が出来なから之を晝間學校とし、一週六時乃至九時間は雇主をして必ず徒弟を補習學校に送る義務制

をとつたのである。

この補習學校規定は直に憲法に公布してゐる。そして、名稱は實業補習學校であるが同時に普通教育を與へて品性陶冶に資してゐるから、女子は十八歳迄教育をうける義務があり、同時に之は恩典と云ふべきである。

そして、此補習學校の科目はどんなものがあるかと云ふに

機械科

器具製作科

鍛冶科

麵麴科

靴科

印刷科

裁縫科

更に特殊になると

御者科

伯樂科

屠獸科

料理科

給仕科

煙突掃除科

火夫科

理髮科

植木科

この中女子に適當な一科目を修得專攻し、學校を卒業すれば堂々たる一人前の職業人として生計の立つやうになる。

而して右學校では速成科を設けて見習人や職工長たちの爲に便宜を與へて居るなどは誠に至れりつくせりと云ふべきである。

斯様な補習學校を卒業する女子は、其學び得た科目に就ては専門的の智識と技能とを有するから、家庭婦人となつても科學的基礎の下に家庭經濟を處理し夫を助けて家計を豊かにする。特に日本婦人のやうに女學校へ行く自分の子女を、學科的に教授し教育する事が出来ないやうなのはない。

従つて、斯様な母に保育さるゝドイツの子供は、それだけレベルが高いわけである。

ドイツに於て實業補習學校の制度や設備で最も完備したものはミュンヘン市で、同市の元學務局長であつたケルンエンシュタイナー博士は、最も熱心な補習教育の主張者で又改造者であり、且つ作業教育による小學校の改革の權威者であり同時に世界に於ける作業的教育學の中心的代表者である。博士が幾多の苦心を経て建設した同市の補習學校の内容は次の通りである。

1、第八學年に一週四時間の家事科を必修科目として課し化學物理生理等の實驗を行はしめた。

2、空地を有する全ての學校に學校園を設け

3、又魚虫類や鳥類の飼育や養蚕等を小學校で行はしめ特に三四年の兒童には花卉を培養

させた。

その他男兒に對しても種々の特設的な施設をしたが之は省略する。

そして、此作業教育の理論的根據は

「作業學校の意義は最小量の知的素材と最大限の熟練・能力及び作業の喜びとを國家公民的心情への奉仕に於て融合するにある。而して國民の大部分、即ちその九割迄は身體的手工勞働に従事するものであつて、精神的勞働者は國民の一部分に過ぎない。従つて事實と作業教育を施すことは國民學校の大きな任務の一である」

斯様な立脚點からである。

その女學校時代

ドイツに於ける女子の中等教育機關も、第一次歐洲大戰前迄は男子と同じく高等教育の爲の準備學校としての抽象的な學問を教授する事が主たる仕事であつて、特別に女子の爲に必要な實際的の陶冶は殆ど顧みられてゐなかつた。

それだから、例へば從來の女子中等學校の多くでは、僅かに申譯的に裁縫が課せられて居るだけで、料理や家政に關する事項は一つもないと云ふやうな有様であつた。

然るに一九一七年になつて、戰爭の爲の自覺から中等學校は改革的内容が盛らるゝやうになり、初めて女子の爲に特殊的な實際陶冶に必要な教育機關となつた。従つて其學科にしても

家庭經濟

榮養

衛生

育兒

公民教育

社會學

前記のやうな事項が先づ主要視され、其配當時數も多くなつて來た。そして、又同學校の中には幼稚園の保姆や教員養成機關が設けられて

裁縫

理科
家事
體操

かうした學科を専攻し、一年で専科教員の資格が得られるやうになつてゐるし、此資格者は進んで大學程度の教員養成所へ入所し、之を卒業すると小學校教師の免許が得られる。

日本の小學校訓導になるには、高等小學校から又は尋常小學校を卒業して一二年間勉強して入學試験に及第すると師範學校に入學が出來、之を卒業すれば二十二三歳で教員の免狀を受けるか、今一つの方法は、高等女學校を卒業して師範學校の本科二部の試験に合格すれば二ヶ年在學しても免狀は得られるが、何れにしても其程度たるや眞に低いに較べてドイツの小學校の先生は、大學程度の課程を経るやうになつてゐるから、随つて年齢も二十七八歳から三十歳前後であり程度も高い。

兒童を教育し、教授するものはドイツの小學校先生の課程を経なければ不充分であらう。

序に小學校の先生は兒童に學科を教授するのではなく、善良明智なる指導者でなくてはなら

ない筈であるが、從來の先生は知識偏重教育になつてゐて、先生本來の使命を打捨てゝ居るやうである。

ドイツの新教育に於ける教師は、茲に目覺めて「兒童が其父母の社會が承け繼ぐべき文化を一層向上させ得るやうに其の獨立的精神活動を促進する」斯様な任務が先生の使命であると主張してゐるのは大に傾聴すべきことと思ふ。

此外に人間各個人の個性型の分類による

理 論 型

審 美 型

經 済 型

社 會 型

宗 教 型

政 治 型

以上の六タイプを中心とする學校なども出來て、個性型の理論を根柢として計畫されてゐる

ことは一歩進んだ女子教育の方法であらう。

この現れは日本にも

女子經濟學校

かやうな名稱の學校を見た事がある。そして、前記の學校に於ては社會各方面の實生活場裡に進出して

、1、病人や罹災者の世話

2、幼少兒童の教育

3、幼少兒童の養護

右各項に就き實地の經驗をするので、一婦人として或は家庭の主婦として必要な教育が實地に就いて行はれる。

この仕組は學校と實生活との連絡上洵に當を得た方法で、日本の女學校も斯う云ふ方面の考慮を加味したいものである。

その高等教育時代

ドイツの女子が進んで大學程度の教育を受けやうとするには

實科高等女學校

文化高等女學校

この外

獨逸上級學校

併置學校

右の四學校は大學校に入るべく便宜があり、卒業生は之に入學する事が出来るが、事實に於て右の學校などは女子としての大學程度のもので、之に學ぶものゝ數は尠い。然し之等の學校卒業者は所謂大學校に學ぶ事が出来る。

そして、ドイツの大學校と云へば

綜合大學

實科綜合大學

商科大學

美術大學

林學大學

鑛山大學

等である。

そこで、女學校を卒業したドイツの女子が更に高等教育を受けやうとすれば、前記の各學校を卒業すればいいが、前記の四學校は女子として相當な高程度のものである。然し伯林の「自由大學」では早くから女子に對する高等教育解放の先鞭をつけ、第一次歐洲大戰前の一九一三年にはその學生の三分の二が女子であつたと云ふ斯様な場合もあつた。

今前記女子の高等教育たる四學校に就いて詳記すれば

イ、女子中間學校

この學校の使命とする處は、中流階級にある女子を職業的に教育するので、國民學校と

高等の學校との中間にあり、此學校を卒業すれば直に實生活に入る者は普通の商業や工業家となり、又中級の官吏となれるし又進んで各種の高等實業學校、即ち

工業學校 商業學校

美術學校 林業學校

鑛山學校

右の學校へ入學する事が出来るやうになつて居て、ドイツ中産階級を維持する國民を養成する學校である。

ロ、高等女學校

女子を文科的に教育する學校で、修業年間は六ケ年、入學希望者は文科上級女學校を通じて大學へ進む事が出来る。

ハ、獨逸上級學校

この學校は大學校まで連結して居るので、大學への入學は頗る好都合である。そして主要學科は獨逸的のもので、即ち獨逸を本體とする中堅的學校である。故に

藝	地	歴	哲	宗
術	理	史	學	教

右の學科も獨逸語によつて教授され、獨逸人を造るの目的を以て立てられた學校であり、獨逸民族に關する學科に主力を注ぎ、以て祖國愛の精神を養ひ民族的團結力を養ふ學校である。

修業年限は九ケ年である。之を日本に比較すれば、高等女學校を卒業して尙三年若くば四ケ年在學して居る事になるから、女子としては頗る高等の學校と云つていい。

ニ、文科高等女學校

この學校は前記獨逸上級學校と同じ修業年限九ケ年であり、大學校へ連絡して居るから一面大學豫備校の感があるが、同校の目的は獨逸上級國民としての人格を完成する爲の

學校である。

ホ、實科高等女學校

文科學校に對しての専門的高等職業教育の學校であり、修業年限は九ヶ年で卒業生は大商業家たり、大工業家となり、又教師となり、高級官吏ともなれる。

以上で母となるべきドイツの女子の學校の大略を述べたから、讀者は大體その女子教育を了解された事と思ふが、此母となるべき女性の教養が根底となつて賢明なる現在のドイツの母性が出来上つたのである。

これから稿を改めて特殊的な、或は社會的な女子の教育や修養に就て述べやう。

一 ナチスの女子青年團

歐洲の大英傑ナポレオンは「青年をみてその國の將來を知る」といつた。

ドイツ復興の絶世の偉人ヒットラーも亦「ゲルマン民族の當面せる危機より祖國獨逸を救へ」の大旗のもとに、先づ男女青少年に呼びかけて居る。彼がボツタムに於て男女青少年に與へた

訓示を掲げて之を翫味して見よう。

吾が青少年男女よ！

諸子を本日ボツタムに招集したのは、現下非常時獨逸國家がこれを要求したからである。(中略) 諸子の中には多くの失業者の父上を持つ者がある事を余は知つてゐる。又諸子の多數の者は諸子の家族と兩親の上に明日如何なる運命が襲ひかゝるかも知れぬと云ふ不安にある事を余は良く知つて居る。

現今吾獨逸國民が苦惱する飢饉と貧窮とは何等偶然に依るものではない。彼の偉大なる歴史的瞬間に於て吾國民は自己を忘却して了つたのである。(大戰とそれに續く社會主義革命の事) 獨逸國民は統一を失つた、獨逸國民は徐々に没落し無力化し且つ其の無權力に依つて勞働とパンの缺乏が生じたのである。(中略)

吾が青少年男女よ！ 故に諸子はナチス運動に於て「吾々はドイツ人である。ドイツ人は皆んな兄弟である」といふ自覺を再び習得しなければならないのである。(中略)

ドイツ青少年が、先づ自身を獨逸人として感ずると云ふ教育はいくら早く行はれても早きに

失すると云ふ事はない。ナチス主義の青少年教育は一つの政黨の爲になされるのではなく、獨逸國民の幸福の爲に行はれるものでなければならぬ。ナチス運動はやがて獨逸全體の運動となり、ナチス主義の理想をば犠牲を尊ぶ全ドイツの青少年が、總て之を認識する時代が來てはじめて此の事實は實證される事であらう。諸子の中傷し嘲笑する者があらうとも、諸子は必ずや獨逸の將來を双肩に擔ふ者となる事は確實である。

諸子は將來の獨逸國民であり、諸子こそ吾等が今日獲得闘争してゐるものを完成することの出来る人達なのである。

現在では、吾がナチス主義の理想價値を否定する多くの獨逸人が尙存在するかも知れぬ。然し乍ら、ナチス主義は諸子等青少年男女をば最も敬虔なる理想主義者に教育し上げんとする何故ならば。只偉大なる理想のみが獨逸國民をば再び統一する事が可能なのである。

ドイツ國民の最少年者を把握した此の理想、今日今夜此處に嬉々として集會した獨逸青少年の心の中に明らかに見出される此理想に勝るものがまたとあらうか！

（中略）吾が青少年男女よ！ 諸子が現今協力一致吾獨逸國民の幸福の爲に争闘して居ると



女青少年に與へるラトウ總統

同様に何百萬人の成年男女が獨逸の解放の爲に戦を續けて居るのである。ナチス主義は小兒に初まり老年に終る處の一貫した國民共同體を造り上げんとするのである。

何人と雖も獨逸的生活の偉大なる交響曲を沈默さす事は出来ぬ。ナチス運動は獨逸小兒を教育し誇ある且つ勇氣ある小兒にし、且つ同時に他人が不正に導かんとしても其の小さな頭は決して屈しない事を教へんとするのである。かくしてこそ獨逸青少年は如何なる危險の中にあつても、其の國民に對する忠節を曲げないのである。

余の愛する獨逸青少年よ！ 諸子が英雄物語や英雄詩を讀んで感激したと同じやうな事實を再現す

るように努力し、諸子の屬する國民が何時の日にか英雄詩に於て讚美される様に努力しなければならぬ。

余はナチス青少年運動の中に一つの新しい世代が成長する事を確信する。此の新しい世代は當代の、一欺瞞政策に反抗する勇氣を持つものであらう。獨逸帝國の青少年がハーケンクロイツのナチス旗の下に始めて行進を行ふ最初の日に於て、吾がナチスの綱領が如何に正しいかの立證が見られる。

此光輝ある日はより盛大に、且つより早越せるものとなり、諸子はやがて新しい獨逸となる事であらう。諸子はやがて最弱年の少年として最も困難なる窮乏の中に獨逸の爲めに至誠を捧げたる事に最も誇りある思出を持ち、諸子の忠誠と犠牲とが新獨逸國を創造した事に最も幸福な誇りを感じる事であらう。

諸子は最も弱年の少年少女として新獨逸國家建設の爲めに吾ナチス黨に入黨した者である。諸子は諸子の獨逸國に對して終始忠實であつたのである。諸子は老年時代になつて今日ではかけ替へのない報酬をば思出の中に見出す事が出来るだらう。

この外ヒットラーは、再度男女青少年に斯うした訓告のやうな演説を試みて居るが、言々句々に肺腑から出た言葉で、然も中々の名文辭句で綴られて居る。

世界的大偉人たるヒットラーから斯うした演説を直接耳にするドイツの女子達は、或時は彼を父と思ひ、又或時は兄とも慕ひ寄るのである。而して其親みは纏てドイツの女子は彼の思ふが儘に心身を彼に委してしまふ所に少女等の國家的觀念が烙き付けられるのである。

こゝで女子青年團の事を詳記するが、之が日本の女子の反省を促し、政府の参考にもなれば結構である。

その組織

組織

ヒットラー青年團並に獨逸少年團の青年組織と並んで、世界最大の女子青年運動の組織が確立されてゐる。それはヒットラー青年團の一翼たる獨逸女子青年團並に獨逸少女團の名稱である。

最初獨逸女子青年團は、ヒットラー青年團に一小單位として從屬してゐたが、聽て權力獲得の後、數百萬の團員を得たので自主的な統一的組織と活動をもつやうになつた。從つてヒットラー青年團のそれと平行して共に獨逸青少年指導廳の指揮下にあるやうになつた。そして組織の單位や大小・系統は、ほゞヒットラー青年團と同じで、最下位の組織は班で十人乃至十五人で成立ち、此の班員は場所や年齢を同じくするものを集め班長により統率され、二班乃至四班で一組となし、組長が之を統率する。

その上には小管區——管區があつて本部をおく。

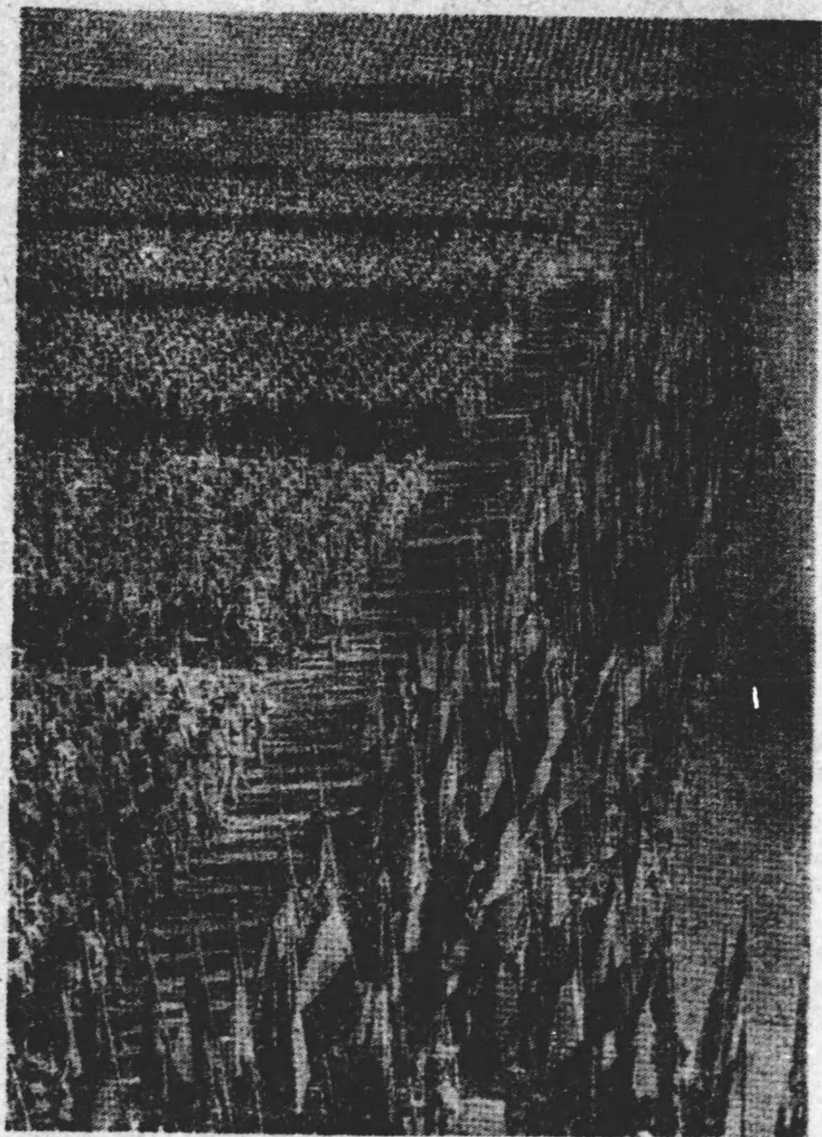
これと平行して少女團が組織され、ドイツの女子は必ず此青少年團員に入る事になつて居り、且女子自らは團員たる事を最上の名譽と思つて居る。

現在では其團員兩者を合せて二百萬以上を數へらるゝ一大勢力をなして居り、之を指導する十二萬五千名の女子青年がある。

指導者學校

前記の青少年團を指導する教師の爲に一九三三年「指導者學校」が設立されて現在では約

圖年育子女るす有を員團萬百二



四十校の多きを數ふる。

この學校は「意志と力」の場所であつて、他の學校と違ふところは、普通の學校は單に知識技能の教授を主眼とするに反し、不拔の國民意識を涵養し且つ之に對する知識を養成するのが目的であつて、現在獨逸が當面してゐる重大危局を確固たる足どりで切り抜けてゆき、次の獨逸少女時代を建設する爲に働く女子指導者を養成するので、教科目も「郷土思想」から出發し、何よりも先づ

「土地」

「血」

この二つの概念を把握しなければならないのである。

第二の教科目は歴史であつて、之も普通の學校で教へるやうな單に歴史的事實に關する知識を教へるだけでなく、獨逸民族がその發展と土地の獲得との爲に如何に戰つて來たかと云ふ、過去の時代の典型的英雄の偉業について學ぶやうにする。

又純粹な獨逸文化の保護者として、將又其育成者としての自覺の上にたつて古い文化を研

究し、其の發展の爲につくさうとする義務感を養成するのであつて、此精神的な歴史科によつてドイツ魂構成の大部分を徹底せしむるやうになつてゐる。

又この學校では種々な催しと儀式に關する必要な行事を教へ、之を日々實行して行くので

「朝」

1、朝は朝の歌の合唱

2、國旗の掲揚式

これによつて、毎朝その日一日を貫く嚴肅な精神的統一ができる。

さらに晝から夜にかけて時間の空があれば

對話

素人劇

即興劇

手工藝

などによつて、青年女子たちの文化的創造力を發展せしめるのである。

この指導者學校の在學期間は二週間乃至三週間で、外にスポーツの指導者、手工藝の指導者があるが、之等の指導者は明確なるナチス的世界觀と各専門の知識とを女子青少年に授け得る有資格者であらねばならぬ事は勿論であるので、何れも女子青年團員中で特に高い責任をもつ指導者が、國民高等學校に入學して之を卒業した人なのである。

かやうにして各等級の指導者學校（小管區・中管區指導者學校の事）はナチス世界を明確に把握し且獨逸民族と國家の爲に

◎最後の血の一滴まで戦ふ

と云ふ逞ましい決意と實行力をもつた婦人指導者を、獨逸女子青年團並に少女團のそれぞれ等級の指導部に送りだし、女子青年軍の先頭にたゝせる事になつて居る。

かうした徹底した、國家觀念民族觀念によつて天性つけられた婦人が總ては主婦となり母となつて家庭を構成し、子女の教育に當るから獨逸は僅々二十有年にして今日の如き赫々たる隆々たる國家に復興したのである。

ナチス世界觀の訓育

女子青年團の團員に對する精神的世界觀的訓育の重點は

——獨逸民族と國家の發展の支柱たるべき女子青少年を養成する——

之が眼目であり、理想である。

日本の女子の理想は、一家庭の良妻賢母であつて「國家の爲に」と改めては云はないが、日本には、君民一致の不變の精神が一貫して居るから即ち

忠ハ孝ナリ

孝ハ忠ナリ

忠孝一本ナリ

そして賢哲の教へは

孝ハ百行ノ基ナリ

と總括して教へて來た故に、三千年來の傳統をうけ繼いだ現代の女子にも依然として此の血が通ひ、この心が透徹してゐる。

だから、母が我が子を君國の爲に戦死せしめても涙一滴こぼさずして

「お國の爲に役だつた

家門の譽れだ」

と、之を悦び之を祝福するし、息子自身も戰場に臨んでは、君の馬前に國家の爲に戦死する事を最上の名譽と考へ、最上の忠義と心得て居り

「天皇陛下萬歲」

の一言を残して、從容として死に就くのである。

日本の男子が斯様な忠君愛國を表現するに對して、女子も亦君國に心身を捧げる爲には自己を滅し子女を殺した幾多の實例は龜鑑となつて遺つて居る。

却說ドイツの女子青少年は獨逸民族の本質に適ひ、しかも最も健全な國家の細胞たる家庭を擔當する人であるから、自分の健康を保持すると共に自分の家族の血統の純粹さと健全さの自覺の上に立つて、自分の生活を建設し正しき血統と健全なる遺傳の結合を其結婚の目標としてをり、且更に進んでは種々の政治的事件に對しても明確な認識をもち、自分の息子や娘を第二の良きナチス國民として育てあげ得るだけの世界觀的教養と知識とを持つ

て居なければならぬ。

斯くして健全な家庭の概念は擴充され、家庭は國家と民族の最高文化並に最高倫理の基礎となり得るものであるとの見解の下に教養が進められて居るのである。

ドイツの女子青年團は右様な高遠な目標の下に心身の鍛練をするのであるが、ヒットラー總統は

「ナチス的理念への信仰には、その信仰による實踐が必ず伴はねばならぬ。吾々は今日教養の過剩に悩んでゐる吾々の必要とする處は本能と意志とである」

斯様に教示して、其の實踐窮行を望み此の實踐が體て本能的となり、強い意志として女子の心に浸透徹底するを期してゐる。これが政府の法律として現れて居る。即ち

「遺傳病ノ子孫保護ニ關スル法律」

「夫婦健康法」

この法律によつて女子は貴い責任感を抱くやうになり随つて積極的に遺傳病を持つ者や又異人種との結婚を拒否して國家の基礎たる健全な家庭創造の必要を痛感するやうになる。

そこで「旅行團」が組織され、此旅行によつて自國の風土を眼の當りに眺め、祖國の偉大さと輝かしい傳統を認識して豊かな情操を養ふことを目的として居る。

次には夜になると『會館の夕』を開催して諸種の政治問題の對論や獨逸民族と國家に對する犠牲的精神や祖國愛郷土愛等に關する

劇

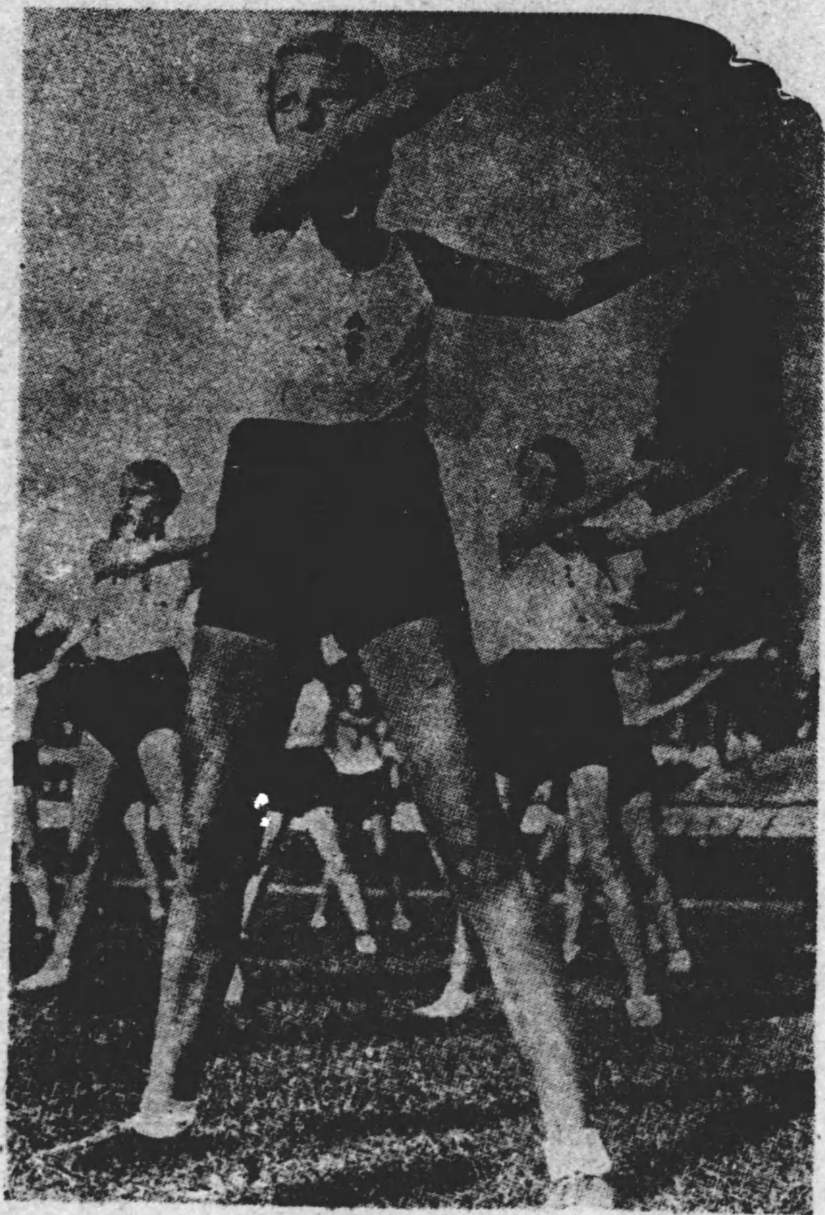
音樂

合唱

などを行ひ、楽しい一日を意義づけつゝ送る。

此外に「野營生活」によつて勞働奉仕や、野外スポーツを試みることも重大な彼等の行事であつて、之を通して國家的社會的生活の欠くべからざる事、並に自分等が重大な責任を負つてゐる事の自覺を徹底せしめてゐる。

その體質



女子青年團では一九三三年以來毎週一回のスポーツ時間に參加しなければならぬ義務制が實施されてゐるが、之は此體育訓練が成育期の女性教育の上に最も重要なからである。

そして此體育の目的は

一、彼等に強固な團結精神を涵養せしむる重要な機會を與へる事

二、このスポーツを通して強靱な肉體と意志を與へる事

三、健全な國家と民族の基礎である家庭の母たるべき女子なるが故に

斯様な各項の目的を貫徹せんが爲であるから、自覺せる團員は喜んで之に參加し、喜々として訓練を受けてゐる。

そして此スポーツ時間の前には十五分間の體操が課せられるが、之は偏頗な職業活動をなしつゝある團員の均衡の發達をなさしめる爲の考慮で、眞に注意周到の方法である。

又此時間の短い休み時間を利用して

1、體育訓練の學理的基礎

2、皮膚や手足の養生

3、健康に必要な營養と生活方法

等の講演が女醫によつてなされる。そして此のスポーツの種目の中では水泳が肉體的訓練によつて最も必要なものと考へられてゐる。

次には陸上競技や徒歩旅行を非常に奨励してゐる。

かうした體育によつて訓練される女子青年團員は心身共に强健で、常に健康美の肉體に爽やかな明朗そのものゝ精神が宿つてゐて、所謂潑刺たる青年若人の正氣が満々としてゐる。

その社會的活動

前述のやうな心身の訓練を受けた女子も、單に職業的能力のみでは時代を背負つて行く婦人としては不完全である。即ち其上に確乎たる家庭經濟の知識と技術と經驗とを持たねばならぬから、社會的活動をなさしめるのである。

其訓練の方法としては

『野營』

この野營における訓練は、直接農家の庭先で行はれ實習訓練が中心となつてゐて、十五六名の團員が一组となつて農家の家政や耕作の凡ゆる仕事の實習をうけるのである。

この期間は八週間行はれ、之が終ると各女子はそれ／＼單獨で農村の職場に赴くが、之等の女子は農村の生活と労働とを喜んで都會に歸るものが少く、一方農村の方での女子青年團員は都會への働きに來る事になつて、茲に於て都市と農村との均衡がとれて其労働力が地方に供給されることは面白い方法でもあり、且有意義な事と云ふべきではないか。

又、今一つの社會的活動の方法は、就職年齢即ち十四歳乃至十五歳になつた團員を一先社會から引離して國家社會主義者の家庭へ一年間預けて訓練をする事にして居る。之を

「家政學年」

と呼んで居るが、此家政學年を了つた女子は家庭労働に對する關心と興味が昂つて、此中の三割は家庭労働的職業を選んで就職してゐるとの事であるが、今では堂々たる公認の

「家政學校」

と云ふ名稱になつて、其成績も優良である爲各所に此學校が増設されて行く。

以上でドイツの女子青年團としての女子の訓練を述べ終つたが、之を日本の女子青年の上に見るに洵に寒心に堪えないものがあり、改革すべき幾多の事柄が見出されるのではないか。

特に獨逸の女子達の婦人美の觀念は、健康美であるが日本の女子達の婦人美は化粧する事である。

日支事變足がけ六年に及んで、我忠勇なる將士が國柱となつて戰死し、一方國を擧げて節約緊縮の非常時であるに拘らず、浮身をやつして芝居見物に行く婦人があり、爲に劇場は満員の盛況であり、銀座街路を歩く女子が紅や白粉を塗つてゐる。そして瘠形柳腰を美人と心得る女子ばかりであるを見て、何人が嘆息を禁じ得ないではないか

覺めよ日本女子

自戒せよ、日本婦人

かう叫びたくなるのは蓋し著者計りではないであらう。

一 社會がつくるドイツの女性

ドイツの婦人が社會からどんな影響を受けてゐるかを見るには、社會教育施設等が如何様に實行されつゝあるかを検討すればいいと思ふ。然し、社會教育と云つても二様の意味がある。

その一つは、社會の感化・影響に存する一種の勢力が、社會に生活する人に對して働く作用であつて、斯る無自覺な力は必ずしも社會人を教育するのではなく、寧ろ人々をして惡化せしむる場合が多い。

次には社會内に公私の教育設備が設立されて、故意に、社會人を教化しようとするものである。近時は社會政策或は社會改良の必要が叫ばれて來た。之を詳しく觀察分類して見よう。

一、知 育 上

圖書館を設けて必要な書籍を借りうる設備が近時普及した。殊に社會教育上には通俗な小圖書館を多く建てる方がよい。

又、巡迴文庫や講演會や講習會を催すことである。

又市民大學と稱する成人教育機關や其他博物館、動物園、植物園も知育上に資すべきものであらう。

各種の講義録も必要である。

二、徳育の上考慮

神社佛閣寺院山陵墳墓（偉人英傑）などが、社會風教の上に大なる貢獻をすることは勿論であるが、倫理や宗教に關する講演講話又は禁煙・禁酒等の宣傳運動も同様である。又演劇や活動寫眞も徳育上に資する所大なるものがあるから考へねばならぬし、青年團處女會も體育上にも相當の役割を持つが、之が徳育上の役割も相當大なるものがある。

三、體育上

公園とか運動場とか水泳プールや體育會や演武場等であつて、一般の民衆のこれを利用するものが大に増加させねばなるまい。

斯様な各項に就て、いかにドイツの社會教育がなされてゐるかを記して見よう。

英　雄　崇　拜

ドイツ人の尙武性は、ドイツの歴史に最も顯著に現れてゐる。

ドイツの英雄は、古來軍人であり帝王であつた。最初の英雄アルミニウスは又一名ヘルマンといふ名で知られてゐるが、紀元九年にローマ皇帝アウグスタスの派遣した軍隊を奇略をもつて大敗せしめた彼は、天成の武人で勇敢であつた。又不撓不屈のルーターあり、フリードリッヒ大王は天才的の軍人で、智略縱横の才物であつた。其他英雄列傳にある人々を崇拜し、諸聯邦の博物館には古來の甲冑や銃槍や大砲等が完備陳列してある。

この精神が尙武を好む根柢となつてをり、又大衆は英雄崇拜に關する色々な行事をも行ふて之を追憶敬慕し、その武勇を次から次の時代へと傳へて居る。

之は宛然我國のそれと同じで、日本の大楠公の忠節や戰國時代又は徳川時代、近くは日清・日露の大戦に於ける忠勇將士の君國に殉じた其武勇の働きは嚴然として昭和時代のコドモの血脈の中に流れ通つてゐる。

特に日本婦人の忠勇義烈貞節で神泣鬼哭の物語は、肅然として襟を糺し大和魂を培ひつゝ來てゐるではないか。

茲で、古今日本婦人の忠孝貞節義勇の代表を略記して我等大和民族の血管に通ふ其血を洗ひ

淨めて見ようではないか。

「浦蟲」婦人

浦蟲は京都の女であつた。父は正六位上織麻呂である。

初めは典殿となつてお宮仕へをし正五位を授けられ典侍となり、續いて從四位下、それから從三位に叙せられ、尙侍に任ぜられ八十歳で薨じたが、此間六十有餘年三代の帝に奉仕し、朝廷にあつて宮中の職を掌り禁内の禮式を脩め生涯を天皇の爲に捧げた。

名妓「微妙」

洛陽の名妓たりし彼微妙が、或日源頼家が比企能員の屋敷で花見をした時、此席で舞をまひ樂を奏して非常に褒められた。其時頼家から

「何か望みのものあれば何にても取らせる」

微妙は之に對して只泣く計りであつた。稍久しゆうして

「私の父爲成が讒言の爲陸奥に放逐され、母は之を苦にして死んだ。願くば明公の力を以て父の無罪を許し給はれ」

涙ながら申上た。頼家は直に人を遣つて父を尋ねしめたが、父は先年既に病死してゐたのであつた。微妙は父の死を聞き剃髪して壽福寺に入り「村蓮」と號し、一念菩提に入つて亡き父母の冥福を祈つた。

小商人の娘「多津」

熊本に徳兵衛と云ふ小商人があつた。多津さんは其娘である。十四歳の時父が病死になつたが家が貧しいので多津さんは色々苦心しながら三度の食事を勧め、特に酒好きの父へ毎晩のませてゐた。

その中病狀は悪化した、高價な醫藥を用ひる事が出来ない、ので房々とした自分の黒髪を切り之を賣つて醫者を迎へ藥をのませた。

此黒髪は見事なものの故商人は髻にして高價で藩主の夫人に賣つたが、餘りの見事さに夫人は其出處や一什始終の物語を聞いて感心の餘り藩主から褒美を與へて永く其孝行を世に傳へた。

忠義な女中「綱さん」

之は有名な話で何人も知つて居る筈だ。若狹國遠敷郡西浦村の漁師の子に生れた綱さんは、

十五歳の時小濱町の士家に女中奉公をしてゐた。或日主人の赤ん坊を抱いて表に遊んでゐると、一匹の猛犬が俄然飛びかゝつて來た。

綱さんは逃げる間もなく赤ん坊を地上に臥せて自分の身體で覆ひ隠してゐたが、猛犬は愈々狂ひ出して綱さんの頭と云はず肩や腹や手や足と處きらはず噛みついた。

暫くして近所の人々が大勢駆付けて犬を追ひ拂つたが、赤ん坊は何の怪我もなかつたが、綱さんは重傷の爲遂に死んだ。西徳寺前の「忠烈綱女之墓」は今も尙その忠烈談を傳へてゐる。

「乙 桶 姫」

君ささず袖しが浦の立つ波に

その面影を見るぞ悲しき

時は冬の十一月の未つ頃であつた。航海の難所相模灘は東征の兵船日本武尊の一行に向つて山なす怒濤を打ち寄せ、一天俄に暗黒化し怪雲は忽ち大雨を生み舟は暴風に翻弄された。流石に武き荒武者達も生きた心地はなく口々に

「これは海神の怒りだ！」

海神が女を求めるのだ！」

この時、飛鳥の如く舷頭から身を躍らしたのは乙橘姫であつた。

雨は止んだ、風は風いだ、波は静まり返つて舟は目的地點に到着した。

おゝ!!この壯烈な姫の最後は貞烈の龜鑑として今も「君さらす(木更津)宿」に残つてゐる。

「在原業平の妻」

阿保親王の第五子に生れた業平は、好男子で女たらしのやうに傳へられ隨分浮名を流した人であつたが、此妻は夫が毎夜某女へ通ふのを見て嫉妬せず、寧ろ今迄よりも夫を敬ひ之に仕へるので業平は之を曲解し、或夜外出する風をして家の庭に身を隠して妻の行動を覗つてゐた。すると妻君は、孤燈の下で琴を弾き眞夜中になつても寝につかず

風吹けば 興津白波たつた山

夜半には君が一人行くらむ

この歌を作つて琴に合せて歌ふのであつた。稍暫くして蔭に入つたが銅器に水を入れて胸を冷し出したが、其水が忽ち湯になつた。斯くする事二三回、流石の業平も此焦慮の光景に感じ

前非を悔ひ改め、爾來浮氣は斷然やめ永く夫婦の禮をつくしたとの事である。

免税された「お萬」

甲府の人、お萬さんは十五歳で某家に嫁ぎ三男一女を生んだが、其中夫が死んだので子女を育て女手一人で農家を維持し亡夫の靈を神の如く禮拜し通した。

藩主は此貞節を嘉し税金を免除し其徳を湛えた。

「貞女」の感化

貞女の夫が關東から歸京の際美人を連れて歸る事となつたが、途中から使者を以て

『われ一妾を求めて歸る事にした。就てはお前は嘸面白くないであらうから實家へ歸つて

もよす』

斯様に云ひ遣つた。之を聞いた妻の貞さんは

「夫婦の途は徳育違はざる時初めて偕老同穴である。今日自分は容色も衰へ愛も弛み爲に夫に得られないのは之れ全く我徳の欠けたるが爲である」

とて、酒肴を整へ待つ事にした。

この貞女の話聞いた妾は大に愧入つて

「誠に申譯ない事である。奥様は當世の貞女である。左様な貞女を去らしめて何ぞ自分が妻になれませう。私は別室でお役を勤めます」

その後二人は眞の姉妹のやうに交り、一家平和に暮らした。

此外有名な「小宰相局」が十九歳の若い身を以て夫の戦死を聞くや海に投じて相果た如き。

又白拍子「靜御前」が

吉野山峰の白雪ふみわけて

入りにし人の跡ぞ戀しき

の歌をうたつて頼朝を辟易せしめ果てたは義經を慕つて尼僧となり、其うら若い二十歳を一期として死んだ如き。

或は曾我兄弟で有名な「虎御前」が和田義盛を槍込め

露とのみ消えにし後を來て見れば

尾花が末に秋風ぞ吹く

この一首を十郎祐成の墓に手向け、あたは花の二十歳を尼となつて諸國修業にうらぶれ大磯に歸つて、草庵を結び其冥福を祈り、七十歳で死んだ如き人口に喰灸してゐる。

それから左馬頭源義朝の一女は、父が六波羅で敗戦と聞いて十四歳の身を鎌田兵衛の手にかかつて死し、今一人の女さんは兄頼朝が捉へられたと聞いて自分も一緒に殺されたいと泣き通し、遂に深夜河に身を投げて相果てゐる。

二位局禪尼は安德帝を擁じて

今ぞしる御裳すそ川の流には

波の底にも都ありとは

一首を詠じて海中に投ぜし如き其壯烈は、正に男子をして撞着たらしめてゐるではないか。

又坂額女や巴御前は、身丈六尺容貌美麗で腕力絶倫で射術に長じ、數々の義勇奮戦談を残し菊池武時の室や武田勝頼の夫人が夫を勵まして遂に夫と共に自刃せる如き、或は木村重成の室は十九歳で夫の戦死を聞き従容として自刃したではないか。

今一つ風變りな芳原玉屋の遊女「琴柱」の幽霊談を筆録しよう。

琴柱は増上寺の所化僧と相愛の中であつたが、或日

『貴殿は僧侶だから妾とは同穴の契を結ぶ事は出来ないが、如何なる宿世の因縁か君と相馴れてしまつた。願くば徳を磨き名僧となつて下さい』

右の遺書と金一封を添え贈つた後で自殺した。

其後彼僧は二三年たつて品川邊の遊女屋に上つて騒いで居ると、深更忽然として琴柱が枕邊に立つたが、心の迷ひだと自分で打消して又四五日經て登樓したが又々琴柱の姿が枕邊に立つたので初めて迷夢から醒め、奮勵遂に大僧正に昇り學徳一世に並びなき名僧聖譽となつた。

又信濃の國の人、松尾多勢子は勤王の心厚く諸藩の志士と交つて大に之を庇護し、遂に京都に出て天川の義舉や生野の舉兵等に參與し愛國の士と共に行動したが、文久三年捕手に圍まれ自若として自刃した。一首に曰く

ふるさとに歸るもおしき旅衣

大内山に心ひかれて

ドイツの成人教育

ドイツの成人教育は一千八百七十一年民衆教育普及會とよばれて創設された。之は當時のドイツは社會主義が勢力を得て居たので、成人教育を盛んにして此思想に對抗する事が重大なる必要であつたからと云はれ、一八七八年にはフンボルト民衆大學が柏林に開かれた。

之れより先一八七一年普佛戰爭後間もなく「民衆教化擴張會」といふ名稱が現出した。之はライピンクと云ふ中等學校教員の主唱にかゝるもので、忽ちにして六百四十五團體の加盟會員を得て廣大な勢力となつた。

この會の目的は、學校教育の後を承けて民衆に教化を施し現代の社會的政治關係を明瞭に理解せしめんとするもので、多數の婦人も幹部や會員として活動した。ライピンクの死後は有名な教育家テウスが其後を引受けた。

この外レッシングの民衆大學とか、アルトンの民衆大學などもあつて、大に成人教育に貢獻して來たが、一九一一年には此成人教育に對して日本で云ふ文部省令と云ふやうなものが出て

自由的でなく強制的に實施さるゝやうになり、女子も其委員となつてゐる。そして成人教育を受けるものは年齢十八歳以上であるが、母となるべき婦人か又は既に母たる女子が家庭教育や訓練をうける事はより大切な女性の向上であり、賢明なる母を陶冶するので日本でも大に觀る處があつて母の講座を開講した。

日本に於ける母の講座

日本の母の教育の爲に設けられた昭和十年度文部省の母の講座は、其講師としては大學直轄學校教職員其他の教育家又は宗教家等で、人格高潔、學識經驗ある適任者であつて、聴講者は母を原則として其他熱心な婦人希望者を許した。勿論聴講料は之を徴しない。學科は

母の修養

家庭教育

社會教育

家庭科學

以上の四目の範圍で北海道帝大・東京女高師・名古屋醫大・奈良女高師・廣島文理大・長崎醫大其他宮城・横濱・愛媛・福岡の各縣で開講したが、修了者は二千四百餘名、聽講者數約四千人であり相當な成功を收めたと云つてよい。

スポーツ

舊獨逸帝國時代には、女子がスポーツで飛び廻るなどと云ふ事は以ての外のことゝ考へられてゐたが、ところが現在のドイツでは幼稚園から大學に至るまで諸學校の體育は殆ど凡てが諸種のスポーツのみである。

野球はあまり盛んでないが、バスケットボール、ヴァレーボール、ホッケーその他のチーム競技が盛んに行はれ、グラウンドを一つの公民教育の場所として大いに重視してゐる。女子に對してもルールその他を女子向に修正して男子と殆ど變らぬ運動が行はれてゐる。

殊に盛んなのは水泳であつて、全國の學校の必須科目になつて居るのを見ても如何に重點をおいてゐるかが判る。

地方の學校では、運動競技の専門教師を三四人は雇ひ得るだけの大きな學校もあるが、凡て斯んな風に他の學科も受持つてゐると云ふ式である。水泳の外に漕艇、スキー、スケート、テニス或はランニング、ジャンピングその他トラック又はフィールドの競技類が女子にも盛んである。

又、日常生活で行ふ車を押す動作や木を削る動作、或は重い物を持ち上げる動作等自然的に強力を動かす身體の動きを眞似て之れを體育運動にする方法や、自然運動で歩く、走る、飛ぶなどの動作を巧に折込んだ運動も盛んである。斯くした結果、ドイツは婦人のスポーツ王國だと云はれるやうになつたのも蓋し偶然ではない。殊に

「男には力を！ 女には美を！」

この精神で先づ身體を鍛へなければならぬとし、女子青年團の三分の二は體育にあてられてゐる。従つて、ドイツ女子青年團は、他に比類を見ないほどスポーツ體操、ハイキングの外舞踊も音樂も肉體美獲得法の一部として奨励されてゐるのである。

一九三四年には全國的なスポーツデーが定められ、毎年絢爛な大會が各所に開催されるが、



し均等な發育をさせる爲にはリズムミカルな體操が注意深い指導者の下につゞけられてゐるが、

彼女達の簡単なシャツと短いパンツに日光と空氣がより美しく磨をかけてゐる。

由來、獨りドイツ計りでなく、婦人の仕事は兎角下向きがちで手足は使ふが胴の動かし方が

此結果女子の體格は頗る向上して來てゐるが、本當の美は均衡のとれた肉體を土臺とせねばならない筈である。身體各部を平均に動か

足りない大空に向つてボールを投げる運動は、此欠陥を充分に救ふに最もよいからドイツの社會には斯うした婦人スポーツが殆ど學校の日課のやうにして催されるのである。

ドイツ婦人は家庭に入つても休日には一家揃つて歩く、可成乗物を避けて徒歩によつて所謂遠足をするし、廣い場所へ出て今迄に鍛へ上げられた種々の競技に興味ある一日を過す事が多い。これは日本の婦人が大いに學ぶべき點であらうと思ふ。

娛 樂

社會教育の一端として、演劇や寄席や音楽や其他の娛樂から受ける智徳兩方面の感化は偉大な力を以て不知不識の間に國民を教化し、其の思想を作るものである。

ドイツでは娛樂は生活の一部と考へ、國民文化局で新鮮で豊富な娛樂に就いて研究し政府が之を奨励する。

こんな風であるからドイツ人は、好んで劇場を訪れて一夜を之にひたつてゐる。又會合の談話にも芝居や俳優のことや音楽を話題とする事が多い。

ドイツの芝居内の空氣は至つて眞面目で、觀客の多くは禮服着用が大部分を占めて居たが、最近はいふん此の風はくづれて來た。開幕時間は大抵夕刻からで、出し物は日本のやうに幾つもの藝題でなく、大抵一つものを演じ、時間も三時間か四時間を通してゐる。そして其脚本などは所謂民族意識を高揚するやうなもの計りが撰ばれて、之を國家が作り之を國家が監督して而して之を國家が開演して劇を通してナチス獨逸の精神を徹底しやうと云ふのである。

最近日本でも映畫や芝居の脚本の檢閲と云ふ事が行はれて居るが、之は只單に警視廳の取締上からであるから、文藝上の見知を度外視してゐるのは遺憾である。

政府が行ふ劇の外には勞働婦人の慰安と喜びを與へる爲に、女子青年團に課せられた仕事の一つとして病院や母子寮や農村等到處で素人劇團が劇や人形芝居などを催す。此の回数が多いのと各所に開演される點に於て相當教化の役割をもつて居る。

ドイツの寄席は、一般のオペラや芝居よりも其の構造が大きく、舞臺や見物席も大きく何千人を容れることが出来る。

ドイツでは文化統制が確然としてゐるから、脚本でも皆各部門の機關を通して發表すべきか

すべからざるかを決定する。又劇場は官營であり、國立歌劇や國立演劇場などあつて、政府で興行をやるから發達し盛大である。損をしても政府が之を補ふと云ふ風である。

次に音樂であるが、由來、ドイツは哲學と音樂の國といつてもよい程で、特に音樂は世界一と云はれてゐる。

現在ではベートヴェンやモツアルトのやうな天才はゐないが、それでもクライスラーのやうな一流の音樂家がゐる。而して特に婦人は音樂のたしなみが深いだけに國家も之に對して大に力を入れてゐる。

相當なホテルやレストランやカフェーなどへ行くと、そこには相當な音樂隊があつて、音樂の享樂には一向不自由を感じないと云ふ有様で、又夏季休暇などに出かける男女學生の群は大抵ヴァイオリンやマンドリンを肩にかけて出かけるし、大抵の家庭には此種の樂器が備へてあり、娘や母親も之を彈奏して一家擧げて音樂の夕が催される。

此外舞踊なども中々大袈裟な舞臺で開演され、之も政府に於て關心を拂つてゐるので、國家の舞踊會として開かれる。

之等の娛樂は元來張り切つて國家の爲に勤勞する國民への慰安であるから、之によつて明日への力強い働きとなる意味に於て、價值のある方法に於て行はれ、家族的に楽しむものは別として大衆的のものは何れも政府が先にたつてやるのである。

この點は日本とは趣を異にしてゐる。日本では娛樂は個人的で獨りで楽しむやうに出來て居るから、従つて之を通して民族的の味を感受するなど云ふ事は全然なく、泣いても笑つても自分單獨が満足さへすればいい。

だから、芝居でも映畫でもコドモを連れて行つては觀られないやうなものを平氣でやつて居るのが多く、又政府の關涉がないから役者の品行が悪いのが當然のやうに心得て居るものが多いから其劇を通じて眞に面白くない事を教へる事になる。

殊に婦人やコドモに對する風教に資するやうな筋物を觀る事の出來ないのは遺憾である。此點については作者も演出者も大に考慮して一貫した信念と主張の實現に努めたいものである。

家事見習の頃

それは學校ではなく各家庭を其まゝ實驗臺として、又は教室として娘さん達を教育する方法である。

ドイツでは、女學校を卒業した娘さんに六ヶ月間勤勞奉仕をさせる事は義務制となつてゐるが、その前に一ケ年間實地に他の家庭に住み込んで家事教育をします。そして娘が行く家庭の主婦は一定の政府の試験を受けて指導者としての資格を得てゐる。

娘さん達が行く家庭は此指導者の主婦が居ることゝ三人以上の子女があることが條件になつてゐる。そして親戚ではいけない。

國民學校を卒業し、更に二年乃至三年間の職業學校で補助教育を受けた女子達は、所謂國民の義務教育年限を修了したのであるが、之から先は結婚期に入る準備が必要となつて来る。

ナチス政府が要求する母となるべき大切な期間の娘さん達に對しても、政府は充分な心使いをなし種々各方面に命じて色々な方法で手を盡すが、先づ女子青年團に命じて地方の勞働向きの訓練を初める。

この訓練は所謂「野營」の訓練で、直接農家の庭前とか農家附近の廣場などに陣營が張られ

此處に起伏寢食して二週間から三週間訓練をして

家庭見習ひ

家庭労働を體驗する

又一方都會の女子と田舎の女子とを交換して、前に述べたやうな意味の家庭見習ひの實習をやる。

ドイツでは、かうした家庭労働に對する關心と興味とは最近一般堅實な婦人の間に次第に昂まつてきてゐる。

これは獨逸の女子青年が政府の指導方針によつて、國家と民族の發展の基礎としての家庭の意義について明確な自覺をもち、初めた立證であつて此際此時と計りで

家庭へ歸れ

結婚と母性こそ女としての生活の最高の實現である。

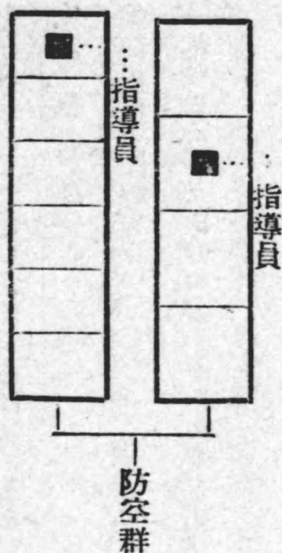
かう叫んで止まないものである。

一 女の隣組と防空群

ドイツにも隣組の制度が確立して、然も秩序整然國家の先端細胞として活動をなし、又防空に當つては防空群が組織されて、日本の群長さんの代りに指導員と云ふ名稱がついてゐる。そして此指導員も群長さんも皆女が之に當り、擔任者と主婦が熱心に自己の一家を護る。

又、防空訓練の場合の防毒處置や避難所救護所では女醫又は看護婦や其他の婦人が一定の訓練を受けて、女手一つで遺憾なく行つて居るが成績は頗る良好である。

此場合の一隣組は三階建若くは四階建の一棟が一組になつて居て、其一組が二つ集つて一防空群が編成されてゐる。



各棟ハ各隣組ト稱セラレ右
ノ棟ハ四戸デ左ノ棟ハ六戸
ニナツテ居ル、各棟ニ一名
ノ指導員ガアリ二棟ヲ一所
ニシテ群ガ編成サレル

最もドイツでは日本のやうな平家建でなく、大抵三階か四階建であるから、其一棟と云つても世帯の數から云へば平家の三倍若くば四倍で、一隣組には少くとも十五六戸以上の世帯がある勘定となる。

日本のやうに徳川時代の隣組制度を人口の増加した昭和時代の隣組にしようとするから、一隣組は五戸か十戸を單位としてと規定したのは考へものである。防空其他の關係から云へば、隣組の戸數は十五戸か二十戸にしたいものである。

さてドイツの隣組では、其組内に居て朝早くから工場等で働き、家計や育児や家の始末などに就ての任務が出来ないと云つた家庭に對しては、指導員が其家の事情を調べた上、その家庭に手傳ひになるやうな婦人を無料で差向けて之を助けてやるし、赤ん坊は自分で預つて乳を吞ませ、お守をして母親の歸る迄無事に氣持よく之を世話する。

又職業に従事する婦人に代つて炊事をしてやつたり、洗濯をしたり衣類の修繕をしたり、裁縫をしたり、時には役場へ出す書面を書いて之を届けたり、又残し置かれた病人があるなれば醫者を呼ぶ事やら看護婦の代理の役迄つとめてやる。(勿論病人があつて働きに出る事が出来

ないと云ふ場合には政府は之を直に國立病院に收容してくれるが、かうして隣人の幸福と隣人救済とを目的とした隣組制度が發達して居るのは、政府から命じたのではない。

すべて何事でもドイツでは上から命令したり、強制するやうな事はなく、下から萌え擧つて或事柄が實現する。彼のヒットラーユーゲントでも、最初は青年達が三々五々寄り集つて協議し、遂に一大勢力となつた曉、その青年達がヒットラーを盟主として戴く事となつたので、女子青年團でも其通り、其他ドイツ國內にある婦人團體のすべてが團體自體が色々の組織をし、充分の成績を擧げてから之をヒットラーに持つて來て、彼を最高の統率者として仰ぐやうになつてゐる。

日本の青年團は、政府や知事や市長や區などの役員が盛んに笛を吹くが一向に踊らない。殊に女子青年團は其甚だしいものがある。其笛の吹き方が青年を呼ぶに適してゐないからだ。

日本に於ける隣組制度

一、トン／＼とからりと隣組

格子をあければ顔なちみ

廻して頂戴廻覽版

知らせられたり知らせたり

二、 トン／＼とからりと隣組

あれこれ面倒味噌醬油

御飯の炊き方垣根越し

教へられたり教へたり

三、 トン／＼とからりと隣組

地震や雷火事泥棒

互に役立つ用心棒

助けられた助けたり

四、 トン／＼とからりと隣組

何軒あらうと一と世帯

心は一つの屋根の月

まとめられたりまとめたり

この歌は誰の作か又この曲は何人が作つたのかは知らないが、歌も節も滑稽に出来てゐる。
だが、現代人には向くと見えて三歳のコードモも唄ひはじめた。

このやうに出来てから間がないのに、日本の隣組は發達進歩して居る。今東京市の隣組規約を載録して見よう

一、町會區域ヲ分割シ概ネ左ノ標準ニ依リ隣組ヲ設ク

1、隣接スル五世帯乃至二十世帯

2、五世帯以上ヲ收容スル「アパート」

3、貸事務所其ノ他ニシテ五世帯以上ヲ收容スルモノト看做シ得ルモノ

一、隣組ノ廢置分合ヲナサントスルトキハ關係アル隣組ノ意見ヲ徵シ町會之ヲ定ム

一、組ハ何々組ト稱ス

一、隣組ハ隣保親和ノ精神ニ則リ交隣相助共同警防其ノ他組内利益ノ増進ヲ圖リ細部の町會事業ノ實踐ニ當ル

一、隣組ノ重要事項ハ組會（常會）ヲ開キ又ハ廻狀ヲ以テ申合スベシ

一、隣組ニ組長ヲ置ク

1、組長ハ隣組各般ノ世話ヲナシ町會其ノ他ヨリノ通知照會等ヲ組員全般ニ通達スルモノトス

2、組長ハ組會ニ於テ適宜選定ス

3、組長ノ任期ハ一ケ年トス

一、組長ヲ補佐スル爲組番ヲ置クコトヲ得組番ノ任期ハ六ケ月トシ組長ノ指名ニ依ル

一、隣組ハ組長ヲ決定シタルトキハ直ニ町會ニ報告スベシ

一、町會ハ其ノ連絡上數箇ノ隣組ヲ集合シテ隣組班ヲ組織スルコトヲ得

現在日本の隣組と防空群とは隣組即ち防空群となつて居るので、随つて組長と群長とは同一人が兼任し、六大都市を初め日本全國を通じて組長や群長に婦人の多い事はドイツのやうに銃後婦人の眞剣な活動心から出た事であらうと思ふ。

しかし隣組長と防空群長とは別人の方がよいと思ふ。

日本の家庭防空に従事する婦人の指導員や群長が、左圖のやうな服裝をして防空訓練に従事して居る態は眞に稟々しいものである。



今やドイツ婦人と日本婦人とは相携へて、高度國防國家建設に向つても、宛然戰線に立つ將士と同じやうな覺悟を以て、國民防空の第一線に立つて家庭城を死守するすの決心が必要となつてゐる。昭和婦人の死命も何と勇ましい事ではあるまいか

一 花嫁學校（プロイテーション）

一九三四年、ドイツ國から云へば北西部に位置するエムス河流域の沼澤地の中央にあるフー
スベケと云ふ一閑村に、不釣合な最も新しい文化的の内容と外觀とを備へた世界で呼びもの
の花嫁學校がある。しかし、此花嫁學校は卒業を目的にしてお嫁めに行く爲の學校ではなくて
將來妻となつた曉には最も有識な家庭の主婦として將又勤勞奉仕者としての修養や訓練を受け
る爲に、一定の期間自分の家庭を離れて此の寮に寝起きする制度のもので、學校と言へば少し
當らない寮である。

そこで、女子青年團でも行事として或一定期間週期的に團員を茲に收容するし、時には地方
の娘さん達を訓練する場合もあるが、要するにナチス政府が希望してゐるドヤツ國家の女子と
しての一人前の心身を造り上げる訓練場の事である。

この一帯はドイツ國內でも低地で、加ふるに沼澤が連なり、じめ／＼とした陰鬱な土地で
百姓の妻君などは泥炭堀りをして其日の糧を得てゐる。日本の東京近在で云へば霞が浦に見る

やうな澤地であるが、何故こんな處を選んで花嫁學校を立てたかと云ふに、之は花嫁學校の持つ其の使命の一翼たる勤勞實習によつて此不毛の土地の開拓をも兼ねてゐるので、全くよつ考慮された施設である。

そしてドイツ親衛隊や突撃隊員へ嫁ぐには必ずこの花嫁學校卒業の證明が必要である。其他一般的に花嫁となるにも此の學校を卒業して居る事は立派な家庭を作り得る能力者たる事が證明される。

日本の花嫁學校は帝都の首府東京に存在して、滿洲開拓の戰士に嫁いで永久に寒烈酷暑と戦つて百姓をする貴い「おかみさん」を出してゐる。

さてフースベケにあるドイツの此の花嫁學校では

夫 婦 生 活

出 産

育 兒

兒 童 教 育

料	手	衛	生	娠	營	看	各	ド
理	藝	生	活	中	養	護	國	イ
			美	の	學		の	ツ
			化	注			歴	の
				意			史	古
								典

かやうな科目に就いて教へられ、課外の労働によつて與へられた附近の不毛の土地に鋤を入れ録をいれて之を開拓して作物のとれる田となし、又美しい四季折々の草花の咲く畑ともして行く。

又、前記科目の外に健康なる體格を作らんが爲にスポーツを盛んにやるし、特に戦時下に於

ける此學校ではボーランド地域に即應して其生活をなし得る凡ての教育をしてゐる。

今ではこの勤勞によつて、フースベケ一帯の土地が其の土地柄に適はしい開墾計畫に成功して年々美しい花嫁の手によつて開けて行くのは、全く日本の花嫁によつて滿洲が拓け行くのと同じやうな意味と希待とを持つてゐると云ふ事である。

此花嫁學校の在學時間は四週間又は六週間で卒業生の中には此土地で結婚生活をするものもあるが、期間中に觀る沼澤地の女性たちの荷つて居る苛酷な生活狀態に觸れて、彼等の勞働に對し一種の畏敬を感じる此の貴い體驗こそ、總て人妻となり國家の支柱たるべき母となる心身の源泉となるのである。

滿洲を觀察した人の話によると、滿洲は廣いと聞いて居たが行つて見て始めて其廣々しさがわかり、同時に其土地が肥沃で、どんな作物でも日本のものとは大きい實のりをしてゐて食べても味がいい。

之を開墾して日本内地と同じ程度の田畑とするには、之から百年でも千年でも悠々たるものであり、そこには日本の十倍も二十倍もの人口を納れる廣茫さが待つて居るのだ。

行け滿洲へ！

拓け滿洲を！

かやうに叫びたくなる、との事だ。若い者は行くべし、此開拓の戦士の行く處どし／＼花嫁も行くべしだ。

日本にもある花嫁學校

ドイツと同じやうに日本にある花嫁學校も、花嫁を製造して直に其學校で結婚さすのでは無く、やはり花嫁となるべき娘さんに其資格になるやうな科目を修得せしめるのであつて、いづぞや新聞紙上に寫真人で掲載された記事は偶々その卒業生の中で滿洲開拓戦士へ嫁いだ娘さんがあつて、其後希望を集めて渡滿させた處好結果を齎し、爾來數度に其方法で嫁いだから興味中心で記者が筆を走らせた結果である。然しそれは悪い事ではないが、日本にある花嫁學校の中〇〇家庭寮の花嫁學校は滿洲開拓戦士を目當として卒業させるのではなく、一般人に嫁いで花嫁として立派な娘を仕立上げやうと云ふので、随つて其學校の名稱が「花嫁學校」とは云はな

「〇〇家庭寮」

このやうに名付けられ、ドイツのやうに勤勞の訓練は極く軽く取扱つてゐる様子である。筆者をして云はしむれば、寧ろ積極的に滿洲を目的とした花嫁を製造する爲の目的下にやればよいと思ふが、此點に於ては何だか物足らぬ氣がするが、其日本の花嫁學校を紹介して見る。

〇〇家庭寮設立の趣旨

女學校卒業後の大多數の女子は家庭に於て家庭生活並に主婦として又母としての資格をつくる爲修養するわけであるが、どの家庭でも、この大切な教育に遺憾なきを期することは非常に困難である。一方から見れば女學校教育によつて常識の基礎はつくられてゐても、實際に之を應用するといふ訓練と家庭婦人として所謂婆といふことは未だ各個人に徹底してゐるといふわけにはゆかぬから、これらのことを是非嫁入前に與へなければならぬ。この非常に大切なことでありながら、家庭で思ふやうに効果の擧げ難い教育をする爲に女子としての覺悟を養ひ、ある程度までの實際的な生活訓練を與へることを必要として本寮を設けたので

ある。

以上が其設立趣意で、さてどんな學科をどんな風に教へて居るかを見るに

修身公民

作法

國學

家事

裁縫

家庭科學

習字

珠算

科外

整容及按摩法（課外）

茶道華道琴ピアノ長唄手藝盆石等ヲ隨意科目トシテ加設ス

かように列んだ科目を見ると、此家庭寮の目的は月給取の花嫁を目標としたもので之では満洲行にはならない。そして修業年限は一ケ年で、成可寮生として起居することを本旨としてゐる。こゝでは個人経営であるから、授業料年額百二十圓を徴収する。

こんな風な内容を持つ家庭寮が東京に二三ヶ所あるが、何れも大同小異である。

この外に東京府や東京市の後援で、本當に満洲移住の目的で女子を訓練して居る訓練所が二ヶ所ある。

之れはドイツのそれと目的を同じくし、其目標も明瞭であるから之こそ眞物の花嫁學校と云つていいのであらう。

しかし前にも述べた通り、ドイツの女子訓練所は特殊的目的でなく、徹頭徹尾ナチス國家の女子として修養せしめ之を訓練するのであるから、政府の方針以外に個人を認めないのである。と云つて自由を束縛する意味ではなく凡ゆる待遇をして居る。

満洲花嫁の卒業生

大陸の花嫁を現地で養成しようと去る七月北安省鐵驛縣安拜に開設された花嫁學校（開拓塾）は熊井女史の努力が報ひられて、いよ／＼近く第一回卒業生十三名を開拓地の花嫁として送出すことになつた。

卒業生は秋田、山形、宮城の各縣から集つて來た娘さん達で、何れも協和會鐵驛縣本部の肝煎りで明治節の佳節を卜して十一月三日鐵驛神社で第一回合同結婚式を擧げる。

新家庭を作つた之等の花嫁さん達は夫君同伴、新婚旅行を兼ねて郷里を訪問大陸の現状を報告する計畫も立てゝ居る。（最近のニュース）

一 結婚事情

政府は結婚奨

東西何れの國でも國民を増加せしめ、種族を播殖せしめる事は國是としてゐる。然しながら政府自體が大に必要に迫られてゐるとゐないとは其の力の入れ方に餘程の輕重があらう。

佛蘭西のやうに年々人口が減少して行く現状が必ずしも結婚に冷膽だと云ふ理由計りではな

く結婚して夫婦生活に入つてもコドモを生む事を避けるやうでは結婚は性慾享樂の爲で、男女の快樂の犠牲になつて終ふ。だからと云つてフランス政府は此避妊を禁止する法律は出し得ないでゐた。

此の現象はフランスが民族的に將又國家的に目覺めないで、個人的を先にした結果であつて今度の敗戰の原因は多々あらうが、此結婚問題も相當重大な原因に加へられるであらう。

ドイツは第一次歐洲大戰に於て驚く勿れ三百萬の壯丁を戦死せしめた爲、今でも男女の數は遙に女が多く、結婚するにも相手がなかつた状況にあつて、自然結婚數が尠なかつたが、ドイツの男女が結婚しない理由は大體左の各項によると云はれて居る。

1、獨身でゐても世間は何とも云はぬしお互も平氣である

2、經濟上の問題

ドイツの中流家庭を持つには其結婚費用は最底で二千マークを必要とする。此費用をお互の男女で工面するには相當の年月を要するし又着々と出來ないと云ふ難問題がある。

3、結婚すると一方が職に離れる

ドイツでは一人一役一職業主義で、日本のやうに文官武官の恩給を二つ戴いて居る人が會社へ出て百圓も二百圓も月給を貰ふやうな事は出来ないから、結婚と同時に一方が勤務を止し職に離れるから收入が直に減少するし、今迄親しんで來た職と別れる事は何となく人生の意義がないやうな氣もする。

4、男女の關係の離合が簡單である

ドイツの男女關係は眞に淡泊であるだから改めて結婚など大袈裟な發表をせずとも相愛した二人は共同生活に入る。そして若しお互に氣まづい事が出來たら二人了解の上さつたと離別して明日は他人様の女房になつても双方の男女は何とも思はぬ。

ドイツの女子の貞操觀念と日本の女子のとは全く違つてゐる。ドイツでは男女が夫婦生活に入るのは家庭生活をして之を國家の犠牲とするにあつて、女性が男性と一緒にゐるだけの事であつて、必ずしもAと云ふ男子でなければならぬ事はない。相手が男性であればよい（勿論相愛でなければ結婚はしないが）のである。

日本の女子の相手の男は何々と云ふ男子に限定されて居り、若し其人と結婚して其男が死ん

だなければ決して他の男とは夫婦生活をしない。即ち「二夫に見へず」と云ふのである。之が日本の女子の貞操觀念である。

だからドイツでは、若い結婚生活に入つた夫婦の一方が永い旅をして居る間に夫が他の女と同棲したり、妻が他の男と肉體關係に陷つても之は咎めないで、却つて夫を又は妻を永い間捨て置いた方に罪があるとされ、むしろ世上から批難される。之はドイツの貞操觀念と日本のとは考へ方が全然違ふからで、ドイツに云はせれば性慾を有する人間の取扱ひ方が間違つてゐると云ふのである。随つて、人倫觀念等も日本とドイツとは相違の點が多々あり得ることであらう。

ドイツは、第一次戦争後民族の増殖と國家の復興とに迫られて人間を増さねばならなくなつた。然も其人間たるや意志の強い健康體の者でなくてはならぬ。

そこで、結婚に對しても政府では一千マークを限度として費用のないものは無利息で貸してやる。そして第一女子教育の主點を體育に置いてゐる。ヒットラーは

民族國家ノ其ノ教育ノ目標ヲ優レタ肉體ノ育成ニオカネバナラヌ。ソレデ知力ノ開發ハ其ノ

次ニ置カネバナラナイ。學校ハ現在ノ教育制度ガ行ツテイルヨリモ遙カニ多クノ時間ヲ「スポーツ」ニ捧ゲネバナラナイ。ソレデコノ點デ多クノ國家主義者達ガ野獸的デ品位ガナイト考ヘル拳闘モ又看過サレテハナラナイ攻撃精神ヲ涵養スル點デハ、イカナル「スポーツ」モ拳闘ニ匹敵シナイ。

このやうに教育の目的を第一先づ身體を作る事としたのは、實に警眼である。又ヒットラーは叫ぶ。

若者ノ着ル着物モ此目的ニ適合スルヤウニ作ラネバナラヌシ女子ハ自分ノ騎士ヲ知ルヤウニ教育サレネバナラナイ。

今日肉體のナ美シサガ大袈裟ナ流行界ノ爲ニ背後ニ壓シヤラレテイナカツタラ幾十萬ノ女子ガ鬱脚ノ唾棄スベキ「ユダヤ」ノ私生兒ニヨツテ誘惑サレルコトハ不可能デアラウ。

美ガ國民ノタメニ生ミ出サレルヤウニ最モ美クシイ肉體ガ相互ニ求メ合フコトガ助長サレネバナラナイ。

之はヒットラーがドイツの青年は其肉體の力と熟練とによつて、再び全ドイツの無敵さを信

するやうに教育されねばならぬと叫んだ時の言葉である。

ドイツでは愈々結婚する事となると、例へば一會社のタイピストと社員とが話が決定すると

結 婚 通 知

今回A氏トB嬢トガ結婚スルコトニナツタ就テハ此結婚ニ異議ノアル
人ハ何月何日迄ニ其理由ヲ以テ異議ノ申請ヲスルコト

年 月 日

會社名
又ハ友人名

斯様な珍廣告が揭示される。そして其の異議申請期間が經過しても異議を稱へる者が無い場合は天下晴れて夫婦になれるので、折角やつと探し出した花嫁さんも此廣告によつて先客が現れた場合は取消しとなる始末だ。處變れば品かはるである。

ドイツではナチス親衛隊の人と結婚するには黨で開設してゐる花嫁學校卒業者でなければ資格がないと云ふ風に、結婚に關して女子を厳選する事は日本と同じ様である。

ヒットラーの結婚観

性と結婚

戦前のドイツ爲政者の中途半端な政策を示す、また別の例は國民の恐るべき道德的疾病と平行して民衆の肉體的健康の恐るべき害毒がどんどん大きくなつたといふことである。

そこで梅毒は到る處に擴がり、肺病患者は國內のあらゆる地方に蔓延した。

然し其當時のドイツ政府は特に梅毒に關する限り拱手傍觀の態度をとつた。

この病氣の原因は第一戀愛の醜用にあつた。我々の生活のユダヤ化と性本能の金錢化は、精神的にも肉體的にも破滅的な影響を及ぼし、次の時代を擔つて立つべき青年を墮落に導いた。結婚があまりに深く金錢と結びつけられてしまつた結果は血液の汚濁を招來した。なぜなればどこの百貨店でもユダヤ人の女店員は「殿下」の落し胤を生むに適當である位にしか考へられてゐなかつたからである。

この結果はつねに完全な墮落である（中略）

結婚はそれ自身が目的であると考へてはいけない。何故なれば結婚には民族の増殖と維持といふ大きな目的があり、之が結婚の唯一の意義である。

結婚は賣淫と梅毒に對する鬭争の第一段階たる意味で、俸給の引上げを行ふことによつて現在よりも若い年齢でもつと簡單に行ひうるやうにせねばならぬ。

今日ドイツ社會生活の全體は、性的觀念と性的刺戟の温床となつてゐる映畫や劇場のプログラム、商店の裝飾やポスター、裁判所から漏れ出た速記録、これらすべては青年にとつて有毒な糧であり、其結果は我々の子孫の間に梅毒を傳染させる足場となつてゐる。町の娼婦を通じて結婚の知識を與へられた多數の青年が、肉體的には健康が侵され、精神的には破滅に頻してゐるのを見ることは恐るべきことではないか。(云々)

尙、ドイツでは見合結婚といふ事は絶対にしないで、大抵戀愛なしには結婚はしないことになつてゐる。随つて社交機關たるダンスによつて此戀愛が媒介される事になる。

ドイツの結婚奇習俗

ドイツの多くの地方では、結婚の舉式に際し僧侶が夫婦の手を組合せるとき、花嫁は争つて上の手の位置をとらうとします。

同時に花婿の方も同じやうなことを試み、茲に男女の二人の手の艶なる争ひが起りますが、結局それは僧侶が男の手を上置きせることによつて目出度くの落着となる。

夫婦は和合すべきものであるが、同時に相争ふものであり争ひによつて又和合が愈々固められるものであることを之らの結婚奇習俗は有力に物語つてゐるのである。

一 母親學校

ナチス政府が最も力を入れてゐる此母親學校の成績によつて、世界各國教育界に新らしい問題が投げかけた事は女性にとつて大なる收獲である。

此母親學校は四つの場合に於て母親學校たり得るのである。即ち

一、各都市にあるムツターシユレン

二、移動的母親學校

三、ムツターハイムに於ける母親教育

四、ハイメデヤーム・S・V

そしてドイツ國內の郡會や田舎の區別なく母となるべき娘さん達を收容してゐる。

男尊女卑とか女尊男卑とか云つて、男女の權現を争つてゐる場合でない。ヒットラーはその著「我が鬭争」に於てかう云つてゐる。

推理ヨリモ力ニ對スル憧レニ影響サレル女ガ

弱イ男ヲ支配スルヨリモ寧ロ強イ男ニ服從スルコトヲ好ムヤウニ

まことに女の心理を的確に握り、之を道破してゐる。之は女性計りでなく男性も亦かやうな心裡に支配されて行くものである。ヒットラーは又曰く

大衆ハ歎願者ヨリモ指揮者ヲ愛スルモノデアル

大衆ハ開放的ナ自由ヲ與ヘラレルヨリモ寧ロ敵ヲ許サナイ教義ヲ喜ブモノデアル

何故ナレバ彼等ハ自由ライカニ使フカヲ殆ド知ラナイノデ自由ヲ與ヘラレルトスグニ見棄テラレタヤウナ不安ヲ感ジルカラデアル

統率者としてのヒットラーは斯様に大衆の心裡を自由にするに斯様な警句を吐いてゐる。蓋し世界の偉人大英雄ならではと頷かしめるものがある。

この調子で男でも女でも大人でもコドモでも果ては獨逸全體を更に進んで佛國を、やがてイギリスを、然して全歐洲に君臨するのであらう

閑話休題

さてドイツの母親學校に就ては小川昇氏が

——感心した母の學校教師養成所——

と題する婦人畫報九月號に掲載の一篇を紹介して見よう。

ベルリンに滞在中色々な施設を見て歩いたが、婦人に關するもので一番印象に残つたのはベルリンにある母の學校の教師養成所である。

母の學校は人口五萬以上の都會には必ず置かれ、今では其數が三百にのぼつてゐるが、之はドイツの愛國婦人會とでもいつてよい國民社會婦人の事業の一つである。

母の學校の先生は全國で三千人以上あるが、尙質のよい教師を補充して行く爲に各地で一通

り教育を受けた人の中から二十五歳以上の希望者を集め、二週間づゝ教師としての訓練指導をすることになつてゐる。

定員は二十五人で一週間三十時間の教育が行はれてゐる。大規模ではないが其設備の立派なこと、要領を得た指導振りは視察に来る人々を驚嘆させずにはおかない。

此間に修業する課目は第一育兒、これは子供の生れる前の注意から育て上るまでを細かく實際的に教へる。衣服や食物は勿論、遊び場所や玩具の選定法までが加へられてゐる。

次に裁縫、調理、洗濯、掃除等の家事一切、これは經濟的合理的といふことが主眼になつてゐるが、だからと云つて窮屈な感じは與へない。簡單で小ざつぱりとした生活の中に、いつも一種のゆとりや美がある。例へば到る處花を有効に使つてゐた。このほか國民經濟の課目もある。それは母の學校は、たゞ家持上手の婦人を作るだけでなく、家庭生活と國家との聯絡をはつきり知らせる機關であるといふ事を證據だてゝゐる。

此母親學校はベルリンのほかにドイツ各地の都會にあつて、一九三六年には百五十校となり現在では實に四百三十を數へるが、ヴェディングにある學校を模範としてゐる。そして小川氏

の話のやうに母親學校の教師たちは交代に本部に集つて、二週間の共同研究に従事し相互に各種改善の報告、今後の活動材料の蒐集などを行ひ、風土、人情、經濟的事情によつて異つた個個別々な努力を一般的な大方針と絶えず調和させるやうにしてゐるのである。

此ヴェディングの母親學校に有名な千古不滅のヒトラーが母への金言

「母ハ予ガ國家ノ支柱ナリ」

右の一句が掲げられてある。

この母親學校はドイツでは「母の學校」と名付られて居るが、教へる科目は花嫁學校と大體同じもので、

子供の躾け方

家事の處理

育兒

食物

衛生

料 理

教 育 講 座

玩 具 製 造

等が重要視され、教育講座ではコドモの心理學が大部分を占めて居て——何故に悲しむか！何故に泣くか等に就いて例證し統計を取り、凡ての角度から研究するし、玩具の製造ではコドモが自ら製造するやうに簡易な材料によつて考案せしめる。

花嫁學校は女子として訓練されるに反し、此學校では母親としての完成が目的であるから、力の入れ方が違つて居る。

寮生にしても家庭の主婦であるから其氣構へも異り、よりよき家庭の責任者と云ふ立場の自覺から何事にも一生懸命である。

又移動的母親學校は、田舎の山間や農村へ行つてバルタイハウス（黨の家）を校舎として學校が初められ、

文 化 映 畫

幻燈

等によつて説明されるが、此學校を開催する回數は黨の支部で決定して本部の指令を受ける段取になつてゐる。

かくして母親修業の期間が終へると、現在の幸福と改善して行く將來の家庭への望みを胸一ぱいに抱いて歸つて行く堅實な母親が、ドイツ國家の爲に力一ぱいで自らの家庭を立派なものにして行けば行く程ドイツ國家は強大に富有に擴がり深められて進んで行くのである。

一 ナチス國家の要求する母親

その精神！

ナチス國家は即ちヒトラーその人の心の表現であるから、同氏が理想のまゝにある母は即チス國家が要求する母である。ヒトラーは國家の支柱たるべき婦人を母として要求して居るのである。

云ひ換ふれば母が娘時代から母になる迄のナチス主義によつて教養熏陶された其精神を以て

家庭を造つて其すべてを國家の犠牲とする——之れがヒトラーの母への願望である。

だから今次歐洲大戦争に戦場に決死的働きをなしつゝある夫や我子を戦争によつて失ふたからとて、妻は母は決して愚痴をこぼし、或は未練の涙は流さない。否寧ろ自分の夫が、我が子がナチス國家の爲に犠牲となつた事を本懐と心得、最高の責任を果たした事を喜んでゐる。

あの危険な獨機の急降下爆撃の放れ業を仕遂げつゝロンドン攻撃を繰返してゐるのは、何れも十六七歳から二十歳迄のドイツ青年であるが、その母は我子の此出動に際して

あゝ神よ

我子によつて其攻撃の効果のより

深大ならん事を護り給へ

かやうに祈るとの事である。然も偶々命を捨てゝも若き荒鷺の母は決して泣かないのだ。此女丈夫の覺悟と心裡とは日本の母と共通してゐる。彼は

ナチス主義國家の爲に

われは

天皇陛下の御爲に

日本帝國の爲に

而して

一家一門の名譽の爲に

ヒトラーは嘗つて日本の「白虎隊」の壯烈なる最後と其母親達が我子を勵ました實例を聞いて非常に感じ入つたとの事であるが、彼と我との母親同士は斯様な場合一脈相通する貴い犠牲心のある事に讀者は領づかるゝ事であらう。

ナチスは——そしてヒトラーは此國家的犠牲心を母に要求してゐる。

次に肉體的方面では家庭の主婦として先づコドモを産む事である。それは一人よりも二人、二人よりも三人否七人八人の子を産んでも其健康は依然として變らぬ體質の持主で、其上に一家の勞作をも苦にせず堪えず丈夫で健康で生々とした正氣に満ちてゐる事である。

この體格は國家が彼等を訓練する爲に女子に就ては特別の體育的考慮を拂つて鍛へ上げて居るので、ドイツに生れた女子は皆この道程を経て母に到達して居る。

ナチス國家は、右のやうな心身共に剛健な然もそれが持続性を有するものを望んでゐる。そしてそれが國家不滅の榮光の爲に戦ひ續けて行く事を欲して斯く訓練して居るのである。

一 母親を保護する施設と法律

ムッターハイム

家庭の爲コドモの爲ひいては國家の爲に母は常に元氣であらねばならぬ。しかし何時も張りつめて家庭の事に當り職業に従事し加へて育兒の爲に心身を勞してゐる母は疲れ勝ちである。この疲勞に休養と慰安とを與へ元氣よく明日の活動をなさしめる爲に、政府では母の休養場を設けてゐる。

こゝへ來た母は其幾日かは全然家庭と離れることが出來、且つ充分に休むことが出来るやうに施設されてゐる。

スボーツの好きな人は――

講演を聞きたい人は――

音樂會が開かれる――

映畫會が催される――

みな各自の好む處に行つて慰安をとるやうになつてゐる。

斯うしてムッターハイムや、各種母親學校に母が集つた後の家庭で、人手のない時にはアルパート・リンスト（勞働奉仕女）によつて留守居ができて母親が歸る迄何一つ遺憾のないやうに守られ、且處理されて行くから母親は安心して心行く迄靜養が出來、潑刺たる心身になつて歸つて來る。そして、此ムッターハイムは大抵景色の佳い場所を選んであるから、自然の恵みを心ゆく迄受けることも出来る。

この期間は三週間程だが、母親は見違ひる程元氣を恢復してゐる。

この施設は到る處にあつて、母親に慰安と休養とを與へるは勿論であるが、之を通して各方面から或は色々の階級にある母が集るところからお互に色々な問題を研究され、或は知識の交換となつて家庭が向上して行く。この一つ一つの家庭が向上して行けば國家が發展して、ドイツ民族の大なる進展の基礎となるのである。

母を護る法律

ドイツ政府では母や婦人に關して色々な法律を公布して之を保護して居る。例へば

一、煉瓦製造や精巧製陶業ナドデ女子ノ勞働ハ著シク制限サレテイル

一、重荷ヲ擔グ場合ハ最高限度ガ規定サレテアル

一、石綿工場ニ従事スル婦人ハ一定時ヲオイテ醫師ノ診斷ヲ受ケサセル

一、漁撈ニ於テハ婦人健康ヲノ害スル惧アル作業ニハ従事サセヌ

一、妊婦ニ對シテハ特別ノ保護規定ガアル

1、職場ノ振當ノ考慮

2、勞働負擔ノ輕減

3、出産前適當ノ時期ニ休暇ヲ與ヘル

4、職業不能期間ト雖モ經濟的保證ヲ與ヘル

一、婦人就業狀態ガ苛酷ナラヌ爲監視員ガ巡視スル

一、公正賃金ノ督促

其他政府は特別の省を設けてコドモと母親の保護をしてゐるが、例へばコドモを誘拐などした者には實に嚴罰に處するから斯う云ふ悪い人間は減少する。

又病氣の母親保護に對しては、到れり盡せりの方法が講ぜられ、無料で國立病院に入院せしめ、滋養分を與へて充分看護をするし、若し此母が職業を持つて居る人なれば、其全快迄の月給は支給される。

又職業婦人たる母親が出産の場合は其前後に休養期間を與へるは勿論、コドモが出来て職場につけなくとも月給は支拂はれて、其生活に其コドモの保育に差支ない方法が講ぜられる。

日本の母子保護法は母とコドモとの個人を保護するが、ドイツの法律はドイツ民族の強大の爲に——その爲であつて何も彼も

國家の爲に

ドイツ民族の爲に

色々と考慮されてゐる。

然し母親達は此法律を受けなくとも立派に行けるやうに努力してゐるが、之には

健康なる母親には健全なコドモが生れる

之をモットとして、健康に氣を使ふことは實に用意周到なもので、殊に日々の食物の料理などは母が全腦を絞り、手練の料理が食膳に上る。

日本の母子保護法

(昭和十二年三月三十日
法律第十九號)

第一條 十三歳以下ノ子ヲ擁スル母貧困ノ爲生活スルコト能ハズ又ハ其ノ子ヲ養育スルコト能

ハザル時ハ本法ニヨリ之ヲ扶助ス

但シ母ニ配偶者(届出ヲナサザルモ事實上婚姻關係ハ同様ノ事情ニアルモノヲ含ム以下同ジ)アル場合ハ此限りニ在ラズ

母、配偶者アル場合ト雖モ其ノ者ガ左ノ各項ノ一ニ該當スル時ハ前項ノ規定ノ適用ニツイテハ母ハ配偶者ナキモノト見做ス

一、精神又ハ身體ノ障害ニ因リ勞働ヲ行フコト能ハザル時

二、行方不明ナルトキ

三、法令ニ因リ拘禁セラレタル時

四、母子ヲ遺棄シタルトキ

第二條 本條ノ適用ニツイテハ十三歳以下ノ孫ヲ擁スル祖母ニシテ命令ノ定ムルモノハ十三歳

以下ノ子ヲ擁スル母ト見做シ其ノ孫ハ其ノ子ト見做ス

第三條 第一條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クベキ場合ト雖モ母ガ性行其他ノ事由ニ因リ子ヲ養育ス

ルニ適セザルトキハ之ヲ扶助セズ

第四條 第一條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クベキ場合ト雖モ母ノ扶養義務者及其子ノ扶養義務者共

ニ扶養ヲナスコトヲ得ルトキハ之ヲ扶助セズ

但シ急迫ノ事情アルトキハ此限ニ在ラズ

第五條 扶助ハ母ノ市町村長之ヲ行フ

第六條 扶助ノ種類ハ

生活扶助

養育扶助

生業扶助

及醫療トス

扶助ハ母ノ生活及子ノ養育ニ必要ナル限度ニ於テ之ヲ行フ

(必要ナキ條項ハ省略ス)

第十條 扶助ヲ受クル母左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ市町村長ハ扶助ヲ爲サザルコト

ヲ得

一、本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ從ハザルトキ

二、故ナク扶助ニ關スル調査ヲ拒ミタルトキ

三、第七條ノ規定ニ依ル市町村長ノ注意ニ從ハザルトキ

母子保護法施行令

第一條——三條迄省略

第四條 前項略

扶助ノ廢止、停止又ハ變更ノ場合ニ於テ扶助ヲ受クル母已ムヲ得ザル事由ニ因リ前渡シタル金錢又ハ物品ヲ費消シ又ハ喪失シ且返還ノ資力ナキトキハ之ヲ返還セシメザルコトヲ得

第五條 生業扶助ハ母ノ生業ニ必要ナル資金器具資料ノ給與若クハ貸與ヲナシ又ハ生業ニ必要ナル技能ヲ授クルコトニ於テ之ヲ行フ

第十一條 埋葬ノ爲支出スル費用ノ限度ハ十圓以內ニ於テ地方長官之ヲ定ム
此條は十四條まであり外に

母子保護法施行規則 (昭和十二年十二月四日
內務省令第五十四號)

右十一條により施行方法の詳細が規定され母子を保護することになつてゐる。

一 母となつてからのドイツ婦人

きりつめた生活

ドイツ婦人は元來ケチだと云はれてゐます。然し之はドイツ婦人の全般が經濟的觀念に強い證據なのである。

早い話が日常の買物にしても決して廻つて来る御用きゝには命じないで、朝になると電車やバスを利用して手提籠をさげて市場へ出かけて行く。そして毎朝の新聞に出る食料品の値段表によつて一錢でも安い店へ／＼と押かけると云ふ始末であり、其品物の買方も品質を吟味し、目方ものなれば一匁でも違はないやうに自分で目盛に注意すると云ふ有様である。

又月初めに、一ヶ月の經濟の豫算を立てゝ置くが、此豫算中の一割は最初から貯金して置くが、買物の上手の爲に残つたお金も月末になつては三圓五圓と貯金通帳に入れると云ふ風である。

又お料理は母になる迄の間に學理と實際とを充分に習ひ覺えてあるから、一般専門店の料理師と同じ腕前を持つて居るので、毎日の食卓に上る品々も衛生的に且滋養的に料理され、主人や一家族の好むやうに味付して列べると云ふ始末である。

かやうに妻が母が料理師のやうな手腕の持主であるから、外へ出て食べても家の方が却つて

ウマイのだから食事の時を楽しみ一家團欒となるのはイ、習慣ではある。

日本の家庭のやうに料理の心得の不充分な妻君が、カロリーも滋養も値段も一向お構ひなく行き當りばつたりで、其日々々を胡麻化す料理とは違つて、ドイツの主婦の料理は月始めに毎週の料理表が作製してあつて、滋養成分の鹽梅や種類の配分がしてあるから片寄つた食物を食べなくともいゝ事になつて、無駄がない。

又家に女中が居ても日常の買物は妻君が出かけて之を女中に渡して料理をさせると云ふ式で女中は女中で料理一式を研究する爲に一生懸命に勉強して、奥様の試験に合格するやうに努めると云ふ有様である。

此點は日本の主婦、特に花嫁時代の妻君が大に取つてもので學ぶべき事であらう。

それかあらぬか世界婦人の中で「世話女房」としての理想の女は「ドイツ女」と云はれてゐる。斯様にドイツの婦人は經濟に目覺め、一家の家政を無駄なしにやつて行く事に研究し苦心して居る。

母の働きぶり

ドイツの家庭の主婦は、働きやである朝から晩まで寸分の間がない程心と身體とを使ふ。

そして其の時間的觀念が正確であるから、例へば訪問時間以外に主婦を尋ねて行つても遇へない事になる。

日本人の家庭のやうに日曜日の休日に一家揃つて外出しようと云ふ矢先、訪問されても外出を差控へて午前中も話込むと云ふやうな事はない。又偶々の日曜日に訪づれる人もないのである。

此點について筆者がドイツ婦人に就いて感心した事實を話さう。

それは此の本を書く爲に獨逸大使館を訪問した時の事である。

筆者が會見を申込んだ嬢は、女子青年團の指導者としてドイツでの樞要な位置に居る人で、日本駐在を命ぜられてゐる方である。

通譯の森氏から取次いで貰ふと、只今執務中だとの事である。で森氏に就いて色々話を承つ

てゐる間に三回迄訊いて貰つたが矢張り手が放せぬとの事である。

かうして二時間を過して待つてゐたが到々會へない。此時森氏は

「ドイツの人は時間的に仕事をしますから、訪問時間以外の飛入りはお氣の毒ですが會へませんよ」

筆者は感心して後日の會見日時を約束して引上げたが、かう云ふ風にドイツの婦人が殊に時間を厳守するのはいゝ事である。之は眞にイ、習慣である。

日本は昔から「日本時間」と云つて午前十時を必要とすれば少くとも午前九時集合と云ふ振出しをしておいて十時頃にポツリ／＼と顔を見せ、愈々開會するのが十一時少し廻つた頃である。此一人一人の時間の空費は僅かなものであるが、十人の二十人の空費時間を總計すれば眞に覺醒しなければならぬ事である。然し此頃の日本の婦人の會合には約束時間が厳守されて氣持がよい。之れは婦人から男子をして之に慣はしむるやうしたものである。

さて、ドイツの家庭の母は寸分の隙のない程よく働くが、用事が終れば何も彼も忘れてしまつて遊ぶ。つまり

よく働いて　よく遊ぶ

次に子女の家庭教育の状況は、ナチス政府が國家の基礎は先づ家庭にあるとの強調から出發して、その國家の源泉となるべき家庭教育は非常の考慮が拂はれて居る。

第一子女は國家の大切な一人一人であるから之を健康に育てねばならぬから衛生に注意し、父も母も全家族がスコヤカである事に努力する。随つてコドモの室の通風採光等に到る迄細心の加減と注意とが拂はれてゐる。

日本のやうに知育教育に偏重して居る結果、小學校の生徒に苛酷な學科の復習をやらす爲に無理に机に向はせて本を讀ませ算術の豫習をやらすなどの事は決してやらない。

ドイツの母親は、皆一人前以上の母親であるから、子女の教育には教師としても充分の腕前を持つてゐるから、學科の質問にでも満足の出來る解答をしてやる。云はば之れ位の質問に答へて出來ないやうな婦人は母とならないので、兎に角親類や兄弟や兩親が勧めるから不足勝な娘が結婚して母となるやうな事はないのだから安心なものである。

かう云ふ點に於ては、日本の女子教育も大に考へねばならぬと思ふ。

何と云つても家庭教育の中心は母にある。母の賢愚良否は子女に直に反影して之が習ひ性となつて、折角の天才兒も平凡に終る事になる。

三ツ兒の僻は百まで

この言葉は家庭教育の眞髓を言ひ表した言葉である。心すべき哉である。

健 康 美

ひとり母ばかりでなくドイツの婦人は、お化粧による美裝美貌を排して飽迄生地のままの自然美に對して努力する。

筆者の知人で獨逸通の人の話によると、家庭の鏡臺の前には化粧道具が無い。時たまあれば香ひのしない化粧水くらひのものだ。

日本は若い母の鏡臺ばかりでない四十も五十もの年をとつて十七八歳の娘を持つた母の鏡臺を見れば

紅

お　白　粉

化粧刷毛

クリーム

髪の道具一式

まるで小さい化粧屋の陳列棚ほど色々なものが列んで居る。

そして一時間以上もかゝつて加工し初めてベタ／＼と曰壁のやうな化粧をして其の上ケペケバしい年より十年も若い着物や帯をして出かけるのは餘り見ともよくない事だ。

此費用だけでも中流の家庭では恐らく月に拾圓はかゝると云ふもの。況んや之を商買のやうにしてゐる上流婦人達が、金銭と時間を空費する事は實に夥だしいものがある。之は此際覺醒したいものである。子女教育の爲に將又家庭經濟の爲に進んでは健康美の輝きの爲に――。

ドイツの母は運動によつて精神的、慰安によつて食物によつて自己の持つ自然美の發揮に努め、健康美を磨き上げてゐる。だから、生地のままの美に艶々と顔色は輝き肉體美は豐滿である。

ドイツ婦人だつて百人が百人迄太つた人ばかりではなく、勿論瘠せぎすな體質の人もあるが何れも加工的人工的の美を嫌ひ、自然美健康美に憧れを見せる事に力めてゐるのだ。大に學ぶべき事ではないか。

母 性 愛

燒野の雉子夜の鶴子を思ふ親心である。山は燒けても山鳥は卵を温めて逃げない。子猿を狩られた親猿は垂した我子の屍を温めに來る。之れらは之れ禽獸の母性愛である。

萬物の靈長たる人間の母性愛は盲目的であつてはならないのである。

ドイツの兒童研究家として知られたヒルデガルト・ヘッツアは「母性愛」なる著を出してゐるが、此の著は高尾豐作氏によつて翻譯され、刀江書院から發行されて居るが、其中に「母性愛型」が書きつゞられてあるから、之を參考にしてドイツの母親の母性愛を探らう。

子供はたとゝ生れただけでは本當に心身の健全なる發育を期待し得ない。それにはどうしても秩序ある母性の愛育が必要である。同時に一國の女性が本當に幸福な健實な國民生活を營む

ためには是非

子供の母親たれ

それ故にこそ

婦人よ家庭へ還れ

といふ現代ナチスの國策宣傳として見ても亦この書の内容はまことに示唆に富んでゐる。

母性的態度

母親の母性的態度はどの母親も同一である譯はない。銘々の素質、生活の運命、教養の程度、世界觀などに従つて、猶其他多くの見知からして假令どのやうに相違してゐても母性的態度はそれから生じてくる母性的舉動の次に述べんとする四つの基本形態に別れる。

一、秩序型母性

この型の母性は一口に云ふと「良きお母さん」である。そして自分の心に落着があつて家庭的にもよく調和し圓滿である。その生活には毅然たる態度をもつて立つことが出来る。そしてどの子供にし對ても偏頗なところがなく、夫に對しても不満を感じしめるやうな事

なく、結婚生活も幸福である。コドモには愛情深く、子供は自分勝手に扱ふものでなく委ねられた共同の財と見、之れに對して責任を感じる。そして子供達の個性に立ち入つて世話をしながらも、甘やかしたり柔弱にしたりすることなく、又教育問題に對する彼女等の態度を見ると、個人主義的なところがなく、客觀的な諸規範を守り舊來の教育傳統を尊重し然も之等に對して批判的である。而して一定の精神的機轉と理性力とを前提としてはあるが、然しそれは決して所謂インテリ層に屬してゐると云ふ事を前提とする意味ではない。別に何の教養もないけれど、自然にさうした秩序型の母親として理智が働くのである。

二、無秩序型母性

三、精神固定型母性

四、衝動型母性（説明略）

以上の型態によつて産み出される母性愛が本當の人間の母性愛であり、ドイツの理想的國家を造るコドモの教育者母であるとして居る。私達の周圍にも此の母性愛をはき違へた爲、成人した息子の爲に不用扱ひにされて泣き悲んで居る母を見ることがある。

心すべき事である。

生活美化

ドイツの花嫁學校の科目中にこの生活美化と云ふ一科目が見出される。

然し此美化は虚榮美や虚飾美のことを云ふのではなくて、所謂美學から見る審美觀賞の事である。例へば住宅内にある机本箱等の家具に到る迄、政府に於て其規格を美の要素から割出してその色、形や寸法までを規定して居る。それは何れも質實剛健な感じを持ち、且素朴な農村的生活感情に満ちてゐるが、之を農村向として造つたのではなく、ドイツ國の都會や農村への區別がなく、國民住宅への家具であるが調和美が備つてゐる。

日本の上流家庭の應接間にある机や戸棚などは、實に千金萬金を費したやうな金銀づくめやさなくば一物千金を出さねば得られないやうなものを置いて以て誇りとして居るのと較べて、全く奇異の感がするが、日本の家庭はそれだけ餘裕がありと云へばそれ迄だが、ドイツでは其他生活上のすべてに就て美化をすゝめて政府に於て之を教へ一定してゐる。

玄關に咲く一輪の花も主婦が裏の畑で作つた草花であつたり、室内を整理して見るからキチ

ンとした整頓美を見せたりする處は、高價なもので飾りつくした室よりもキリリとした美感を與へるものである。

日常食卓の上でも煮炊きした鍋の儘で箸を入れて摘み出しては同じものでもマヅイ感じがする。之を皿に入れて形よく切つて並べるとか、同じ盛上るにしても雜然としないで美的に揃ひ上げて出せば如何にもウマさうに見えるものである。

同じ食物でもウマイと感じて食するのと、之はマヅイと思ひながら食するのとは大變な差違で、其精神的作用が消化や滋養の上にも大きい影響のある事は色々な例で立證されてゐる。即ち形が整ふと云ふ事は生活上の萬事萬端に心すべき事であらう。

日本では今、生活改善問題が叫ばれて居るが、ドイツのやう家具の形や寸法迄規定して之を政府の規格として國民が一定するところ迄進んでゐない。故に我等の衣服にしても

1、ふだん着の和服と洋服

夏着、合着、冬着、オーバー、羽織、インパネス

2、外出用の洋服と和服

前同様の用意が必要

3、儀式用の洋服と和服

前同様の用意が必要

着物でさえも前記のやうに三様が必要であり、それに足袋や靴下や手袋と云つたやうに如何にも不經濟な着物である。

最近國民服の制定が問題になつて居て愈々之が實現をみたのは嬉しい、此服裝の一定によつて生活改善の大半は其目的が達せられると思ふ。其他のものも萬事簡單化して之に質實な美化をすればいいと思ふ。



結婚と母性とは、女としての最高の生活ではあります。が、戦争はたゞ女を單なる母として家庭にのみ生きることを許しません。

女性は母たると同時に國家にとつても亦一人の

國民としてこの非常時には、その手を要求されます。然し乍ら女性としての力を職業にさゝげる彼女等も、母と同じく國を荷ひ民族を形づくる一員なのであります。高度文明國に於いては機械が多くの人手に代りましたけれども、その反面どうしても、勞働力に俟たなければならぬのであります。戦争に馳り出された男子に代つて、女子の勞働力が目下のドイツにとつては不可欠なものとして要求されて居ります。勿論これは、非常時體勢として一時的のものであつ

ても、婦人達は、肉體的にも、智能的にも、男子に劣らぬ立派な成績をあげて居るのであります。

ドイツの婦人は一般的に、科學的素養が高いので、戦争と同時に技師として工場で働いて居るものも澤山ある。

ドイツ全體としては百二十萬人の女性が各々その職場について居りますが、其中の二十五％は工場で働く婦人であります。かうした百二十萬といふ國民の多數のために、その勞働條件を良くしなければならぬといふことが、漸く問題にされはじめ、ナチスが政權を獲得して以來「獨逸勞働戦線」の組織の中に「女子部」が設けられて、職業婦人を婦人自身の手で保護するやうになつたのであります。婦人の體質素質に相應しい職場を決定したり、夜間就業の禁止をしたりなどする看視の役目は、結局婦人自身の手でやるのが一番正しい結果が得られるのであります。

例へば妊婦の保護とか、子供を持つ母親並びに子供の保護なども婦人の手によつてこそ得られたものであります。

妊婦は仕事の割當てに際して特別の考慮が拂はれます。労働の負擔は勿論軽減されますし、出産前には適當な休暇が與へられ、就業不能の期間中は經濟的な保護さへ與へられて居りますかうした婦人の職場の決定や、工場規則の制定などにあたつて、最後の責任をもつのは「婦人監視員」であります。婦人監視員は、多數の労働婦人中の筆頭として工場側の要求と婦人従業員の希望との間の調整をし、其他婦人労働者の相談相手となり、種々のトラブルの解決に當ります。

個々の工場では、婦人労働者は毎日新しいミルク、午後には暖いスープやバター等も用意されて、働く婦人には缺く可からざる栄養として考へられてゐます。婦人の働く時節は週四十八時間から、例外としては五四時間を軍需工場で、孜孜として國家のために仕事臺或は機械に就いて働いて居ります。

然し乍ら工場での仕事は、非常に精密ではあつても、それが必ずしも彼女達の生活の中心點ではありません。その中心の思ひは、何と云つても、その家族にかゝつてゐます。即ち夫や、子供のことに、或は食事の世話とか、洗濯とか、家の中の細々したことも、彼女の思ひを促へ

ることです。戸外の茶園にはトマトが色付きはじめたでせうし、櫻ん坊もかりとられなければならぬ、それが彼女達の現實の領域なのであります。

けれども工場で働いてゐると、充分にさうした、楽しい家庭の仕事が出来ません。そのためにはドイツでは「隣人救済」の組織があるので、さうした餘力のない婦人は、充分な時間の餘裕のある婦人の力に依ることが出来ます。B・D・Mの少女達はよろこんで、働く婦人を助けます。又生活のために必要な品々を前もつて依頼しておくと、次ぎには、工場から歸るときにはちやんと、注文品を荷物にしておいてくれます。

工場には、どこでも托兒所の附設があるので、母親達は子供を連れて、工場にまゐります。幼児は母の手から直ちに保姆の手に渡されて母の働いてゐる間を楽しく遊び、夕方復母につれられて家に歸る。

毎週或は二週間に一日洗濯日と名付けられてゐる休日があります。日ごろ工場で機械の騒音と喧騒の中に男に交じつて雄々しく働く婦人も、この日ばかりは、家妻としてやさしい女性にかへります。

出征中の夫が、もし戦線から賜暇を得て歸つて來ると、軍需工場に働いてゐる彼女たちも亦賜暇を貰つて家庭に在つて、夫をはげましなぐさめることが出来るのです。

其他休日なしに工場に働く婦人が、仕事に疲れ、休養を要する場合は直ちに休養が得られます。そしてムッターハイムに三週間乃至四週間の滞在が許可され、その間工場は勤勞奉仕の人が代行し、家庭の雑務は、婦人團體の人或はB・D・Mの人達が母に代つて子供の世話は勿論家の中の細々した仕事をしてくれますので、休養中の母親は少しの心配もなく充分に、休むことが出来るのであります。

其際藥學生は藥の工場の婦人に代りますし、洋服のデザイナーはその優秀な技術を用ひて飛行機の製圖をする場合などもあつて、それぞれ同系統の仕事をするやうな仕組みになつて居てドイツでは有効に各人の能力を伸展させて國家のために盡すことをもつて、國家の福利の増進がやがて亦個人の幸福であると考へ全國民をあげて、一致團結勝利に邁進して居ります。

一 母と子の科學教育（座談會）

東京朝日新聞社が此方面の權威者によつて座談會を催し、其人々の話を掲載して居りますが、其話の中でドイツに觸れた部分を摘書して参考に致します。

日本の小學校で漢字を教へる事にかんがひの苦心と時間が費される。田中館博士などはローマ字に改革せよと叫んだり、其他漢字制限論など随分やかましいものです。此席上でも東大航空研究所の山本峰雄氏は

ドイツの小學校などでは字を教へるのに先づ音から入つて行く、日本の言葉とは全然組立が違つてゐるんですから此點は日本の方が損だといへばいへます。

女高師附屬小學主事堀 七藏氏は

田中館博士のローマ字にも眞理があると思ひます。といひますのは日本人は漢字をやつて來た關係から兎に角假名ですむところを無理に漢字をあてゐる。又用語なども漢字をつかつて難しい言葉を必要以外のところに能くつかふ、之が各方面に相當わざはいを及してゐる例へば

【中が空なのを中空といふ】

などと説明します。(笑聲) 然もかうした難かしい定義を授けて覚えさせると云ふ事が小學校から中學校の教育には非常に多いのです。それで結局むしろ假名の方がよいローマ字の方がよいと云ふ議論も出て來るのだと思ひます。

次に本社の方から

ドイツでも小學校は矢張り一人の先生で何んでも教へますか

堀高師附屬主事

ドイツでも低學年は矢張り一人の先生がやつて居ますが、上級の方になると分れて居るやうです。

文部省圖書監修官鹽野直道氏

高等科位になると少しは分れた方がいゝかと思ひます。

堀氏

文科系統と理科系統位に分けた方がいゝでせう。

本社

最後に家庭に於ける科學教育についてお話を願ひます。小學校に於ていくら科學教育をしても家庭でそれをおちこわすやうな事があつてはなんにもなりませんから、家庭と小學校の連絡方法、それから兒童を正しく導く爲に主婦の科學知識を向上させなければなりません。其方法について……………

女子經濟專門學校沼畑金四郎氏

現代のご婦人の方を見ますと、どうも科學に對する關心、理解力が足りないやうで、特に數量計量觀念は乏しいやうに思はれます。

寒暖計、各種メーターの見方を生徒に訊て見ると殆ど知つて居る人がゐません。主婦として家庭に入つた場合ガス電氣のメーターを見るとか、煮物等の温度を知るとかは直ぐ必要なことですが知つてゐる人は殆どゐません。ですから私達は數の觀念を髓り頭に入れさせて、それから家事の研究に移つて行くといふ事にしてゐます。

現在のやうに木炭が切符制になりガス、電燈、水道等の使用節約が叫ばれて居る時代には尙更メーター熱量の知識が必要です。日本の家庭の主婦の行つてゐる目分量や、この位と

云ふ氣が家庭に於ける科學の發達を非常に阻害してゐると私は思つて居ます。

此時局を契機に、もつと家庭の主婦が科學的になればそれだけ日本全體の科學の水準が上つて來るのです。主婦が科學的になれば必ずコードモも亦科學的になるものです。

簡単な寒暖計なんかから是非行つて載きたいものです。日本の主婦は普段の心槽へ等におきましてドイツの婦人等に比較して劣つてゐるやうに思はれます。

私の妹は今ドイツに居りまして、時々便りを寄越しますが、歐洲大戰前にしても

ドイツはマツチが少なかつた。それでドイツの婦人はマツチを一べん使つた後でも軸木は捨てないで、そして其軸木を、どうするかといひますと鼻藥（マツチの先につける藥）を家庭で一べん使用したマツチの軸木に塗つて二度二度と使ひます。

此點について私はある新聞社から頼まれまして其使用法を書きました處、その新聞社から警視廳の方へ家庭でこんなものを作つて使用してもよいかと問ひ合せたところ許可になりませんでした。つまり日本の家庭では

ドイツの家庭で普段使つて居る藥品さへ危險と判定されるのです。

結局それだけ

ドイツの家庭より日本の家庭は科學智識が劣つて居るといふ事になります。

電燈のヒューズが切れても日本の家庭の主婦は直せないが

ドイツの家庭の主婦は皆ヒューズを使つて立派に直します。

人手を省いて自給自足の立前から云つても斯う云ふ事が根本的になる大事な事だと思ひます。

山本氏

ドイツの主婦の話が出ましたが、私もドイツに居りました時ドイツの主婦について感心した事があります。

ベルリンと云ふ處は電氣は直流もあるし交流もあります。各家庭に百ボルト二百ボルトと云ふやうな線が入つてゐます。

私がベルリンに居た時、其宿の電燈のヒューズが切れたことがありました。ところが其宿のおかみさんが眼が悪いので私に、うちの電氣はD・C(直流の二百二十ボルトだから、

ちよつと見てくれと云ふんです。感心もし少々驚きもしました。又表に寒暖計を出しておいて外出する時なんかは、其表の寒暖計を見て、今日は何度だから、あの着物を着て行かうとか、幾度だから多く着やうとか少くしやうとかを決めて出る。

だから外に出てから暑すぎたり寒すぎたりして困ることはない譯です。

それから先程沼畑さんのいはれたマツチのことは私も體驗しました。又最近ではジャガイモの皮も捨てないで色々と工風し利用してゐるさうです。

本社

ドイツから、つい最近ジャガ薯の葉や莖で紙を作り、その紙で作つた新聞を送つて來ましたが、なか／＼どうして立派なものです。

沼畑金四郎氏

ドイツの婦人たちはスフにしても日本の婦人達のやうに不平を云はない。そして其最善の使用法を研究してゐる。例へばスフの服にアイロンを當るにしてもアイロンが一番スフに利く温度を研究して、そして無駄に熱量を使はずに、高過ぎて焦げたり低くて利かなかつ

たりすることのないやうにしています。どの位がスフの温度に適當かと申しますと、アイロンの中に何か固形物が入つてゐまして其固形物が前以て調べたスフの温度まで來ると溶けるやうになつてゐます。それで其固形物を標準にしてそれが溶けかゝる頃になれば之れ以上の熱量はいらぬと電気は止めます。さあさう云つた譯で

ドイツは總てこの調子で實に氣持よく何事も科學で解決してをります。

堀氏

十五年程前の話ですが、私が英國やドイツに参りました時マッチを初めに一本つけましてそれをガスにつけ其ガスの火を割箸のやうなもので次々へとつけてゐました。物を節約すると云ふ點では日本の家庭は大に反省する必要があります。

日本の家庭では往々にして本當の節約と云ふ事と吝嗇と云ふ事とを混同してゐるんでないでせうか。

日本は今迄物質に恵まれてゐたと云ふ事も云へます。

山本氏

ドイツの教育と日本教育とを比較して見て、結局一番日本に欠けてゐるのは何と云つても金の掛け方が全然違つてゐる。小學校の標本にしても模型にしても

ドイツの小學校と比べると段違ひの感がします。小學校教育國民教育と云ふ事は國家にとつて眞に重大なことなんですから、もつと映畫教育にしろ金をかけてやるべきだと思ひます。(中略)

文部省圖書監修官桑木來吉氏

極端な映畫教育論者に云はせますと、映畫を主體にして教育をやりたいと云つてゐますが私も映畫を地理とか理科とかに取入れる事については反對ではありませんが、どうしても映畫教育でなければならぬとは考へません。

今度の理科教育は從來のとは大分違つて居りますが、自然界の事物、生態現象を観察する場合、假令戸外に生徒を連れ出して研究しても自然には四季があり其一部分しか觀察できない譯ですが、映畫を其場合取入れてやれば四季の變化でも何んでも一時に判るといふことになります。(中略)

松本高校講師菅井準一氏

私は雑誌や新聞の科學の記事を注意して讀んで居ますが、現代の日本の家庭の主婦には消
化し切れない實際生活と縁の遠いものが多いやうに思はれます。

例へば此藥品と藥品とを合せてかうすればよい。と書いてあつても、普通の家庭の主婦で
は其やり方が判らないと思ひます。

(中略) 私は日本の主婦の科學的知識の低いのは、一つは日本の家庭制度にも因ると思ひ
ます。

日本の家庭制度は非常によい面を持つ反面餘程上流の家庭の主婦は別として先づ普通の家
庭では主婦といふものは次から次へと色々の雜用に追はれて主婦の持つ時間が殆どない。

新聞や雑誌をゆつくり讀むと云ふ時間がない。(中略) 家庭では善かれ悪かれ、今迄通し
て來て居る經驗があるんですから其經驗を捨てゝ新しい方法を採らうといふには、どう
しても餘り面倒な難しいものは向かないと思ひます。

桑木氏

新聞や雜誌等も國民を指導するやうにして戴きたい。

沼畑氏

婦人は一般に物の根本を究めて考へるといふより表面上のことを直ぐ考へるやうです。私等はよく

母の會とか其他の色々の會に講演を頼まれますが、スフの話にしても其根本的な事は考へやうとはせず、スフの石鹼は何がよいか洗ひ方はどうすればよいかと云ふやうな枝葉のことばかりしか聞いてくれません。(云々)

鹽野氏

日本人は一つの事をいつ迄も深く考へてゐるよりも次から次へと素早く處理して行くといふやうな國民性が強い。こんな事が案外科學の發達と或る關係を有してゐるんぢやないですか。

本社

永い事ありがたうございました。(完)

一 大政翼賛運動に現れた日本婦人

大政翼賛會事務總長 伯爵 有馬頼寧氏

今度の大政翼賛運動の始まる時分に婦人團體の方に非常に押かけられて、どうあつても婦人部を作れといふ話があつた。

總理の聲明の中に取立てゝ婦人といふことを謳つてゐないが、全國民といつてゐるから其中には婦人も當然入つてゐる。總ての問題が男子に關係があるやうに大部分の問題も婦人にも關係があるから、何も婦人部といつて特別に取扱ふ必要はない。といつたら

「それではいけない。婦人は婦人として婦人部といふものが別個にあつて特別に取扱つしほし」

と云ふやうな事をいはれた位ですから、外の婦人連中も勿論さうなんです。

私はかつて婦人參政權の運動の問題が議會に出た時に、賛成演説をした一人ですが其時分はそんな考へを持つて居ました。

今度この運動で婦人問題を取上なければならぬと痛切に感じてゐるのは、婦人の力を伸張させるとか、婦人を尊重するとか、さう云ふ意味からでなくて、寧ろ婦人にとつては迷惑な話かもしれないが婦人といふものを度外視したのでは此運動は充分に成功しないのではないかと云ふやうな感じを持つてゐる。

それは就中經濟關係の事及び生活問題といふやうなもの、所謂國民經濟の方面といふものが完全に行はれてゐない。責任の一斑は私は婦人にあると思ふ。

男が外でいくら氣張つてやかましくやつても、家に歸つてしまふと丸で無力で大概の亭主は家に歸ると頭が上らないのが多いから意氣地がない。

此間も或高官が

「闇取引をやつたり買溜をする奴は嚴罰に處する」

といつたら、或人は

「それは結構ですが家にお歸りになつてから」

といつたら、家に歸つて見たら家の椽の下に炭俵が一ばい詰つて居たと云ふ。

又近所に火事があつた時、近所の青年團が皆で手傳ひに行つて色々な荷物を運び出したら、
其中に

「米俵が三十俵あつた」

之を見た青年團は皆引上げてしまつた。

かう云ふ問題は役所が幾らえらさうな顔をしても家に歸れば女房に頭が上らないから、私は
「あゝ云ふ案は家で考へたらいいではないか」

といつた。

女房子供を前においてやつたら、あんな無鐵砲のことは案が出て來ない。

私はさう云ふ意味で、婦人を訓練すると云ひますか、教育するといひますか、それをやらなければ男ばかりが幾らふん張つても皆家で壊されてしまふと思ふ。

今日の統制經濟と云ふものは、大部分家庭に關係するから、さう云ふ意味から婦人問題といふものは重要だと思ふし、將來の日本を背負つて立つものは女の場合に於ても

「若い婦人だと思ふ」

さういふ意味で之を餘程眞劍にやらなければいけない。吾々目前の問題にばかり熱を上げてゐる時でない。やはり將來の問題といふものも十分に考へる必要もあると思ふ。

愛知時計會社勞務部長南 岩男氏

私は其點結論は有馬さんと同じなんです、もう一つ生産活動に婦人が進出して來た。それで我國に於ける

「婦人の位置は大きな轉換をして來た」

從來は纖維工業だけでしたが、最近においては機械、軍需の方面にぐんぐん婦人が出て來ました。

婦人生活に付ても、大きな意味の轉換期が來て居るのではなからうか、さう云ふ意味に於て國家生活における婦人といふものを眺めて

「これを適切に指導し訓練して行くといふことも亦非常に大切なのではなからうかと思ふ。婦人問題も眞劍に取上げて頂きたい」

大阪翼賛青年部長 栗原美能留氏

それは誰も異論のない所でせう。寧ろ

「女子青年の訓練の方が大事ではないかと考へるのです」

例へば満洲に行つても、妻君が來ると協同行動がとれなくなる。それから家庭でも今の有馬伯のお話のやうに實際世の指導者たる資格はないと思ひます。

有馬伯

さうすると指導者になる人がなくなつてしまふ。

因に。

以上は東京朝日新聞社が「大政翼賛運動青年の使命を語る」と題する座話會で左の出席者があり婦人問題が右様に取扱はれた。

出席者

文部省教學局企畫部長 朝比奈策太郎氏

大阪翼賛會青年副部長 西谷菊夫氏

東京帝大法學部教授 末廣幾太郎氏

大阪翼賛會常任總務

中野 正剛氏

長野縣東筑摩郡島立村

百瀬 嘉郎氏

他に有馬伯と栗原氏とで都合七名であつた。

⑨附

一、義烈婦人の詠める歌

一、偉人の母親

⑨録

一、義太夫に現れたる日本の女性

一 義烈婦人の詠める和歌

郷の君――

久我殿の息女判官義經と契を結び、たゞならぬ身となりし頃、義經鎌倉殿と不和となり都にも住みがたく、北國落の砌、辨慶を便に遣せしに、郷の君悲み此歌を詠ぜしを辨慶もあはれに思ひ捨置がたく、山伏の姿にして同道せしに、旅行の艱苦の中にも歌を詠じて義經の心を慰めた。

春をだに見すてゝ歸る雁がねの

何のなさに音をばなくらん

出羽の國總わり山にて若君を産み、みちのく迄の道すがら、海路の波枕に夢をおどろかし山路の險阻には袖に露おき貞烈に心を碎きその辛苦ことばに盡しがたし。

つらからば我も心のかはれかし

など愛人の戀しかるらん

白拍子微妙——

微妙は右衛門の尉爲成が女なり。建久年中父爲成さん言の爲に禁獄され奥州へ流刑せられ其妻も苦に病みて身まかる。微妙その時七歳白拍子となつた。久しゆうして將軍頼家公比企能員がもとに來て微妙の舞を見そなはし何か所望すべしと云ふに微妙、父を許されよと乞ふ。しかし、奥州へ迎への使者を出したが、父は既に獄死せり、微妙は悲しみに堪えず壽福寺に行き尼となりて父母の跡を弔ふ。

片岡にふせる旅人あわれ今

たづぬる里に宿もさだめず

松島局——

松島の局は佐渡守親泰の女なり。實朝公の御臺所に仕へて容色ならびなき美人であつた。和田家より朝比奈義秀の妻にせんと願ひけるに、實朝公免許あつた頃突然北條家の一族より局に戀慕の者あつて種々妨げをする故に、尼公の方へ預けられたが尼公は北條家へ縁づけやうとする。

はりつめし胸の氷の薄からで

とけんあさ日の恵みすくなき

尼公に従へば義秀に不貞となり、御意を拒めば不忠となる。是非なく朝比奈へ貞操をたて、
自害して果てる。時に年十八歳。

あちきなく子の日にもれし野邊の松

いつかひかれて春にあふらん

楠正行の母――

建武の末楠正成湊川にて討死の後、其首を足利尊氏より送られしとき、嫡子正行歎きに沈み
持佛堂の方へ行けるに母怪みて行き見るに、刀拔もち父が首の前にて自害せんとす。

これは有名な話ゆへ誰知らぬものがない。

世の憂きもつらきも忍ぶ思ひこそ

心の道のまことなりけれ

北畠親家夫人――

北畠黃門顯家は南朝へ忠を盡し數度軍功を顯したが、曆應元年五月泉州安部野に於て討死せり。其北の方は吉野山に居玉ひけるが淺ましきお別の歎きにあこがれ

いづくにか心をとめんみよしのゝ

よしのゝ山を出でてゆく身は

それから安部野にたどりついて

なき人のかたみの野邊の草枕

夢も昔の袖のしらつゆ

それより天王寺に詣で亡き夫の菩提を弔ひ、我後世をも願ひ、龜井の水の邊りの松の木を削りて

後の世の契りの爲に残しけり

結ぶ龜井の水莖のあと

かくて食を斷ちて身まかりける。

そむきても尙忘らるゝ面影は

憂世の外のものにやあるらん

藤實勝夫人――

南朝正平六年南帝後村上院義詮將軍と御和平ありて住吉天王寺まで行幸ありしとき、藤の實勝も供奉として吉野を立出てける時、里に入て夫人に別れをつけ都も靜りなばやがて迎へ參らせんとて別る此時立出る袖をひかへて夫人

なにとなく心にかゝる白露の

をきわかれ行く袖のけしきは

かく別れてほどふる内、忽ち和睦破れて實勝は討死せしと聞き、さればこそ別の心にかゝりしと歎き悲しみ後れて留まる我身にあらすと、其の夕ぐれ水音をしるべに菜摘川にたどりつき此歌を辭世として深き瀬に身を沈めて貞操をあらはした。

山蔭のくらきやみ路に迷ふなん

なつみの川に身を沈めなば

藤實勝治室――

・觀應二年の頃、新田の一族關東に蜂起して義貞、義助の鬱憤をはらさんと鎌倉近く押寄るといへ共、利運にかなはず追々味方退散し時を待つ折から脇屋右衛門佐義治は、出羽國羽黒山の麓に引籠り居たが、年月重て南朝の勢ひ衰へ兩朝御和睦のよし聞えければ義治今はのぞみを失ひ出羽を立つて四國の味方土居得能と一手になりてともかくも北國を發足の砌、義治の内室別れを惜み悲しみの中にも夫の心をなぐさめ、琵琶を弾じ一聲相後の夢萬里の別月前の離情の心をしらべ、此歌を詠じて遙かに見送り、そのうち程ふれども軍の吉左右もはかくしからねば不運を歎き刃に伏て貞節をあらはした。

また來んと頼むの雁の別れ路は

待間久しき名残なりけり

犬懸入道禪秀室——

上杉氏意入道禪秀の妻は、武田刑部少輔信成の女であつた。夫禪秀時氏公の不興を蒙り管領を辭して犬懸に引籠り、滿陸持仲と共に大義を企て鎌倉を滅さうとした時、この妻これを諫めたが夫は聞かず、早や近國の武士を集め初めた。妻は仕方なし夫と共に死すべしと覺悟を極め

たが此密謀利なく夫を初め持仲その他一族郎等百五十餘人は、寶院に入つて自害した。今はま
でと夫の供におくれじと、左の歌を辭世として形見の短刀拔放し胸元へぐさと刺し俯伏になつ
て相果てた。

さなきだに五つのさわりありと聞く

我よりむかふ罪いかにせん

國 生――

國生は細川六郎勝之の婚約の妻であつた。應仁元年九月細川勝元の臣安富長野等が勝元の息
男六郎勝之を大將として相國寺に籠つたが、山名方の大軍押よせ双方火花をちらす折柄、寺中
の惡僧山名に心を通じて寺に火をかけたから山名方は力を得て軍勢雲霞の如く攻入つた。細川
方の五百餘人は枕を列べて討死した。戦争が終つて僧共が戦死者の葬式をしてゐるところへ若
い女房が一首の歌を佛前に供へて焼向し後の山の人なきところに入つて自害して相果てた。

さめやらぬ夢かとぞ思ふうき人の

煙となりし其ゆふべより

神西元通の妻――

尼子の旗下神西三郎右衛門は上月の籠上に兵籠つき士卒を助けん爲切腹せんと云ふに、其妻も共に死なんとす。

神西之をさとし止めて曰く「今我あまたの士に代りて死する身の女を召連たりと聞えては弓矢の疵ともならん。玆は落のび我後世を弔ひ給はれ」とあれば泣く／＼別れて郎等の助けにより京に上り西山に庵を結び念佛三昧のほか他事なし。

然るに此庵近くに琵琶法師松尾勾當といふ者同國の者なれば昵まじく語り合ふに、此勾當の許へ信長の近臣不破將監といふ者折々來り此尼をふと見初め、馴染めん事を勾當にたのんだ。勾當が固く之を斷つた處、將監烈火の如く怒り「恥を捨てゝ士が一旦云ひ出した事だ。若し叶はずとあつては勾當を殺し其手で尼も殺して我れは切腹すべし」と云ふ悲劇の序幕となつた。勾當是非なく此事を尼に話した處、とても詞を以て通れる事は出来ないと思つた尼は「我願ひは百萬遍の念佛を唱へ二千部のあみだ經を読む願ひである。今三百部ばかり讀めば其意に従ふべし」と日を延し置き、或日佛前に向つて讀經し夫の位牌の傍に

おくれ行くも道は迷はじかねてより

ちぎる心の花のうてなに

この一首の歌を供へ、最後の覺悟して西川の岸にいたり念佛して指を喰切り岩の上に左の歌を血染めに残し水中に投身して相果た。

思川沈む水屑も浮む瀬を

みのりの舟にかけて頼まん

同 召仕お才――

お才は前の元通の妻に従ふて臣節を完ふせんが爲、妻と共に念佛三昧に入つて居たが主人の悲愴の最後を見て泣けど叫べど詮方なく人を頼んで死骸を探し之を念比に弔つた後、桂川に行き深い淵瀬に身を投げて死んだ。世人この二人を同じ墓所に埋葬し「主従一丘塚」として今に香線細く立のぼると云ふ。お才女の歌は

のこるとも幾ほどの世を經でしかな

草葉にもろき露の玉の緒

大内常姫――

常姫は大内介義隆の息女である。家臣陶入道全葦が逆意の亂に山口築山の御所も敵が充滿したので、義隆も僅かな手勢を引連れ夜の間に落ち行き給へば姫も郎等の介抱にて立退く。

然し深窓に育つた身の哀れや徒跣足に馴れぬ山路の荆に傷き血は流れて經路の草を染めながら辿るにぞ岡部右門の太夫が鎧の上に負ひ參らせ、大阪峠を越えけるに夜明方にて行先さへまだ見分ず、況んや今日の命さへ定まらぬ身の浮世の態も哀れであつた。

やがて息心寺と云ふに身を落つけ郎等と共に忍びゐたるが父義隆討死と聞き、寺院の一室で自害して相果てた。時に年十五歳。

霧つゝむ大峰山の紅葉ばも

嵐やけふの敵なるらん

別所山城守室――

別所小三郎の伯父山城守賀相の室は畠山下總守の女で、容貌人にすぐれ心剛にして夫賀相出陣の留守には自ら長刀をもち腹巻をして床机を放れず油斷なく其後を守つた義烈無双の女性で

あつた。

一門切腹の際は其場に出て「各々の御最後も近づきましたから先立參らせて若い人々の御案内申さん

三界唯一心 心外無別法 阿字の一刀のもとに生死を切斷し永却の樂しきを受る佛土に急がせ給え

かやうに叫びながら幼少の男子二人女子一人を左右に控へ、守刀を抜き花の蕾の綻びず露をふくめる我子を刺殺し返す刀で我胸元をつらぬき、うつぶせて相果て美名を後世に留む。

のちの世は道も迷はじおもひ子を

我身に添へて行く末の空

別所長治の室――

長治の妻は天正八年正月士卒を助けん爲夫長治は切腹したが、吾も女にてこそあれ何ぞ遅れんや、夫と共に不退轉の淨土に赴くべしと云ひながら、三歳になつたばかりの男子を側に引寄せ守刀にて刺殺さんとしたが、此家に嫁してより久しく子なきを歎きしが圖らず儲けし一子ゆ

へ朝夕愛して荒き風にも當ず私の齡の千代かけて長壽を樂しみし甲斐もなく、今朝の霜と消え
なんことを悲しく思ひ刀持つ手もゆるみ、流石に恩愛の情に泣くばかりであつたが、夫長治聲
をかけ「親子の宿縁ひとかたならねど此期に及びては是非なし、其許が手にかけてすば自らが」
と云ふに是非なく無慘にも自分の手にかけて自害して妻の操を後世に殺した。

その辭世の歌に

もろともに消えはつるこそ嬉しけれ

おくれ先だつ習ひなる世に

別所彦之進室——

彦之進は別所小三郎の弟で友之と云つた。妻は山名豊恒の女で其形花の匂ひ月の光りを添えて類ならびなき美人なりしか、折しも懐胎にて産月近くに、いかにもして子の顔を一目見んと思ひしかひなく此日にいたり兄嫁の痛はしくも子を刺殺して果てたるを見て、我身は未だ産をせぬ故その悲しみは遁れたり産ぬを無念に思ひしが先の歎は今の嬉び胎内十月は佛菩薩の守らせ給ふと思へば猶佛身は放れず來世の事は疑ひあらじ、されども日の目も見せぬ子に双をあて

る事は痛はし如何にせんとためらひしが、我と心を烈して一佛淨土へ諸共に生れん事こそ嬉し
けれど、一首の辭世を残して未だ若木の十九歳を一期として泉下の露と消え果てた。

命をも惜まざりけり梓弓

末の代までの名を思ふとて

柴田の末森——

末森女は柴田勝家の姉であつた。天正十一年四月勝家は信孝をとりたてんと羽柴と鋒を争ひ
たるが、甥佐久間玄蕃勇にほこり勝家の下知に應ぜざるゆゑ大敗軍となり越前へ退き北の庄の
防戦も及びがたく、最後の覺悟をなし勝家上村六左衛門といふ臣を呼寄せ此末森親子を落し忍
びて助けよ討死にまさる忠義義ぞと頼むにぞ、上村泣く／＼息女と二人を誘ひ夜にまぎれて推
が谷の奥へ落ち竹田と云へる里にいたりて草庵を求めて入らせまゐらせ手厚く介抱なし、上村
は北の庄の様子を伺はんと往還に出て見たが、翌日申の刻ばかりに北の庄の天守閣に黒煙り立
ち焰上するにぞ走つて之を告げた。末森は、さては落城して皆々自害せられしならん。今は後
れじと息女と共に切腹して相果てたが歸つて此體を見た上村は流石は武人の女性たりと念佛し

、自分は立腹を切つて草庵に火をつけ其中に飛び込んで果てた。

聞くもの其壯烈に涙流さぬ者はなかつた。

今こゝにむそじ餘りの日の數を

只一時にかへしぬるかな

息女の辭世

思ひきや竹田の里の草の露

今もろともに消えんものとは

宇都宮鎮房女――

天正十六年秀吉公九州征伐の砌、豊前國城井谷の屋形なる宇都宮鎮房が太閤に敵對したので黒田、吉川の軍勢攻立てけれども要害に籠りて防ぎければ寄手は討死するものが多い。

そこで和睦を入れて饗應の爲馬ヶ岳の城中へ呼び酒酣に及び油斷を見て野中太郎太郎兵衛といふ者討手に向ひ鎮房を討とり郎等百五十餘人其外一類悉く討とり女を虜にすると聞いた。息女は左の辭世を書き遺して相果た。

なか／＼にきゐで果なん唐衣

たが爲に織るはたものゝ音

菊 子――

小野攝津守の娘に菊子と云ふものがあつた。奇才に富んでゐた。新造寺隆信の家臣瀬川采女の方へ嫁していくばくも経たぬに夫采女は軍役に服して朝鮮へ渡海した。

菊子は家に残つて戀ひ悲しみ、つゆ忘るゝ隙なく思ひ餘つて文の中に右の歌を書き添えて便船に托したが、其船逆風の爲難破し文箱は肥前の地へ流れついた。

浦人が之を名古屋の本陣へ届けた處、太閤の目に止り哀れなりと思し召され、采女を歸朝させた。菊子うれしく二三の歌を上覽に入れた。

斯あらん行衛もしらでたのみつる

我心をばたれかかこたむ

○

物ごとの哀れを恵む天つ神の

ころにかへる君ぞたゞしき

武田の松子――

松子は京極近江守高吉の養女にて若狭の小濱武田孫八郎信統の寶である。

夫は隣邦丹羽五郎左衛門長秀と數度の戦争をしたが、不運にも利あらず遂に討死してしまつた。

此の兵亂の騒動で妻の松子は擒となり丹羽家にゐる事は秀吉公が聞き、伏見一の丸に迎へたが容貌たをやかなる様に側仕へせよと申されたが、斷はつた太閤は殊の外心を惱まし、武田の舊領をも名跡を立てなどしたが彼女は後剃髪して操正しく清き名を遺した。

染やすきよその梢になれ／＼て

つれなきかげに降る時雨哉

伊賀崎中務妻――

朝鮮征伐の時大明の大軍蔚山を攻し時毛利家の手に冷泉民部少輔戦死す。

其臣伊賀崎中務函治堅軍用について他所にあつたが、主人の最期の時路隔りければ馬鞭打て

走り來れども既に事果てた後だつた故齒をかみ残念がり、主人の死骸の側で腹十文字に切つて三途に追付きまゐらせた。

長門にあつて此事を聞いた妻は虚説でないことを確め、末の世かけての契りを徒らにはせしと夫の追福に法華經を心靜かによみ終り左の歌を經書に書いて自害し貞女の操を現はした。

死出の山慕ひてぞ行く契りおきし

君が言葉を道の枝折に

山崎左馬介室――

室は池田氏の女である。其力人に勝れ武の道も亦男子におとらなかつた。

ある時山崎の家に數十名の盜賊が忍び込んだ。之を知つた妻は長刀を振り廻し薙き立て切り立て大方に重傷を負はせて其儘寢床に入つて寢入つたが、夜が明けてから家人に云ひ付け怪我人の始末をなさしめたと云ふ程豪膽な女であつた。

この歌は夫左馬介が人質の爲渡さるゝ置土産によんだと云ふ。後敵中を馬上にてのりぬけよみがたから三州吉田まで一騎駈にはせ下つたといふ勇猛の夫に劣らぬ婦人であつた。

梓弓ひき別れにしけふよりは

なき身の數とたづねても見よ

木下長嘯子の室――

森家の女で木下氏に嫁し才器業に勝れた女性であつた。

慶長五年勝俊伏見を退城して隠遁の身となり、長嘯子と號して歌道に入つたが、室は夫の不甲斐なきを恥ぢ且武道微弱で伏見を去りしを悔しく思ひ、果は夫に離別を迫り髪を切つて之を送り、自分は京村雲と云ふ所で寶泉院と號し尼となつた。

命やはうき名にかへて何ならん

まみえぬ爲におくる黒髪

細川候夫人――

細川忠興卿の内室は慶長五年大阪玉造の屋敷に出陣の留守を固めゐたまひけるが、石田三成諸大名の妻室を坂城へ取入れ質にせんとし、此許へも度々使者を遣したが斷られたので軍兵五六百人で屋敷を圍んだ。

内室は之は豫てかくあらんと覺悟してゐた事とて家人河北石見、小笠原正齋等呼び出し御殿に火をかけさせ

正齋介錯せよ我れ生きてまみへさりし人々へ死しての後に見られん事心よからずとて顔に覆面を打かけ袴を着け刀を胸に突立てゝ自害す。

家人等各々次の間で切腹した。

この歌は記念にもと詠まれしものである。

此賢婦の決然たる覺悟は萬國に傳へられん。

先だつは同じ限りの命にも

まさりて惜しき命なりけり

以上は日本の妻が——娘が——或は母が——その婦道貞節を完ふせんが爲に壯烈人を泣かしむる行動をとつたのである。

日本の男子には武士道と云ふものがあつて千古不滅に「日本魂」を傳へ行くやうに、日本の女にも「貞女」と云ふ二字の内容に此様な壯烈な女性が婦道となつて後世に残つて行く。かう

して日本の男子には他國に勝る思想が存續してゐる限り

日本國は榮えゆく

永遠に榮え行く

一 偉人の母

古今を通じて偉人と云はるゝ人は、其の母も又賢母であります。勿論英傑偉人は時代とその人の環境が大に預つて居りますし又其の父親も相當な人ではありますが、第一彼を偉人たらしむるには何んと云つても其の大部分は母親の力であります。

自分の命よりも大切な我子をして、より剛い者に仕上たいとは何人も願ふ事ではありますが、それには母自身がより剛い賢母たらねばならないのであります。即ち云ひ換ふれば、子供の教育に注意する事であります。子供を産むと云ふ事は、何んでもない極く、た易い事ではありませんが、此の子供を育て上げて、より剛い者に成長せしめる事は仲々大仕事であります。昔から能く申します。結婚に際して先づ、其の母方の血統等を調べる必要があると申しますが、コードモ

は父親よりも母親がよくなければならぬものです。然るに昔から「腹は借物」だと申し如何にも無責任にコドモを産むだけが母の任務かのやうに誤解されて來りました事は誠に遺憾な事であります。極く卑々な例を申し上げれば、如何に立派な種でありまして、粘土の中へ播いた種子は生へるものではありません。然るに土壤のよい黒土の中に播いた種は直に生々した芽が出ます。之を考へましても畑の善惡が重大なる關係のある事が明瞭であります。然し、イ、畑でありましても此の芽生へた植物に光と肥料とを與へ時々は除草もやれば土も掘返すと云ふ風に培養すべき方法を知らねば折角の芽生も不完全な成長に了るものであります。こゝに母たる人が子供の教育方法を知る必要があります。コドモを産む位ひな事は人間でなくとも獣でも産みます。而しこの産んだ子を育てゝ立派な人にする點に於て人間としての母たる價值が存在いたします。

コドモが生れて先づ第一に學ぶところは實に母の懷であります。そして母が笑へば赤ん坊も笑ひ、母が悲しめば赤ん坊も泣く。かくして道德も智慧も、すべてのものは玆處から生れる。此の三ツ子の僻は百迄となつて一生を左右するものであります。

何んと云つてもコドモを、より偉い者にしようとするには母親が、より偉い事が最大の條件であります。而して國家と雖も所謂賢母を最も多く有する國は世界の最大強國であります。かつてナポレオンは「英國を征服し得ざるに非ず、その背後の母を服征し得ざるなり」と慨嘆したと聞きますが誠に其の通りでありました。

私の今日の講演は、古今東西を通じて偉人たりし人々の其母親に就いて述べ聊か御参考に供し度いと存じます。（ラヂオ放送稿）

頼山陽の母

山陽が四五歳の頃であります。庭に遊んで居た筈の山陽が天を仰ひで小首を傾けて居る。すると「おかあさん、天と云ふものは一體何んです」と訊くのであります。母は此の思ひがけない我子の質問に少々驚きましたが「天といふものは、あの通り晝でも夜でも始終ぐる／＼廻つて動いてゐるものです」と答へましたが山陽は「そうですか」とは云つたものの、又庭に飛び降りて、暫く天を見て動かない。果は「どうも不思議だな」と嘆息を漏し、天體の奇妙な

ものに感じ入つて居たとの事ではありますが、此の子供の發問に對する母親の心がけは大切であります。此時「そんな面倒な事はお言ひでないよ。天が何んです。おかあさんはそんな事にかかつては裁縫ができないから」てな事で叱り飛ばしたら、如何に子供をして失望せしめる事でありませう。否失望どころではありません。子供は此の一叱りで折角の芽生へを、ちぎり取られたと同様になります。

又山陽が七歳の時であります。母と一緒に父を迎ひに参りましたが、とう／＼父が歸つて來ない。其時山陽は「家君不返 唯麥歸」と云ふ詩を作つて母に示した處、母は山陽の頭を撫でて非常に之を褒めて内心其の文才の非凡さを喜びました。然るに山陽は病弱であるので母の苦心は一通りではない。遂に有名な

「身體髮膚之を父母に受く敢て毀傷せざるは孝の始なり」の句を引用して色々戒めたと申します。

又母は山陽に繪本を與へて之を話とし、又よく昔の英雄豪傑の物語を話して聞かせました。かくして山陽の文才と文想とは既に幼少の頃培かはれて彼は二十二歳の時「日本外史」の著

を初めたのであります。

楠 正行の母

正行の母は滋子と云ひ萬里小路宜房卿の女でありましたが、御承知の正成が湊川で戦死を致し其の首が届いたので正行が切腹しようとした時、勿論母としても變り果てた夫の死顔を見ては氣も狂ふが普通であらうが、ここが賢母であつた。

「これ正行、物に狂つたのか、之は何と云ふ浅果敢な考へです父が汝を歸されたは、茲で空しく腹を切らせるが爲ではありません。又徒らに長らへて父の後を弔へよといふのでもありません。父の亡き後には、朝敵が跋扈して君を惱し奉るに相違ない。天下は皆勢に就き權に媚び君の御爲に身を捧げ命を捨つる者は至つて少い。さう云ふ時こそ金剛山の城に立て籠り義兵を擧げて叡慮を安んじ奉れとの御遺言であつたと汝は母に傳へたではないか。それを汝は忘れたか、此の有様は何事です。こんな云ひ甲斐のない心では君の御用にも立つ事は出来ません。何をうろたへてこんな浅ましい事をするのです。尊氏が父君の御首を態々こゝ

へ送つて來たのは情のやうではあるが左様ではありません。之は味方の鋭氣を挫かん策略であります。それが汝には解りませんか」

この懇々たる母の言葉、且つ泣き且つ勵ます母の言葉、あゝ正行は此の賢母の爲に凜然として大悟し、忠孝兩道を全ふして史上に赫々たる名を遺したのであります。

ナポレオンの母

英傑ナポレオンの母はコルシカ島に生れましたが時偶戰爭中で武勇だとか偉勳とか或は勝利や凱旋だとか乃至は戰死など云ふ出來事で國中が立ち騒いで居た時で、壯烈な環境に育つたので、自然烈婦たらしめました。その上年頃になつてジャール・ボナパルトと云ふ勇敢の聞へ高き軍人に嫁したので烈婦に足をかけたわけです。

かゝる烈婦を母として生れたナポレオンは、其の家庭教育に於て頗る嚴格、讀書や習字は母に習ふ。其上母は英雄豪傑の話をして聞かせました。そして常に愛に游れず、弱い心を決して出しません。不規律を許さず、少しでも命令に背くと、厳しく之を罰し、決して假借いたしま

せん。この如き家庭教育に人となつたナポレオンでありますから兵學校の成績は優秀であり、軍人として拔群の成績を挙げ、遂にフランスの帝位に昇るに至つた事も、みな之れ幼少時代の母の養の結果であります。

又母は非常に大望を抱いた婦人であつたと申しますが、ナポレオンの教育の爲には教會へ行く外一切の外出を廢して、一寸でも子供の監視を忽にしない。そして常に寛大よりも寧ろ嚴格に過ぎる程の躰方をいたしました。そしてナポレオンがいゝ事をした時の賞與としてサーベルと鐵砲とラツバとを與へましたが、之が抑もナポレオンをして將來軍人たらしめた印象であります。ナポレオンは母に就いて、かう云つて居ります。

「私の母は女の體に男の頭をつけたやうに強い婦人で胸には常に功名心が燃えてゐました。ですから賞罰を明かにし良いことも悪い事も決して見逃しませんでした。特に私の母のきびしかったのは規律と服従で、最も母の憎んだのは嘘を云ふ事でした」
此の言葉によつて平素の母の教育法が明瞭であります。

ワシントンの母

亞米利加最初の大統領として正義の爲に戦ひ、講和を結んでは國家百年の平和の爲に誓ひ國を治めては國民民福を計り、正義人道に則つて萬事を處理其令名赫々として世界に輝いて居る大偉人たるワシントンの母は、抑々どんな方であつたか。

母親はメリーと云つて正直で立派な婦人でありましたが、彼女は常に金言集とか倫理の書を愛讀し、其他實踐躬行を主とする本を愛讀しました。そして之をワシントンの教育資料といたしました。母はワシントンが十二歳の時夫に先立たれ、爾來十一人の子供を一身に引受けて之を教育したが極質素で然も貞淑で且つ、どこかに凛として浸すべからざる威嚴の備つた婦人であつたそうです。そして如何にも優しくワシントンを可愛がりました。死後國の父とあがめられたワシントンの母は國民一般から頌德標を受けましたが、其の碑名には單に「ワシントンの母メリー」と記されたのでありますが、世界の偉人ワシントンの母なる一言は萬言の形容詞に勝り輝かしい文句であります。

後藤新平の母

縣廳の一給仕から身を起して幾度か大臣になり又政界の花形として一世の人気を集めた後藤新平さん。此の偉人を造つたのは蓋し其の母利恵子さんでありました。子爵の父は學者肌の人で國學を研め和歌もよくし楽しみとして居られた。そこで母も嫁いで來てから和歌が好きで、やがては道歌を後藤家の庭訓として子爵の教育資料とされました。

そして常に「男子は氣節がなくてはならぬ」と教へました。子爵が幾度か時の浮沈に遭ひながら撓まず屈せず奮勵し今日の位置を築き上げられたのは實に母堂のたまものであります。母堂は常に婦徳を守つて不足勝な家庭を治め九十九歳で死なると迄一日たりとも苟の日を送つた事はなかつたと申しますが、如斯賢婦人を母に持つたこそ子爵の如き立派な子が出來たのでありませう。

平民宰相の名に於て政治の神様として、否不生の政治家として輝き残した名の原敬氏そも如何にしてこんな立派な人が出来たのであらうか。

彼が十三歳の時父が死なれたので、其後は母親の手に養育されました。母はリツ子さん云つて、志操堅實な女丈夫で、常にスバルタ式の嚴格な熏陶を以てコドモの教育をされました。且つて敬さんが他のコドモと喧嘩をして歸つて來た時、

『どんな苦しい時でも泣いてはならない。男の涙と云ふものは、こんな小さな事に流すべきものでない。お前も男一匹ではないか』と教へるのでした。

又よく母は『辛棒』と云ふ事を教へましたが剛情な原氏も此の母の教訓によつて幾度か辛棒いたしました。原氏が後に政黨の總裁となり、大臣となり、政務多端な時でも毎年一度は歸郷して母を訪ひ之を慰むるに色々の方法を盡されましたが、此の賢母にして此の原氏の如き立派な子が出来たのであります。

カーネギーの母

財界の偉人世界一の大金持カーネギーの母は果してどんな人であつたか、彼の母はマーガレットと云ひ、スコットランドのダムフアリンと云ふ町に生れましたが靴職の家に嫁したが夫に早く別れたので習ひ覺えた靴縫ひを初め、一週間に約八圓位の内職をいたしました。このやうな貧困な状態ですから下女下男を使ふどころでは無い。主婦としての仕事一切を片付けた上で此の内職をして生計を立てねばならないから、いつも夜中迄働かねばならなかつたのです。そして此の間に二人の子供の訓育をせねばならぬ。彼等一家が米國へ引越してからカーネギーは正式の學校へは行けず母に讀方や書方さては算術や代數等を習ひました。又母は常に「何事も辛抱が大事である。苦しい所を辛抱しなければ、偉い人になれない」と諭し、又「世の中には私たちの成すべき仕事は澤山ある。正しい仕事を正直にやつて居れば人から尊敬されて世間からなくてはならぬ有用な人物になれます」と云ひ、「又依頼心を持つてはいけない」と云ひ聞かされるのでした。

後年巨萬の富を得たカーネギーが此の富を利せず之を世界人類の爲四海兄弟の平和の爲に捧げ、財界の偉人として榮譽に輝いたのも、その陰に彼の母の不斷の努力と忍苦の生活があつた

からでありませう。

乃木將軍の母

名はヒサ子さんと申されました。夫は食祿僅かに八十石で家計は苦しいので三人のコドモもそれ／＼内職をし家計の工面でヒサ子さんは時々質屋通ひもされたとの事であります。將軍が十三歳の或日の事フトした事から若殿と剣道の仕合をして勝ち剩へ若殿を倒して息絶させました。勝負には勝つたが、若殿を負しては申譯けないと氣が付いて切腹して申譯をいたさうとした。此時母は

『無人！ 何をする——この不幸者が！』と脇差を取上げ、さて

『何と云ふ愚な子だ。何んと云ふ不甲斐ない子だ。お前の父や母は、お前一人を切腹させて黙つてみて居るような人間ではありませんぞ。切腹さすべき事があるなら、父なり母なりが自ら介錯して腹を切らせます。眞の忠臣は眞の孝子でなくてはならぬ。身にふりかゝつた難苦を何故父や母に打明ける氣にはならないのです。その位の事が判らぬお前ではあるまい』

後年武勳赫々たる軍神乃木將軍を生んだのは、此の母の教訓でありました。

勿論、將軍の父親は長州毛利家の家臣であり、小笠原流の武家古實に秀で、特に馬に乗つて物を射る術は藩中並ぶものがなかつた。しかも清簾至純で金鐵の如く剛直な點に於ては藩士の畏敬の的となつて居たと申しますから、將軍の大和魂の權化も此の父の性を多分に受けられて居ります。

東郷元帥の母堂

東洋のネルソンと謳はれ、無比の海將と崇められたる元帥東郷伯爵の母堂は、ます子と申されます。文久二年の頃である生麥に於て島津家の行列を横切つたとあつて外人を切り捨てた事件が大波瀾となつて黒船の襲來となつた。此時東郷家でも三人の兄弟が出陣となつた。母は末つ子であつた平八郎に向ひ

「これは御身たちの戦の門出の祝ひに進ぜる勝栗です。一つ祝つておくれ。特に平八郎お前はまだ十七の若者ちや東郷の倅だと云ふ事を忘れてはなりません。永々恩顧にあづかつた島

津家に對して此上ない恩返しの報です。何處迄も男らしく戰つて、初陣の功名をあげて下さい。必ず卑怯な振舞をして人に笑はれないように」

と嚴とした容で懇々と聞かせました。

然るに間もなくイン／＼轟々たる砲の響と共に「お城が危い／＼」と叫ぶ聲がする。此時です。母堂はいきなり、臺處へ上つて下女を督勵して薩摩汁を作り大釜に一ぱいを二人で擔いて坂道を上つて城に向ひました。勿論足袋洗足で甲斐々々しくも砲煙漲るお城をさして城下の小路を右に折れ左に曲り川の流れに沿ふてひた走りに行くのでした。

お城では砲臺一面修羅の巷と化し、加へて小雨がふる中で眞裸體の勇士等は禪一つで防戦して居る。やつと辿りついた時平八郎さんは砲彈運びをして居ました。

此の母堂が運んで來られた薩摩汁。それは疲れ果てた勇士、今朝からの惡戰苦闘に兵糧を取る隙さえなかつた勇士等が然も好物の薩摩汁を見て、爲に全軍の士氣が一時に擧つたのも道理であります。やがて母堂は歸らうとすると、兄の四郎兵衛さんが

「平八、路が暗くて母上も大儀ぢや。そこ迄お送り申せ」

と云はるゝから、母の手を取らうといたされますと母堂は「いや今来た路ぢやもの私一人で歸れます。お前には戦争といふ重い役目がある。母の事は心配しないでよいから、働いてゐてお呉れ」と云ひ放ち、優しい慈母の目で平八郎さんを見遣つて一人で下りて行かれたとの事であります。

何と云ふうるはしい母としての心でゐいませう。我身を犠牲としてまでも砲煙の中をくぐり抜け、一念凝つた一釜の薩摩汁を勇士にさゝげた勇ましい志し、然も子を思ふ愛に溺れず

「お前には重い役目がある」

の一言を残して後をも見ずに走り去つた。その悲痛な心事、後年大將が萬古不朽の名將として世界に其名を轟かさるゝも蓋し決して偶然ではありません。

私の講演は今日は之で留めて置きます。

文豪としてのゲーテの母

小説に詩に戯曲に、言々句々珠玉をつらねた名作を残したドイツの文豪ゲーテが、特に戯曲

にその蠶筆を揮ひ世界的大文豪の名を馳せるやうになつたのは、實に彼の母の感化が與つて力がある。

ゲーテの母は非常に性來快活な、あかるい感じの婦人で子供に教育を授ける際にも之が自分の唯一の天職であり、唯一の喜びであり楽しみでもあるかのやうに、絶えずニコ／＼して居た。

だから彼女がゲーテに、讀書や習字を教へる時でも、又面白いお話などをして聞かせる時にも、彼女は始終愉快さうな表情をしてゐるのでコードモには、たとひ嫌ひな學科でも、又おもしろくない學科でも、それがどんなにか面白い誰にも好きにならねばならぬ學科のやうに思はれたのである。

だからゲーテは、何時も母の側を離れず母の明るい表情の中から又その想像に富んだ上手なお話の中から、詩のやうな、音楽のやうな藝術味を知らず識らずの裡に感得したのである。ゲーテが母から聞いたお話を友だちなどに能く聞かせたが、そんな時には彼は母から聞いた話に自分の想像を巧みに織込んで一層面白いものにして話した。だから友達はゲーテの側を取り卷

いて離れなかつたといふ。

ゲーテの母は學問も深く

語學もフランス語イタリー語に通じ

音樂にも趣味深く

同時に劇通であつた。

母が明るい快活な性質の持主たるに反し、ゲーテの父は嚴格そのものゝやうな几帳面な人で、智的のみに傾いた頑固さを持つてゐた。而し

學者で勤勉家で。

ゲーテをも自分の型にはめて教育しやうとした。その結果は失敗でゲーテの將來を約束する基調ともいふべき感情や想像とかいふ大事な感覺の養ひになるものは一つとして父の教案の中には發見されなかつた。

几帳面で智的の一方な父の教育に、母の温かい情的教育が加味され調和されなかつたらゲーテは、後日世界的文豪となることは出来なかつたかも知れない。

それは勿論、生來の天才で而も行くとして可ならざるなき俊才であつたから。

或は法律家として。或は醫學者として。或は博物學者として

その方面に一頭地を抽く學者となり得たことは想像し得られるが、少くとも彼をして「フワウスト」の作者たらしめたことは温い感情と自由なる、そして豊富なる相像の世界を幼時から彼の頭に植つけたのは母のお蔭であつた。

ゲーテは母をこの上なく尊き婦人として崇め、自分の理想の婦人は母を描いては他に求められないと思つて居た。

ゲーテの詩の中に

父に叱られて庭に逃れ出て小さき胸の悲しみを、そこでひとりで泣いてゐるコドモの所へ、母がそつと歩み寄つて花を撫でて吹く春のやはらかい風のやうに、やさしい言葉で泣く子を慰めてゐる。

章句などを見出すであらう。之は皆ゲーテが自分が小さい時から常に温情を以て愛育してくれた母をモデルにして作つたもので、彼の母はゲーテの胸に常に深き感情と敬慕の中に女神

の如く生きて居てペンを走らせたのである。

何れにしても彼の母は、世界的文豪に理想的の婦人として敬慕されてゐたので、此の一事を以て見てもゲーテの母は偉い婦人であつた事が頷かれる。

一 義太夫に現れたる日本の女性

主として義太夫の藝題に現れて来る女性に就て書きます。

一般に淨瑠璃は最も通俗的に人情を表現して之を勸善懲惡の資料に供して人心を善化せしめやうとしたもので、とりわけて義太夫は其文句に節づけをして三味線の絃に合せた所に一層感動力を深刻まらします。而して茲に現れて来る女性は勿論作者の性格を多分に持つて居りますが、それは總て其時代の女性の思想や傾向や進んでは女性の性格を洞察する點に於ては別段變りはなく、然も其の半面に其時代が要求した女子に對する教育方針などが見えて種々なる方面に於て女子教育上の参考となる點が多々ある事を信じます

曾根崎心中のお初

お初が徳兵衛と合つた時に「力をつけて押し止め、さて／＼いかい御苦勞、皆妾故と思ふから嬉し悲しゆう忝し、さりながら、心慥に思召せ、大阪を堰れさんしても、盗み誘拐の身ではなし、どうしても置く分は、妾が心にある事なり、逢ふにあはれぬ其時は、此世ばかりの約束か、左様した例のないでなし、死ぬるをたかの死出の山、三途の川はせく人も、せかるゝ人もあるまいと、氣強く勇む詞の中、涙に咽んで云ひさせり」又お初も同じく手を合せ「こなさんは羨ましや冥途の親御に逢はんすなれど、妾が父様は健で此世の人なれば、何時逢ふ事のあるべきぞ、便りは此春聞きたれども、逢ふたは去年の初秋の、初が心中取汰汰の、明日は在所へ聞えなば、幾許か歎をかけん、親達へも兄弟へも是が此世の暇乞ひ、せめて心が通ひなば、夢とも見えてくれよかし、懐かしの母様、名残惜しの父様やと、しやくり上げ／＼聲も惜まず歎くにぞ」云々と愁歎しますが、此場合お初の女性は自分の戀人と一緒に死ぬと云ふ喜しさの外に死に直面して親や兄弟の事を思出して一入死を悲しゆう色どつて居りますが、そこに

女心の優しきがあると思ひます。男の方では女と死ぬより外に考へが浮ばないのでせうが、之が本當の女性の心情であります。

お夏清十郎のお夏



水谷八重子のお夏

「我こそ清十郎が二世の妻、但馬屋のお夏、人々の情には、同じ土に埋めてたべ南無大悲觀世音、助け給へと立ちたる拔身の鎗押つ取、咽笛ぐつと突通す」云々此の場合お夏の叫びと其動作は、如何にも作者の技工が現れ過ぎて居る。お夏は商家の娘で推定年齢は先づ十九か二十歳でせうが、此の寧ろ勇壯なる最後は柔いお夏の女性を臺なしにするのではないかと疑はれる點もないではありませんが、近代の女性須磨子は抱月氏と一所に比翼塚を望んで實現されて居るやうに今も昔も女性が命をかけた男とは死んでも一緒

に離れまいとする、いちらしい一念——然しそれが體ては貞操觀念の源泉ではある。只此の悲愴な最後の手段として、自分で槍先を腹へ突き刺したのは女の諦めによる決心と覺悟は寧ろ男を凌ぐものゝある實例とも見られやう。

天の網島の小春



大坂福助の小春

「心残りの事ならば、いふて死にや」に對して「何もないく、こなさん定めてお二人の、子達の事が氣にかゝろ」此小春の最後の一言は本當に女性が死に直面した時の心情で母性愛の眞剣な情は盡した女に獨特な性格の一片である。燒野の雉子夜の鶴と同じ觀念「何もないく」それは其筈である、小春自身としては絶対に心残りはない。然し治兵衛には二人の子供があつた。小春と云ふ女性が命を賭した男、その治兵衛と心中

するに當つては何の心残りはない。然し彼れが女性に立返つた時、そこに二人の子供が氣にかかるのであつた。之れが貴い女の愛情であります。

三十三間堂のお柳

お柳は「その時の情の恩、送る月日も重りて柳の花の緑丸、おとなしゆうなつたれば、乳が無くとも育つべし、成人の後々は、父の弓矢を受けつたへ、潔ぎよい名を上げてたも、コレ此母は、今を限りに、元の柳に歸るぞや、必ず草木成佛と、回向を頼む、夫よ子よ、離れ難なや悲しやと、云ふ聲さへも忍び泣き」云々。又「傳へ聞く安部の童子か母上も、丁度我身と同じ事、一人の子を残し置き、信田の古巢に、歸りしとや、夫は野干の年古る身、我は元より草木の歸る古巢の柳は今伐り崩されて枯柳、歸ると云ふは消ゆる身の、何とて形を残すべき、白河の法皇の、御惱み頻りとて、都の使來りつゝ、我身を切捨て、申すべし、斯くて姿は見えながら、もはや朽木も時を得て、一字の棟木と成る事も、一つは妙なる法の縁、逢ふ事稀に、優曇華の、花物いはぬ草も木と、王土に住めば、是非もなし、今より佛果の身となるも、夫の先き

生椰の木の、佛果に連れし縁なれば、情の恩を報ぜん爲、一つの篋を参らする」云々。お柳も依然として母性愛に惜別苦を嘗めて居るのであつた。お柳は御承知の通り柳の精であつた。然し彼女が一度、緑丸の子の母となつた時には母性愛に満ちた女性であつた。此のお柳には又其半面に、強い意志の力を認め得る。當時、白河法皇は腦病であつた。そこで三十三間堂を建立して平癒を祈願する爲に、堂の棟木となすべく、此のお柳の柳を伐り使用するのであつた。彼女お柳は、自分を枯らせて法皇の病氣を治すべく、戀しい夫と別れ又可愛い子を捨て、柳に返る。其の理性の強い而して固い意志力の働きが見えて喜しい。お柳は推定年齢二十七八から三十近い方がよい。

奥州安達原の袖萩

袖萩が「露命を繋ぐ古糸に聞くも破れし三味線の、ばちも慮外も願はず、お願ひ申し奉る、今
の憂身の恥かしさ、父上や母様のお氣に背きし報ひにて、二世の夫にも引き別れ、泣きつぶし
たる目なし鳥二人が中のコレ此お君とて、明けて漸く十一の、子を持つて知る親の恩、知ら



安達原袖萩 中村梅玉

ぬ祖父様、祖母様を慕ふ、此子が、いち
らしさ、不便とおぼし給はれと」云々。

此一節を読んでも、子供と云ふものが中
心になる女性の綿々として盡きぬ愛情が
満ちて居る。又母の濱夕が「さつきにか
ら皆聞いて居る、ア、儘ならぬ世じやナ

町人の身の上ならば、若い者じやもの、徒らもせいぢや、ソナナよい孫産んだ娘、やれでかし
やつたと呼び入れて、掣よ舅といふべきに、抱きとうてならぬ、初孫の、顔もろくく、得見
ぬは、武士に連れ添ふ浅ましさ、と、諦めて、逝んでくれよ」こゝにも母の情として娘の袖
萩を不びんと思つた子故の思ひ遣りである。孫は子よりも可愛い、と申す俚言は、それは自
分の可愛い、娘の産んだ子なるが故であらう。女としての袖萩と母の濱夕とが徹頭徹尾子の爲
に泣くのであつた。

本朝二十四孝の八重垣姫



第五郎の八重垣姫

思ひ出す程、おといしい、嗚や末來は迷ふてござろ、女房の濡衣が、心計りの此の手向け、千部萬部のお經ぞと、思ふて成佛して下さんせ南無阿みだぶつ——之は又妻としての濡衣の女性が、夫に貞節を立て、潜に其忌日命日に當つて縋々たる追慕に盡きぬ涙を絞つた所で、女なればこそ持つ優しの心根である。又八重垣姫が「申し勝頼様、親と親との許嫁、ありし様子を聞くよりも、嫁入する日を持ち兼ねて、お前の姿を畫にかゝせ、見れば見る程、美しい、こん

こゝでは二人の女性が現れて居る。腰元になつて居る濡衣が、泣く音に袖も濡衣が、今日命日を弔ひの、位牌に向ひ手を合せ「廣い世界に誰あつて、お前の忌日命日を、弔ふ人もなさけなや、父御の悪事も露知らず、お果てなされたお心を

な殿御と添臥の、身は姫御ぜの、果報ぞと、月にも花にも楽しみは、繪像の傍で十種香の、煙も香花となつたるか、回向せうとてお姿を、繪には書かせはせぬものを、魂返す反魂香、名畫の力もあるなれば、可愛とタツタ一と言の、お聲が聞きたい／＼と」熱烈な戀の焰を燃す處、少々アマク過ぎるやうな感じはするが、若い女が男を戀ひ慕ふ心は、遺憾なく表現して居る。又『許嫁ばかりにて、枕かはさぬ妹背中、お包みあるは無理ならねど、同じ羽色の鳥翅、人目にそれとわかねども、親と呼び、又つま鳥と呼ぶは、生あるならひぞや、如何に、お顔が似たればとて、戀しと思ふ勝頼様、そも見紛ふて、あられうか、世にも人にも忍ぶなる、御身の上と、いひながら連れ添ふ、わたしに何に遠慮、つい斯う／＼とお身の上、明かして得心さしてたべ、それも叶はぬ事なれば、一つそ、殺して／＼と』云々。我が身を燒き盡くさんずの此の口説の一節は娘心の、捉はれし戀心、是非もなければ。

繪本太功記の女性

初菊が「アイ残らず聴いて居りました、夫の討死あそばすを、妻が知らないで何とせう、二世

も三世も女夫じやと、思ふて居るに情けない、盃せぬが仕合せとは、餘り聞えぬ光義殿、祝言さへも濟まぬ内、討死とは曲がない、わしや、何んぼうでも殺しはせぬ思ひ止つて給はれと」



太功記初菊 中村魁車

云々。初菊は十七八の娘である。光義とは目合せてあつただけで昔の武士剛義の母と祖母の間に女の道から、將來の夫に對する心情を、遺憾なく吐露したのであつた。此時代の妻は二夫に見えぬと云ふのが崇敬せる道であつたからだ。次に祖

母のサツキが「歎くまい、内大臣春長と云ふ、主君を害せし、武智が一類、かくなり果つるは理の當然、系圖正しき我家を、逆賊非道の名を穢す、不幸者とも惡人とも譬へがたなき人、非人、不義の富貴は浮べる雲、主君を討つて功名顔、天子將軍になつたとて、野末の小屋の非人にも劣りしとは知らざるか、主に背かず親に仕へ、仁義忠孝の道さへ立たば、もつそう飯の切米も、百百石に優るぞや、俺の心只一つで、驗は目前、之を見よ、武士の命を斷つ、又も多

いに此やうな、引そぎ竹の猪突鎧、主を殺した天罰の、報は親にも此通りと」云々。追に武智光秀の母だけある。將に天下を掌握せんとした剛の者光秀の母である。此の言々句々、實に武士堅氣に育まれた女性が、躍如として現れて居る。殊に「不義の富貴は浮べる雲」あたりからの數語は、千軍萬馬を叱咤操縱する光秀も、只悔恨の情切々たるのみ。古の武士道の根源は、



太功記操 中村梅玉

斯うした母性に育成されたものであつた又母の操が「これ見給へ、光秀殿」から語り出すサワリに於て、夫に對しての諫言を聽いた時、其惡かりし過去の行爲に呵責されて、涙を吞む者は獨り光秀ばかりではない。天下に只一人の味方たる忠

實な妻の操の言葉だもの、然し妻として夫に向つての、云ひ分は、やはり女として、柔く、然も、決して夫を侮蔑はして居ない。最後に又、祖母のサツキが「あれ、あれを聞きや、嫁女、其身の手疵は苦にもせず、極惡人の悴めを、大事と思ふ孫が孝心、ヤイ光秀、子は不便にない

か、可愛いとは思はぬかヤイ、儂が心只一つで、いとしい可愛いの初孫を、忠と義心に健氣なる、討死でもさす事か、逆賊不道の名を穢し、殺すと云ふは何の因果ぞ」に於て光秀も、情ある母の思ひ遣りの宏大無邊さに只々腸を、えぐられたであらう。女の力の強いのは、斯うした所にある筈である。腕の力量では無くて、夫を思ひ子を愛する、其眞剣さである。又操が「母は涙に正體なく、討死するは武士の、習ひといへと情けない、十八年の春秋を、刃の中に人となり、いつ樂みの隙もなく、弓矢の道に日をゆだね、今朝の首途の其時にも、母様今日の初陣に、通れ高名手柄して、父上様や祖母様に、譽らるゝのが楽しみと、につと笑つた其顔が、わしや、幻にちらつて、得忘れぬ」云々。子を思ふ母親の愛情の怨み事として無理からぬ事である。又初菊が「ほんに思へば此身程、果敢ないものが世にあるか、とけてあふ夜の、きぬぎぬの、永き名残の言號、二世を結ぶの枕さえ、交す間もなく、此やうな、悲しい別れをする事は、マどうした罪か情けない、わたしも一所に殺してたべ、死にたいわいなと身を悶え」云云。乙女心の、それでも妻の自覺に泣く一節は眞に道理なり。

阿波の鳴門のお弓

十郎兵衛の女房お弓が「我れとても女房の身殊に街の同類なれば、罪科遁れぬ夫婦の命、今更驚く氣はなけれど、一合取つても侍の家に生れた十郎兵衛殿、盜賊街と成り果てしも、國次の刀詮議の爲、重い忠義に軽い命、捨つるは覺悟と云ひながら、肝心の其刀、有りかも知れぬ



阿波の鳴門

其中に、若しや此事が顛れては、是迄盡せし夫の忠義、此徒らとなるのみか、死んだ跡まで盜賊に、名を穢すのが、口惜しい盜み街も身慾にせぬ、女夫が誠を天道も、憐みあつて國次の刀の詮議濟む迄の夫の命助けたべ」云々。と妻としてのお弓の女性、自分を犠牲にして、只夫の立身出世を願ふ心根、かくありたきものと思ひます。次に「さても世の中に、親と成り、子と生るゝ程、深い縁はなけれども、親が死んだり子が先き立つたり、思ふ様にならぬが浮世こなさんとて、どれ程尋ねても

顔も所も知らぬ親達を」云々と泣き、又「コレ、ま一度、此方に向ひてたも、折角長の海山越え、艱難して、あこがれ尋ねる、いとし子に、不思議と逢ひは逢ひながら、名乗らで去なす母が氣は、どの様にあらうと思ふ、狂氣半分／＼は、死んで居るわいの、まだ長生のある子をば、親故、路頭に、立すかと」云々。何れにしても、お弓は學問とてはない女のやうであるが然し、子の母親として、熱烈狂的な愛情を見せて居ります。

先代萩の政岡

松延の政岡

「賜殺しに千松が、苦しむ聲の肝先へ、こたゆる辛き無念さを、じつと堪ゆる辛棒も、只若君の大事ぞと、涙一滴目に持たぬ」千松が毒菓子を食べて八汐に刺し殺される場面を側に居て見て居た政岡の心根を推測して書いた一節で、政岡なる

女性が、男まさりの性格を充分現はして居る。

封建時代 大名の奥女中たるものゝ、其の忠義の心は實に男子を凌駕するものがあつた。特に政岡の場合、我子の惨殺に苦しむ状態を目の當り見て、涙一滴落さなかつた。女丈夫の雄々しさは誠に女性の隠忍性の精華でありませう。斯うした母政岡の子に、千松の如き忠義の化身とも云ふべき子が生れる。持つべきものは子なる哉。選ぶべきものは母なる哉であります。如何にも「忠義は千代末代まで、又あるまじき烈女の鑑」であります。然し此の烈女にも、多分の涙があつた。「母が常々教へておいた事、雅心に聞き分けて、手詰になつた毒害を、よう試みて死んでたもつたのう、オ、出かしつた、そなたの命は出羽奥州五十四郡の一家中、所存の臍を固めさす、誠に國の礎ぞや」と我子の死に榮えを賞讃したのは、せめてもの心慰めとして、泣く代りに斯う叫ばざるを得なかつた。而して之は烈女の泣き方であつたかも知れぬ。「とは云ふものゝ可愛いやな、君の御爲、かねてより、覺悟は極めて居ながらも、せめて人らしい者の手に、かゝつても死ぬ事が、素性卑しい銀兵衛が、女房連れの刃にかゝり、なぶり殺しを現在の、側に見て居る母が氣は、マどの様に、あらう、どうあらう」この邊から本當の女

の持つ、情愁綿々たるものがある。「思ひ廻せば此程から、うとうた歌に千松が、七つ八つから金山へ、一年待てども、未だ見へぬ、二年待てども未だ見へぬと、歌の中なる千松は、待つ甲斐ありて父母に、顔をば見する事もあら、同じ名の付千松は、そなたは百年待つたとて、千年萬年待つたとて、何の便りがあらうぞいの」

何と云ふ斷腸の一節でありませう。「三千世界に子を持つた、母の心は皆一つ、子の可愛さに毒なもの、食うなというて呵るのに、毒と見へたら試みて、死んでくれいと云ふやうな、胸慇懃な母親が、又と一人あるものか、武士の種に生れたは、果報か因果か、いちらしや、死ぬるを忠義という事は、何時の世からの、習せぞと」泣く。流石氣丈の政岡も、張りつめた鐵石心が、情にほぐれ初めては一倍も二倍も、悲しかつた。

あゝ、得難い女性ではある。それは作者の筆に弄された揚句、出来上つた女性ではあのだが再来、政岡の忠節に刺戟されて、忠烈鬼心を泣かしむる勇壯な物語りを、つぎから次へと、傳へ聞くは、蓋し、大和魂の精華の中には、此の政岡の女性の精神は、活々として生きて居るのであります。

(をはり)

脱稿言

著者は教鞭を捨て、から二十年になる。然し此間堪えず「女子教育」に就て放送をしたり講演をしたり著述をして居たが、此本を書いてくれと本屋から頼まれて非常に固くなつた。

と云ふのは、年來唱導力説して來た著者の「母」への考へとヒットラーの「母」への考へとが一致して居る事であつた。

私が二十年前小學校の教壇から下つたのは、女子教育に魂を入れ直して非常時日本の國の礎を愈々益々強固になす爲には「よき母」を作らねばならぬと思つたからである。

ドイツ國の今日の成功は其大半はヒットラーが「よき母」を完成したからであらう。

此の東西の「よき母」を紹介する事は何と大きな然も責任ある事であらうと思ふと固くなつてしまつた。

この稿を書き上げるには左の人々に多大の感謝を捧げるものである。何となれば左記の人々から其著や直接に色々と教へを乞ふて此著が生れたからである。

水戸部宙松先生(晩近歐米國民教育詳説)

尾高豊作先生(アツツヘ・トルガルデルヒ)
母性愛

佐々木秀一先生(最近ドイツ教育思想史)

白根孝之先生(最近ドイツ教育思想史)

熊谷巽堂先生(日本烈女傳)

田畑爲彦先生(驚異のドイツ)

光行 壽先生(獨逸青年運動研究)

新光 社(世界地理風俗大系)

小川 昇先生(婦人畫報)

森 三郎氏(ドイツ大使館内)
母と子の科學教育(東京朝日新聞社)
座談會講師各位

報知新聞社通信部(ヒトラー・ユーゲント)

小川正行先生(獨逸に於ける新教育)

尾高豊作先生(獨逸の新教育運動)

檜崎淺太郎先生(日本教育的心理學)

森崎善一先生(學べ! 獨逸國民生活)

室伏高信先生(ヒットラー我が闘争)

橋本文夫先生(婦人公論)

女子青年團指導員
マリオン嬢(ドイツ大使館附)

姜世 馨氏(日獨文化協會内)

千葉春村先生(婦女界社母之友叢書)

昭和十七年七月十五月初版印刷
昭和十七年七月二十日初版發行

(三〇〇〇部)

ナチスの女性

定價一圓五十錢

著者

波多野繁藏

發行者

東京市豊島區池袋二ノ一、二六
徳岡武

印刷者

東京市牛込區早稻田鶴巻町二二
松榮社印刷所
(東京三三二番) 松坂兵吉

(認承協文出)
ア 100105 號



發行所

東京市豊島區池袋二ノ八五興亞ビル
振替口座東京一六五一六一番
會員番號一一二二三五番

紙
硯
社

元 給 配
日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二ノ九

南方閣經濟研究所 渡邊 武史著

價 1.50

南方共榮圈と華僑

送 .15

家事及裁縫 編輯主任 林 勇記著

價 1.40

現代食物指導の研究

送 .15

家事及裁縫 編輯主任 林 勇記著

價 1.40

女子青年學校の經營

送 .15

陸軍獸醫中尉 宮井 佳夫著

價 2.00

軍馬と火戰

送 .15

醫學博士 豐島 烈 著

價 2.30

必ず治る 肺の療養法

送 .15

南方閣經濟研究所 渡邊 武史著

價 1.80

現代ビルマの經濟

送 .15

東京市營養技手 藤野 文子著

價 2.30

病人の營養と食餌

送 .15

家事及裁縫 編輯主任 林 勇記著

價 2.00

母子強健 食生活の新建設

送 .15

紙 硯 社

東京市池袋驛西口前興亞ビル

振替東京一六五一六一番

